

---

# ひたちなか市定住等に関する市民意識調査結果報告書

---

平成 27 年 12 月

ひたちなか市



# 目 次

<b>I 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1. 調査の目的と趣旨 .....	3
2. 調査の対象 .....	3
3. 調査票の配付・回収方法 .....	3
4. 調査期間 .....	3
5. 回収結果 .....	3
<b>II 調査結果の概要</b> .....	<b>5</b>
1. 定住意向意識調査 .....	7
2. 転入に関する意識調査 .....	
3. 転出に関する意識調査 .....	
<b>III 調査結果</b> .....	
1. 定住意向意識調査 .....	
(1) 性別 [問 1] .....	
(2) 年齢 [問 2] .....	
(3) 居住年数 [問 3] .....	
(4) 居住地区 [問 4] .....	
(5) 同居家族の構成 [問 5] .....	
(6) 就労状況 [問 6] .....	
(7) 仕事の業種, 職種, 就労形態 [問 6-1] .....	
(8) 勤務先 [問 6-2] .....	
(9) 現在の仕事に満足しているか [問 6-3] .....	
(10) 問 6-3 の回答の理由 [問 6-4] .....	
(11) 就労していない理由 [問 6-5] .....	
(12) 希望する業種, 職種, 就業形態 [問 6-6] .....	
(13) 就労する場合の希望勤務地 [問 6-7] .....	
(14) いつから市内にお住まいか [問 7] .....	
(15) 生まれはどちらか [問 7-1] .....	
(16) 転入前の住所地 [問 7-2] .....	
(17) 今後の市内定住意向 [問 8] .....	
(18) 市内に住み続けたい理由 [問 8-1] .....	
(19) 市外に移りたいと思う理由 [問 8-2] .....	
(20) 将来的に住みたいまち [問 8-3] .....	
(21) 問 8-3 の回答の理由 [問 8-4] .....	
(22) 現在の住まいの形態と, 将来的に希望する住まいの形態 [問 9] .....	
(23) 結婚の状況 [問 10] .....	
(24) 今後の結婚の希望 [問 10-1] .....	

(25) 何歳ぐらいで結婚したい（したかった）か [問 10-2]	.....
(26) 「結婚はしたいが難しい」または「結婚はしたくない」理由 [問 10-3]	.....
(27) 子どもの人数 [問 11]	.....
(28) 理想とする子どもの数 [問 12]	.....
(29) 子ども持つことの妨げになっている（なりそうな）こと [問 13]	.....
(30) 子育てをすすめるうえで、充実していると安心できること [問 14]	.....
(31) 人口減少社会におけるまちづくりについて [問 15]	.....
<b>2. 転入に関する意識調査</b>	.....
(1) 性別 [問 1]	.....
(2) 年齢 [問 2]	.....
(3) 職業 [問 3]	.....
(4) 勤務先 [問 4]	.....
(5) 居住地区 [問 5]	.....
(6) 転入前の住所地 [問 6]	.....
(7) 同居家族の構成（転入前・転入後） [問 7]	.....
(8) 住まいの形態（転入前・転入後） [問 8]	.....
(9) 転入の主なきっかけ [問 9]	.....
(10) 転入を決めた主な理由 [問 10]	.....
(11) 転入先を探したときの主な情報源 [問 11]	.....
(12) 前住地と比較したひたちなか市の住み心地 [問 12]	.....
(13) 住みよさを感じる部分 [問 12-1]	.....
(14) 住みにくさを感じる部分 [問 12-2]	.....
(15) 人口減少社会におけるまちづくりについて [問 13]	.....
<b>3. 転出に関する意識調査</b>	.....
(1) 性別 [問 1]	.....
(2) 年齢 [問 2]	.....
(3) 職業 [問 3]	.....
(4) 市内居住年数 [問 4]	.....
(5) 居住地区 [問 5]	.....
(6) 転出後の住所地 [問 6]	.....
(7) 同居家族の構成（転出前・転出後） [問 7]	.....
(8) 住まいの形態（転出前・転出後） [問 8]	.....
(9) 転出の主なきっかけ [問 9]	.....
(10) 転出を決めた主な理由 [問 10]	.....
(11) 転出前に市内での転居を検討したかどうか [問 11]	.....
(12) 将来ひたちなか市に戻ることがあると思うか [問 12]	.....
(13) 戻るとしたらそのきっかけは [問 12-1]	.....
(14) ひたちなか市で就職する方の増加のために必要と思うこと [問 13]	.....

**IV 調査票**.....

## I 調査の概要



## 1. 調査の目的と趣旨

本調査は、市民の定住意向や転入・転出の実態等について把握し、「ひたちなか市人口ビジョン及び総合戦略」の策定や、今後の施策推進の基礎資料とするために実施した。

## 2. 調査の対象

### (1) 定住意向調査

⇒3年以上市内に在住する18歳以上39歳以下より2,000名

### (2) 転入に関する意識調査

⇒過去3年以内の本市への転入者の内50歳以下の世帯主1,000名

### (3) 転出に関する意識調査

⇒過去3年以内の本市からの転出者の内50歳以下の世帯主1,000名

## 3. 調査票の配付・回収方法

配付・回収ともに、郵送により実施

## 4. 調査期間

	実施年月
調査票の設計	平成27年 8月～9月
調査期間	9月10日(木)～9月28日(月)
調査票の入力・集計	9月～10月

## 5. 回収結果

対象種別	定住意向	転入者	転出者
配付票数	2,000票	1,000票	1,000票
回収票数	1,066票	407票	327票
回収率	53.3%	40.7%	32.7%





## Ⅱ 調査結果の概要



## 1. 定住意向意識調査

### (1) 回答者自身について

- ・「男性」が5割弱，「女性」が5割強でやや女性の割合が高い。
- ・「20歳代以下」が4割台半ば，「30歳代」が5割台半ば。
- ・居住年数は「20～30年未満」が約3割，「10～20年未満」が2割台半ば，「30年以上」が約2割で，10年以上の居住年数の方が7割台半ばを占める。
- ・居住地区は「勝田第一中学校区」「佐野中学校区」の割合が2割弱でやや高い一方，「阿字ヶ浦中学区」「平磯中学区」の割合は低い。
- ・同居家族の構成は，「二世帯同居（親と子どもが同居）」の割合が8割弱で最も高い。

### (2) 就労について

- ・「就労している」方の割合が約7割，「就労していない」方は約3割。
- ・業種では「製造業」「医療，福祉」「卸売業，小売業」，職種では「技術職」「専門職」「事務職」の順に割合が高く，就労形態は「正規の職員・従業員」の割合が6割台半ば，「パート・アルバイト」が2割弱。
- ・勤務先は「ひたちなか市内（自宅勤務を含む）」が5割強，「ひたちなか市以外の茨城県内」が4割強と，『茨城県内』で勤務する方の割合は9割台半ばを超える。
- ・現在の仕事に満足している方の割合は5割台半ば。
- ・就労していない理由として，4割台半ばを占めた「在学中」を除くと，「子育てで忙しい」が2割強，「求職中」が1割台半ばで上位に挙げられた。
- ・希望する業種は「医療，福祉」「公務」「教育，学習支援業」，職種は「専門職」「事務職」「サービス職」の順に割合が高く，就労形態は「正規の職員・従業員」の割合が6割弱，「パート・アルバイト」が3割強。
- ・希望する勤務地は「ひたちなか市内（自宅勤務を含む）」が約5割で半数を占め，「場所は問わない」が約2割，「東京圏」が1割強。

### (3) 定住意向などについて

- ・「転入してきた時から」が約5割，「生まれた時からずっと」は5割弱でやや転入してきた方の割合が高い。
- ・転入してきた方の生まれは，「茨城県内の他の市町村」が5割弱，「その他」が3割台半ば，「ひたちなか市」が1割強で，「茨城県内の他の市町村」では「水戸市」「日立市」，「その他」の都道府県では「東京都」「福島県」等が上位に挙げられた。
- ・転入前の住所地は，「茨城県内の他の市町村」が6割強，「その他」が3割台半ばで，「茨城県内の他の市町村」では「水戸市」「日立市」「東海村」，「その他」の都道府県では「東京都」「神奈川県」「千葉県」等が上位に挙げられた。
- ・「住み続けたい」と「市内の別の場所に移りたい」を合わせた『住み続けたい』の回答が6割強で，「市外に移りたい」の1割を大きく上回る一方，「わからない

い」も2割台半ばで約4人に1人の割合。

- ・市内に住み続けたい理由は、「日常の買い物等が便利だから」「親・子・親族等との同居・近居のため」がともに5割弱で上位に挙げられた。
- ・市外に移りたいと思う理由は、「通勤・通学先が市外にあるから」が3割弱、「道路事情や交通の便が良くないから」が2割強、「教育や文化的な環境が十分でないから」が約2割で上位に挙げられた。
- ・将来的に住みたいまちは、「茨城県内の他の市町村」が約3割、「その他」が4割強で、「茨城県内の他の市町村」では「水戸市」「つくば市」「東海村」,「その他」の都道府県では「東京都」「千葉県」「神奈川県」等が上位に挙げられた。
- ・現在の住まいの形態で、「持家（戸建）」が6割台半ばであったのに対し、将来希望する住まいの形態では、「持家（戸建）」が7割強と増加。

#### (4) 結婚・出産・子育ての状況、意識について

- ・「未婚」が5割強に対し、「既婚、または近々結婚の予定がある」が4割台半ばでやや既婚の割合が高い。
- ・今後の結婚の希望では、「早めに結婚したい」と「いずれは結婚したい」を合わせた『結婚に前向き』な回答は6割台半ば、「結婚はしたいが難しい」と「結婚はしたくない」を合わせた『結婚に消極的』な回答は1割台半ば。
- ・結婚したい（したかった）年齢は、「25～29歳」が5割強を占め、「30～34歳」が約2割。
- ・「結婚はしたいが難しい」または「結婚はしたくない」理由は、「結婚したい相手にまだめぐり合わない」が約3割、「自由や気楽さを失いたくない」が2割台半ば、「異性にめぐり会う機会（場）がない」が2割強で上位に挙げられた。
- ・現在の子どもの人数は、6割弱を占めた「いない」を除き、「2人」,「1人」,「3人」の順に割合が高い。
- ・理想とする子どもの数は、「2人」が5割台半ば,「3人」が2割台半ば。
- ・子どもを持つことの妨げになっている（なりそうな）ことは、「経済的に厳しいから」が6割強,「子育てと仕事の両立が難しいから」が4割強,「年齢や健康上の理由」が約2割で上位に挙げられた。
- ・子育てをすすめるうえで、充実していると安心できることは、「医療体制（小児科,休日や夜間の診療など）」が約5割,「経済的支援（子ども医療費助成,児童手当,出産育児一時金など）」が4割台半ば,「保育サービス（保育所,一時保育など）」が4割強で上位に挙げられた。

#### (5) 人口減少社会におけるまちづくりについて

- ・人口減少社会を見据えた取り組みとして力を入れるべき施策は,「子育て支援の充実」が7割弱,「医療福祉の充実」が5割台半ばで特に割合が高く,「未婚化・晩婚化への対策」が2割台半ばで比較的上位に挙げられた。

## 2. 転入に関する意識調査

### (1) 回答者自身について

- ・「男性」が7割台半ば、「女性」が2割台半ばで男性の割合が高い。
- ・「20歳代以下」が3割強、「30歳代」が約4割、「40歳代」が3割弱。
- ・職業は「専門・技術職（医療・弁護士・会計士・教員・技術者など）」が3割台半ば、「作業職（工場・現場作業員など）」「事務職（事務従事者）」「販売・サービス職（セールスマン・保険外交員・店員など）」が1割強から1割台半ばで上位となっている。
- ・勤務先は「ひたちなか市内（自宅勤務を含む）」が5割台半ば、「ひたちなか市以外の茨城県内」が3割台半ばと、『茨城県内』で勤務する方の割合は約9割。
- ・居住地は「勝田第一中学区」が約2割、「勝田第二中学区」「田彦中学区」がともに1割台半ばでやや高い一方、「阿字ヶ浦中学区」「平磯中学区」「那珂湊中学区」「勝田第三中学区」の割合は低い。
- ・転入前の住所地は、都道府県別では「茨城県」が圧倒的に多く、市区町村別では県内で「水戸市」「日立市」「東海村」「那珂市」、次いで人口規模の大きい「東京都23区」「札幌市」「横浜市」などが上位になっている。
- ・同居家族の構成は、転入前では「二世帯同居（親と子どもが同居）」の割合が4割台半ばで最も高いが、転入後は「単身」の割合が最も高くなっている。
- ・転入前の住まいの形態で、「持家（戸建）」が2割台半ばであったのに対し、転入後の住まいの形態では、「持家（戸建）」が約2割と減少。一方、「賃貸住宅（マンション・アパート等）」、「社宅・独身寮等」は微増。

### (2) 転入のきっかけやひたちなか市の住み心地など

- ・転入の主なきっかけは、「あなたの仕事の都合」が5割台半ば、「住宅の都合」が1割台半ば、「結婚のため」が約1割で上位に挙げられた。
- ・転入を決めた主な理由は、「通勤・通学先があるから」が5割弱、「自分や家族の通勤・通学に便利だから」が3割強、「親・子・親族等との同居・近居のため」が約2割で上位に挙げられた。
- ・転入先を探したときの主な情報源は、「インターネット（掲示板、関連サイト等）」が約4割、「親族・知人・友人の口コミ」が約2割、「住宅情報誌」が1割強で上位に挙げられた。
- ・前住地と比較したひたちなか市の住み心地は、「住みよい」と「どちらかと言えば住みよい」をあわせた『住みよい』の回答は5割台半ばで、「住みにくい」と「どちらかと言えば住みにくい」をあわせた『住みにくい』の割合の2倍を超えている。
- ・住みよさを感じる部分には、「生活利便性（買い物ほか）が高い」、「交通の利便性が高い」、「都会過ぎず、田舎過ぎない、静か等」など、住みにくさを感じる部分には、「公共交通が不便」、「生活利便性（買い物ほか）が低い」、「子育て・教育環境が不十分」などが上位に挙げられた。

### (3) 人口減少社会におけるまちづくりについて

- ・人口減少社会を見据えた取り組みとして力を入れるべき施策は、「子育て支援の充実」が6割台半ば、「医療福祉の充実」が4割台半ばで割合が高く、そのほか「観光の振興」「移住・定住対策」「商業・サービス業の振興」「未婚化・晩婚化への対策」が2割台半ばで比較的上位に挙げられた。

## 3. 転出に関する意識調査

### (1) 回答者自身について

- ・「男性」が7割台半ば、「女性」が2割台半ばで男性の割合が高い。
- ・「20歳代以下」が約2割、「30歳代」が5割弱、「40歳代」が約3割。
- ・職業は「専門・技術職（医療・弁護士・会計士・教員・技術者など）」が3割強、「事務職（事務従事者）」「作業職（工場・現場作業員など）」「販売・サービス職（セールスマン・保険外交員・店員など）」が約1割から1割台半ばで上位となっている。
- ・居住年数は「3年未満」が3割台半ば、「3～5年未満」「5～10年未満」が約2割で、10年未満の居住年数の方が7割台半ばを占める。
- ・居住地は「勝田第一中学区」が約2割、「大島中学区」「勝田第二中学区」「佐野中学区」「田彦中学区」が1割強から1割台半ばでやや高い一方、「阿字ヶ浦中学区」「平磯中学区」「那珂湊中学区」「勝田第三中学区」の割合は低い。
- ・転出後の住所地は、都道府県別では「茨城県」が圧倒的に多く、市区町村別では「水戸市」「那珂市」「東京都23区」「東海村」「日立市」などが上位になっている。
- ・同居家族の構成は、転出前では「単身」の割合が4割台半ばで最も高いが、転出後は「二世帯同居（親と子どもが同居）」の割合が最も高くなっている。
- ・転出前の住まいの形態では、「持家（戸建）」が約1割であるのに対し、「賃貸住宅（マンション・アパート等）」が約6割と高い割合だが、転出後の住まいの形態では、「持家（戸建）」が約3割と増加する一方、「賃貸住宅（マンション・アパート等）」は4割台半ばへと割合を下げた。

### (2) 転出のきっかけや将来ひたちなか市へ戻る可能性など

- ・転出の主なきっかけは、「あなたの仕事の都合」が約5割、「住宅の都合」が1割強、「結婚のため」が約1割で上位に挙げられた。
- ・転出を決めた主な理由は、「通勤・通学先があるから」が4割弱、「親・子・親族等との同居・近居のため」が3割弱、「自分や家族の通勤・通学に便利だから」が2割強で上位に挙げられた。
- ・転出前に市内での転居を検討したかどうかでは、「他の市町村に住む選択肢しかなかった（勤務先が遠方になり通えなくなった、結婚で遠方に住むことになったなど）」が半数を超えており、「最初から他の市町村に決めていたので、ひたちなか市は検討しなかった」と回答した方とあわせると、約8割の方が市内での転居

の可能性がなかった（考えなかった）という結果となった。

- 将来ひたちなか市に戻ることがあると思うかでは、半数近くの方が「戻る可能性はない」と回答。しかし、「いずれ戻るつもりである」と「戻る可能性はある」を合わせた『将来的に戻る可能性がある』方は2割台半ばで、約4人に1人の割合となっている。
- ひたちなか市に戻る場合のきっかけでは、「就職や転職を機に」が3割台半ば、「住宅の取得や建築を機に」が2割台半ばで上位に挙げられた。
- ひたちなか市で就職する方の増加のために必要と思うことでは、「働きたいと思うような企業が多くできる」が約5割、「給料がよい就職先が多くできる」が4割強、「地元の経済が活性化する」4割弱で上位に挙げられた。





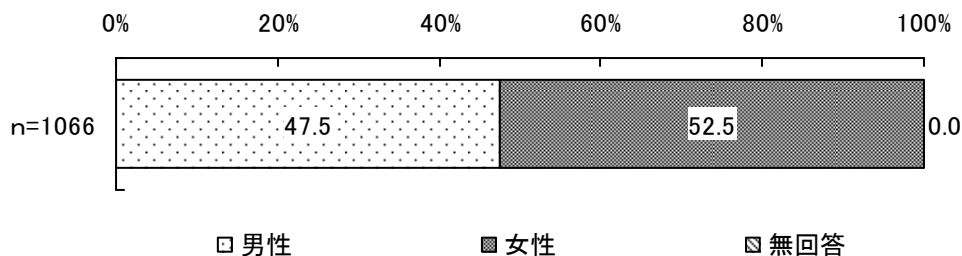
### Ⅲ 調査結果



# 1. 定住意向意識調査

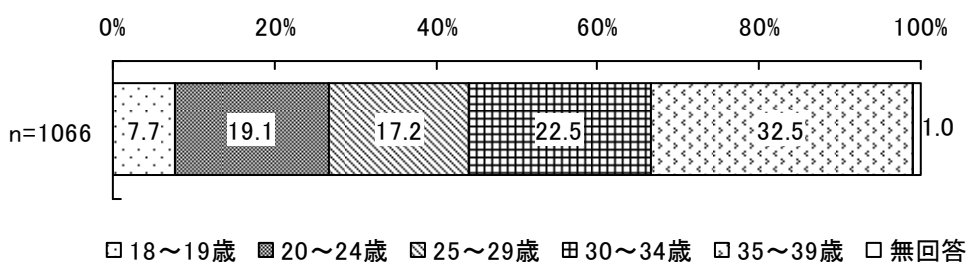
## (1) 性別 [問 1]

「男性」の割合が 47.5%，「女性」が 52.5%となっている。



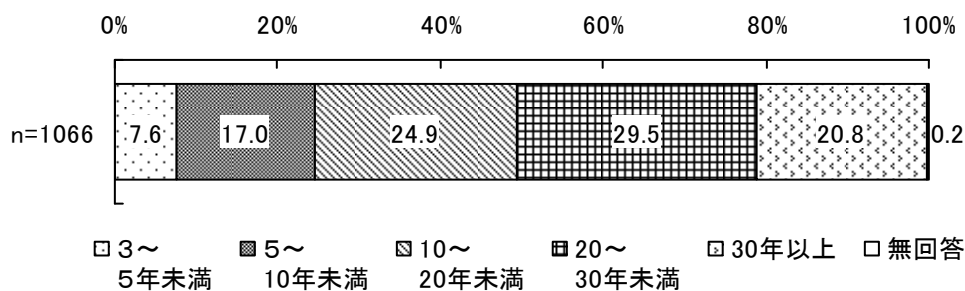
## (2) 年齢 [問 2]

「35～39 歳」(32.5%)の割合が最も高く、次いで「30～34 歳」(22.5%)，「20～24 歳」(19.1%)などとなっている。



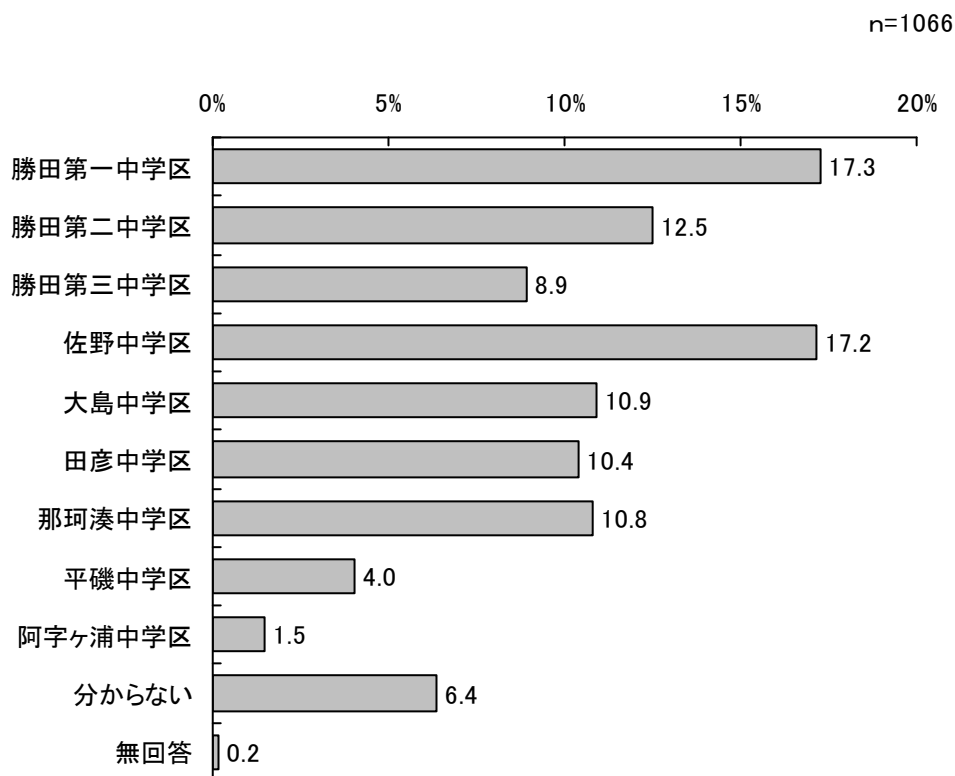
## (3) 居住年数 [問 3]

「20～30 年未満」(29.5%)の割合が最も高く、次いで「10～20 年未満」(24.9%)，「30 年以上」(20.8%)などとなっている。



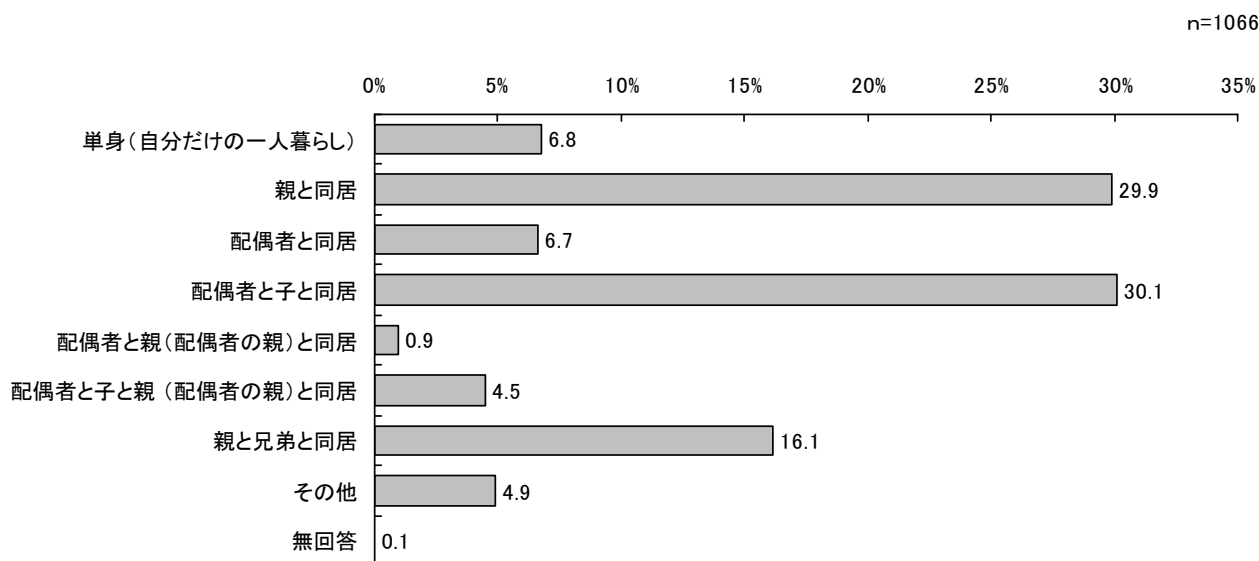
#### (4) 居住地区 [問 4]

「勝田第一中学校区」(17.3%)の割合が最も高く、次いで「佐野中学区」(17.2%)、「勝田第二中学区」(12.5%)などとなっている。

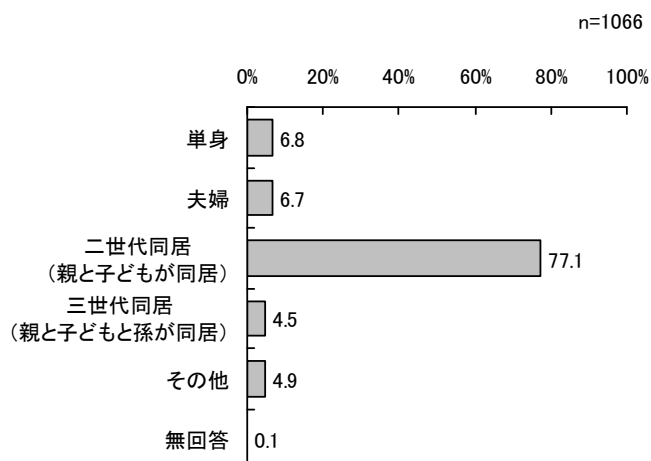


#### (5) 同居家族の構成 [問 5]

「配偶者と子と同居」(30.1%)の割合が最も高く、次いで「親と同居」(29.9%)、「親と兄弟と同居」(16.1%)などとなっている。

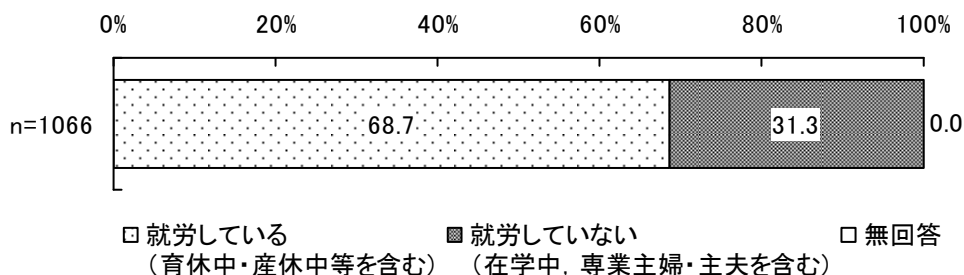


同居家族の構成について下記グラフのように再分類すると、「二世世代同居（親と子どもが同居）」の割合が圧倒的に高くなっている。



### (6) 就労状況 [問 6]

「就労している（育休中・産休中等を含む）」の割合が 68.7%，「就労していない（在学中，専業主婦・主夫を含む）」が 31.3% となっている。



男女別では、「就労している」割合は男性が高い。

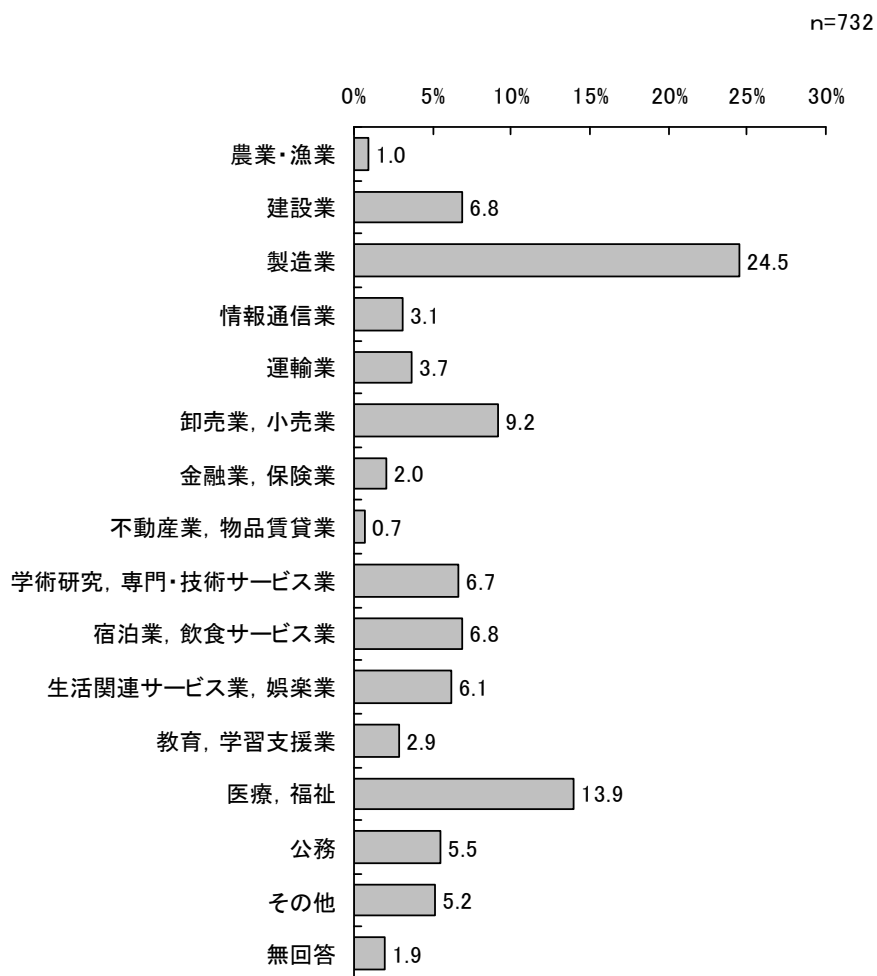
年齢別では、学生が多く含まれる 24 歳以下を除き、25～29 歳では 8 割以上が就労しているが、30～34 歳，35～39 歳と年齢が上がるごとに就労している方の割合は微減となっている。

### ■ 男女・年齢別

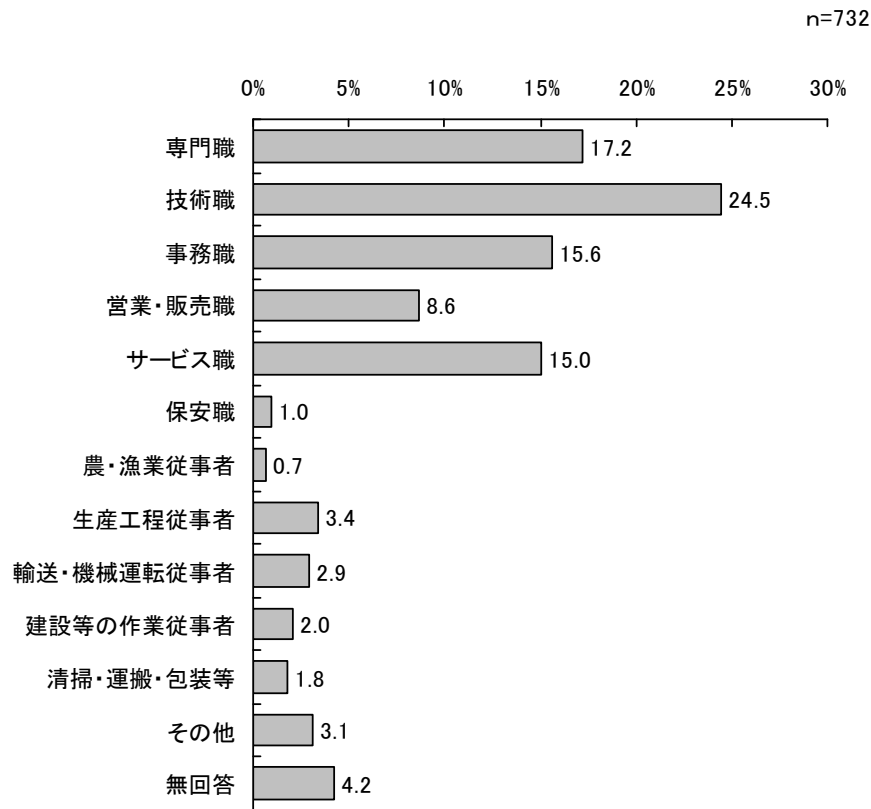
上段:件 下段:%	合計	就労して いる(育 休中・産 休中等を 含む)	就労して いない (在学 中，専業 主婦・主 夫を含 む)	無回答
全体	1066 100.0	732 68.7	334 31.3	0 0.0
男性	506 100.0	389 76.9	117 23.1	0 0.0
女性	560 100.0	343 61.3	217 38.8	0 0.0
18～19歳	82 100.0	14 17.1	68 82.9	0 0.0
20～24歳	204 100.0	104 51.0	100 49.0	0 0.0
25～29歳	183 100.0	150 82.0	33 18.0	0 0.0
30～34歳	240 100.0	191 79.6	49 20.4	0 0.0
35～39歳	346 100.0	264 76.3	82 23.7	0 0.0

(7) 仕事の業種, 職種, 就労形態 [問 6-1]

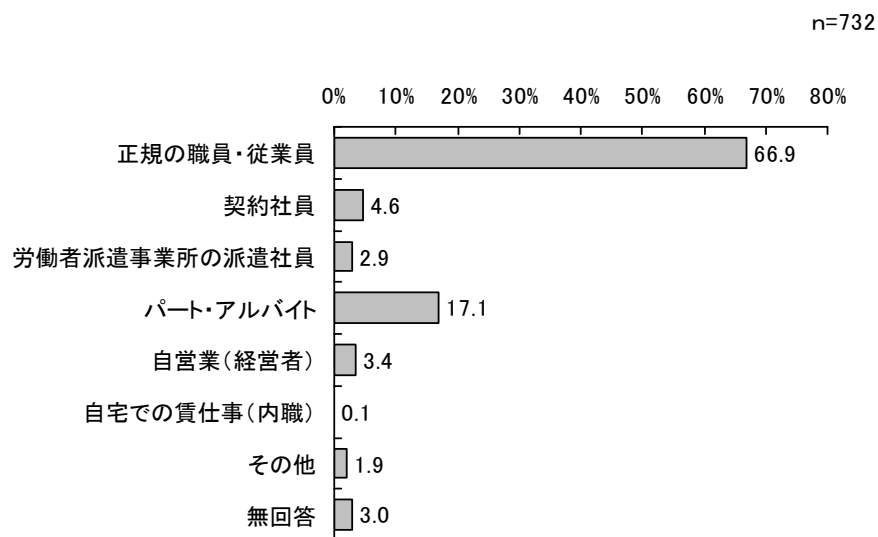
「製造業」(24.5%)の割合が最も高く, 次いで「医療, 福祉」(13.9%), 「卸売業, 小売業」(9.2%)などとなっている。



「技術職」（24.5%）の割合が最も高く、次いで「専門職」（17.2%）, 「事務職」（15.6%）などとなっている。



「正規の職員・従業員」（66.9%）の割合が最も高く、次いで「パート・アルバイト」（17.1%）, 「契約社員」（4.6%）などとなっている。



男女別でみると、男性では「正規の職員・従業員」、女性で「パート・アルバイト」の割合が高い。

年齢別では、20代で7割以上が「正規の職員・従業員」だが、30代では「正規の職員・従業員」は6割台にとどまっている。また、30～34歳では「契約社員」が約1割となっており、他の年代よりも割合が高くなっている。

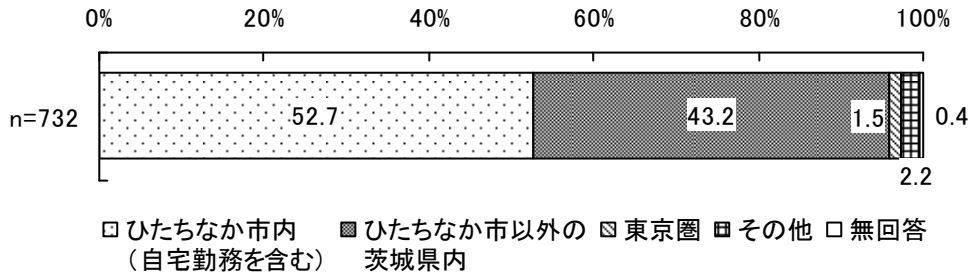
### ■男女・年齢別

上段:件 下段:%	合計	正規の職員・従業員	契約社員	労働者派遣事業所の派遣社員	パート・アルバイト	自営業(経営者)	自宅での賃仕事(内職)	その他	無回答
全体	732 100.0	490 66.9	34 4.6	21 2.9	125 17.1	25 3.4	1 0.1	14 1.9	22 3.0
男性	389 100.0	320 82.3	14 3.6	9 2.3	16 4.1	16 4.1	0 0.0	0 0.0	14 3.6
女性	343 100.0	170 49.6	20 5.8	12 3.5	109 31.8	9 2.6	1 0.3	14 4.1	8 2.3
18～19歳	14 100.0	8 57.1	1 7.1	0 0.0	3 21.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 14.3
20～24歳	104 100.0	74 71.2	7 6.7	2 1.9	15 14.4	1 1.0	0 0.0	1 1.0	4 3.8
25～29歳	150 100.0	109 72.7	2 1.3	4 2.7	25 16.7	3 2.0	0 0.0	4 2.7	3 2.0
30～34歳	191 100.0	117 61.3	19 9.9	6 3.1	33 17.3	8 4.2	0 0.0	2 1.0	6 3.1
35～39歳	264 100.0	174 65.9	5 1.9	9 3.4	49 18.6	13 4.9	1 0.4	6 2.3	7 2.7



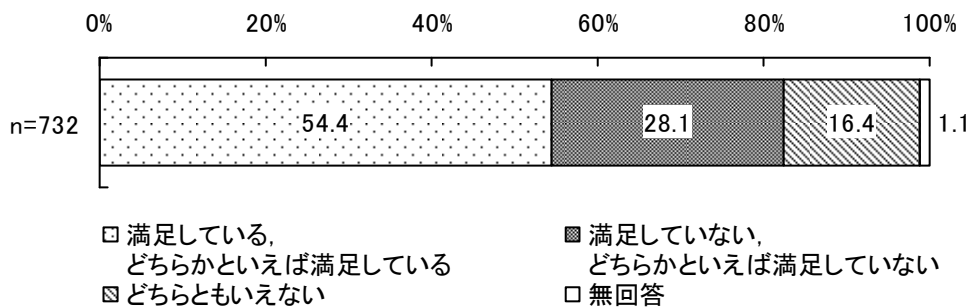
(8) 勤務先 [問 6-2]

「ひたちなか市内（自宅勤務を含む）」の割合が 52.7%で最も高く、次いで「ひたちなか市以外の茨城県内」が 43.2%となっており、『茨城県内』で勤務する方の割合は 9 割台半ばを超えている。



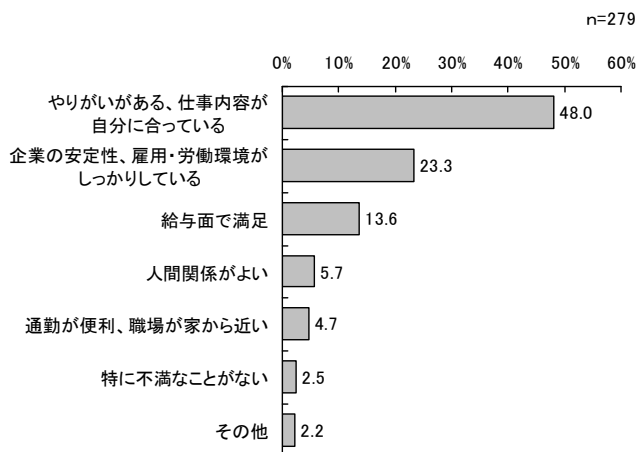
(9) 現在の仕事に満足しているか [問 6-3]

「満足している，どちらかといえば満足している」が 54.4%に対し，「満足していない，どちらかといえば満足していない」が 28.1%となっている。

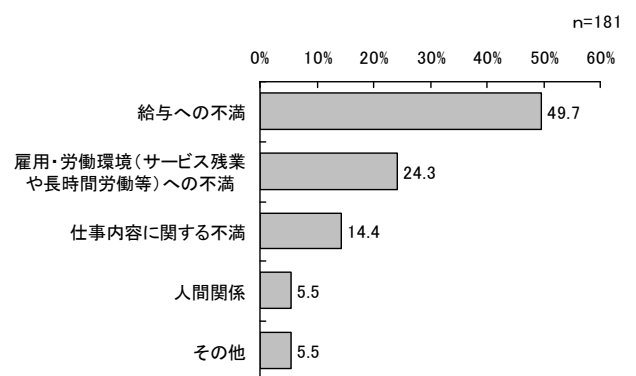


(10) 問 6-3 の回答の理由 [問 6-4]

「満足している，どちらかといえば満足している」と回答した方



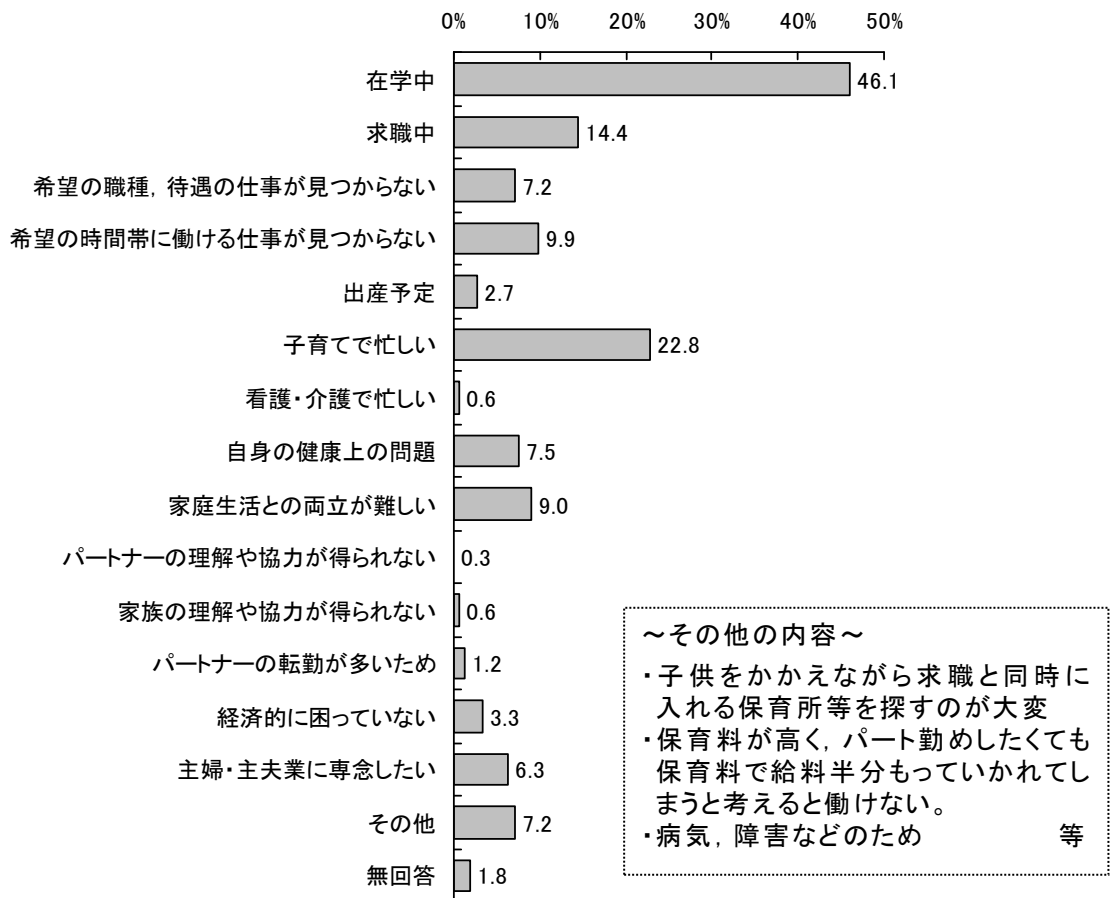
「満足していない，どちらかといえば満足していない」と回答した方



(11) 就労していない理由 [問 6-5]

「在学中」(46.1%)の割合が最も高く、次いで「子育てで忙しい」(22.8%)、「求職中」(14.4%)などとなっている。

n=334



男女別では、「子育てで忙しい」と「家庭生活との両立が難しい」及び「希望の時間帯に働ける仕事が見つからない」で男性の回答が0件かまたはほとんどなく、ほぼ女性の回答となっている。

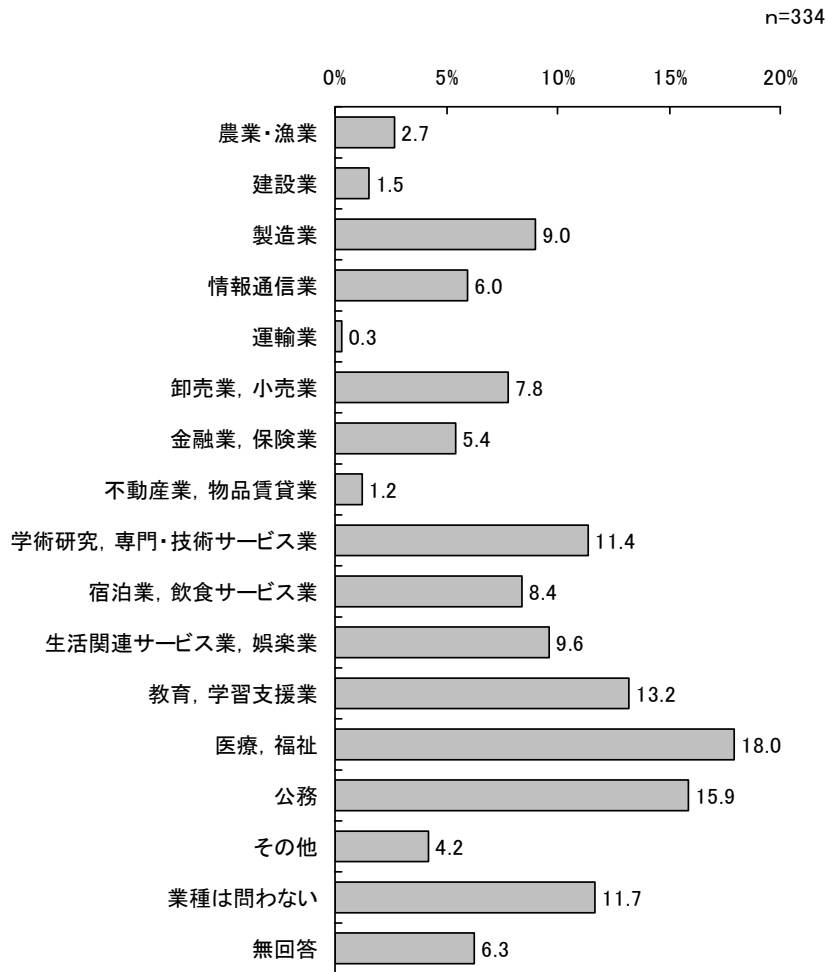
年齢別では、18～24歳までは「在学中」の割合が高く、25～29歳では「求職中」または「子育てで忙しい」、30～39歳では「子育てで忙しい」が最も高くなっている。

■男女・年齢別

上段: 件 下段: %	合計	在学中	求職中	希望の職種, 待遇の仕事が見つからない	希望の時間帯に働ける仕事が見つからない	出産予定	子育てで忙しい	看護・介護で忙しい	自身の健康上の問題	家庭生活との両立が難しい	パートナーの理解や協力が得られない	家族の理解や協力が得られない	パートナーの転勤が多いため	経済的に困っていない	主婦・主夫業に専念したい	その他	無回答	
全体	334 100.0	154 46.1	48 14.4	24 7.2	33 9.9	9 2.7	76 22.6	2 0.6	25 7.5	30 9.0	1 0.3	2 0.6	4 1.2	11 3.3	21 6.3	24 7.2	6 1.8	
男性	117 100.0	78 66.7	20 17.1	9 7.7	2 1.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 9.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.0	0 0.0	7 6.0	2 1.7
女性	217 100.0	76 35.0	28 12.9	15 6.9	31 14.3	9 4.1	76 35.0	2 0.9	14 6.5	30 13.8	1 0.5	2 0.9	4 1.8	10 4.6	21 9.7	17 7.8	4 1.8	
18～19歳	68 100.0	64 94.1	1 1.5	0 0.0	0 0.0	1 1.5	0 0.0	0 0.0	1 1.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.5	1 1.5
20～24歳	100 100.0	87 87.0	7 7.0	4 4.0	1 1.0	0 0.0	3 3.0	0 0.0	5 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 2.0	1 1.0	2 2.0	2 2.0
25～29歳	33 100.0	2 6.1	11 33.3	6 18.2	6 18.2	3 9.1	11 33.3	1 3.0	3 9.1	5 15.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.0	1 3.0	4 12.1	5 15.2	0 0.0
30～34歳	49 100.0	0 0.0	9 18.4	3 6.1	9 18.4	3 6.1	22 44.9	0 0.0	9 18.4	7 14.3	1 2.0	0 0.0	0 0.0	2 4.1	2 18.4	9 10.2	5 4.1	2 4.1
35～39歳	82 100.0	0 0.0	19 23.2	11 13.4	17 20.7	2 2.4	40 48.8	1 1.2	7 8.5	18 22.0	0 0.0	2 2.4	2 2.4	6 7.3	7 8.5	11 13.4	1 1.2	

(12) 希望する業種，職種，就業形態 [問 6-6]

希望する業種では，「医療，福祉」（18.0%）の割合が最も高く，次いで「公務」（15.9%），「教育，学習支援業」（13.2%）などとなっている。



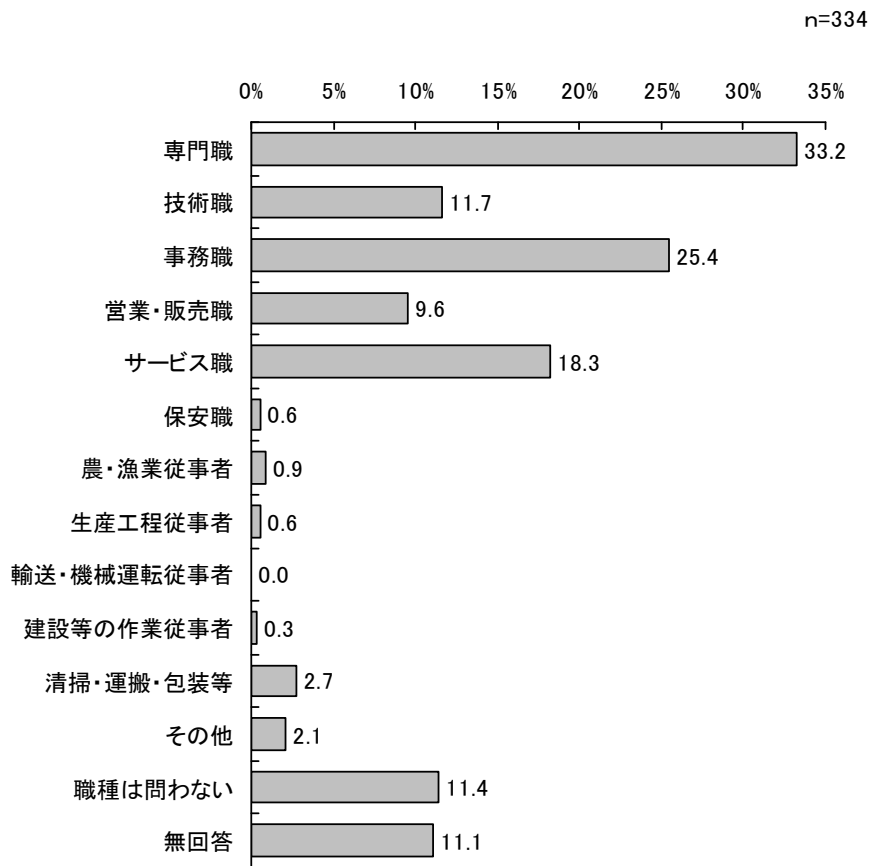
男女別でみると，男性は「公務」「学術研究，専門・技術サービス業」の割合が高く，女性は「医療，福祉」「教育，学習支援業」が高くなっている。

年齢別では，24歳以下の若い年代で「公務」「教育，学習支援業」「学術研究，専門・技術サービス業」，30歳以上では「製造業」「卸売業，小売業」「宿泊業，飲食サービス業」「生活関連サービス業，娯楽業」などが比較的高い。ただし，25歳以上では「業種は問わない」との回答も一定程度みられる。「医療，福祉」に関してはどの年代においても希望する割合が高い。

■ 男女・年齢別

上段:件 下段:%	合計	農業・漁業	建設業	製造業	情報通信業	運輸業	卸売業，小売業	金融業，保険業	不動産業，物品賃貸業	学術研究，専門・技術サービス業	宿泊業，飲食サービス業	生活関連サービス業，娯楽業	教育，学習支援業	医療，福祉	公務	その他	業種は問わない	無回答
全体	334 100.0	9 2.7	5 1.5	30 9.0	20 6.0	1 0.3	26 7.8	18 5.4	4 1.2	38 11.4	28 8.4	32 9.6	44 13.2	60 18.0	53 15.9	14 4.2	39 11.7	21 6.3
男性	117 100.0	5 4.3	2 1.7	12 10.3	12 10.3	0 0.0	6 5.1	11 9.4	2 1.7	22 18.8	3 2.6	11 9.4	7 6.0	12 10.3	31 26.5	6 5.1	8 6.8	7 6.0
女性	217 100.0	4 1.8	3 1.4	18 8.3	8 3.7	1 0.5	20 9.2	7 3.2	2 0.9	16 7.4	25 11.5	21 9.7	37 17.1	48 22.1	22 10.1	8 3.7	31 14.3	14 6.5
18～19歳	68 100.0	2 2.9	1 1.5	5 7.4	4 5.9	0 0.0	2 2.9	6 8.8	1 1.5	10 14.7	2 2.9	5 7.4	14 20.6	16 23.5	18 26.5	3 4.4	1 1.5	1 1.5
20～24歳	100 100.0	5 5.0	2 2.0	6 6.0	9 9.0	1 1.0	5 5.0	9 9.0	0 0.0	21 21.0	4 4.0	6 6.0	12 12.0	15 15.0	24 24.0	2 2.0	8 8.0	3 3.0
25～29歳	33 100.0	0 0.0	0 0.0	2 6.1	1 3.0	0 0.0	4 12.1	0 0.0	2 6.1	2 6.1	5 15.2	1 3.0	3 9.1	7 21.2	2 6.1	1 3.0	10 30.3	2 6.1
30～34歳	49 100.0	0 0.0	1 2.0	7 14.3	2 4.1	0 0.0	5 10.2	2 4.1	1 2.0	1 2.0	5 10.2	10 20.4	4 8.2	10 20.4	1 2.0	3 6.1	7 14.3	6 12.2
35～39歳	82 100.0	2 2.4	1 1.2	10 12.2	4 4.9	0 0.0	10 12.2	1 1.2	0 0.0	4 4.9	12 14.6	10 12.2	10 12.2	12 14.6	6 7.3	5 6.1	13 15.9	9 11.0

希望する職種では「専門職」（33.2%）の割合が最も高く、次いで「事務職」（25.4%）、「サービス職」（18.3%）などとなっている。



男女別でも男女ともに「専門職」の割合が高いほか、男性では「技術職」、女性では「事務職」「サービス職」などが高くなっている。

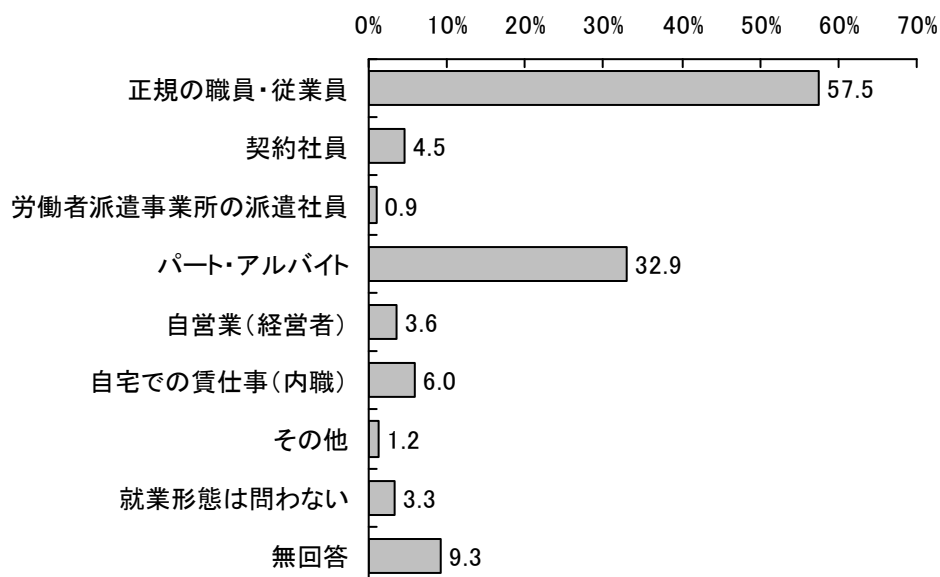
年齢別でみると、24歳以下の若い年代で「専門職」「技術職」、30歳以上では「サービス職」が比較的高い。一方、25～34歳では「職種は問わない」の割合が高くなっている。その他、各年代を通して一定の希望があるのは「事務職」である。

### ■男女・年齢別

上段:件 下段:%	合計	専門職	技術職	事務職	営業・販売職	サービス職	保安職	農・漁業従事者	生産工程従事者	輸送・機械運転従事者	建設等の作業従事者	清掃・運搬・包装等	その他	職種は問わない	無回答
全体	334 100.0	111 33.2	39 11.7	85 25.4	32 9.6	61 18.3	2 0.6	3 0.9	2 0.6	0 0.0	1 0.3	9 2.7	7 2.1	38 11.4	37 11.1
男性	117 100.0	40 34.2	28 23.9	21 17.9	6 5.1	9 7.7	2 1.7	2 1.7	1 0.9	0 0.0	1 0.9	3 2.6	2 1.7	13 11.1	18 15.4
女性	217 100.0	71 32.7	11 5.1	64 29.5	26 12.0	52 24.0	0 0.0	1 0.5	1 0.5	0 0.0	0 0.0	6 2.8	5 2.3	25 11.5	19 8.8
18～19歳	68 100.0	35 51.5	13 19.1	15 22.1	2 2.9	8 11.8	1 1.5	1 1.5	0 0.0	0 0.0	1 1.5	1 1.5	2 2.9	2 2.9	5 7.4
20～24歳	100 100.0	40 40.0	16 16.0	25 25.0	12 12.0	7 7.0	1 1.0	1 1.0	1 1.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.0	9 9.0	15 15.0
25～29歳	33 100.0	6 18.2	0 0.0	7 21.2	6 18.2	6 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 30.3	6 18.2
30～34歳	49 100.0	7 14.3	1 2.0	14 28.6	1 2.0	17 34.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 14.3	2 4.1	9 18.4	3 6.1
35～39歳	82 100.0	22 26.8	9 11.0	23 28.0	11 13.4	22 26.8	0 0.0	1 1.2	1 1.2	0 0.0	0 0.0	1 1.2	2 2.4	8 9.8	8 9.8

希望する就業形態では、「正規の職員・従業員」（57.5%）の割合が最も高く、次いで「パート・アルバイト」（32.9%）、「自宅での賃仕事（内職）」（6.0%）などとなっている。

n=334



男女別でみると、男性では「正規の職員・従業員」が7割台半ばで圧倒的に高くなっているのに比べ、女性では「パート・アルバイト」と「正規の職員・従業員」がともに5割弱で、「契約社員」や「自宅での賃仕事（内職）」も一定の割合を示している。

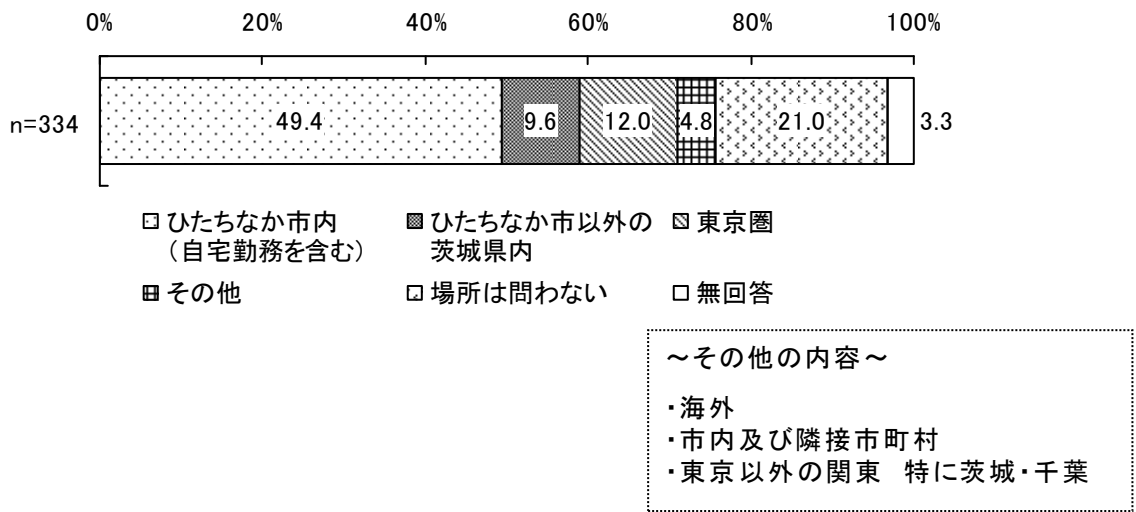
年齢別でみると、24歳以下の若い年代では「正規の職員・従業員」、25歳以上では「パート・アルバイト」の割合が高い。

### ■男女・年齢別

上段:件 下段:%	合計	正規の職員・従業員	契約社員	労働者派遣事業所の派遣社員	パート・アルバイト	自営業(経営者)	自宅での賃仕事(内職)	その他	就業形態は問わない	無回答
全体	334 100.0	192 57.5	15 4.5	3 0.9	110 32.9	12 3.6	20 6.0	4 1.2	11 3.3	31 9.3
男性	117 100.0	87 74.4	1 0.9	0 0.0	6 5.1	7 6.0	1 0.9	1 0.9	6 5.1	17 14.5
女性	217 100.0	105 48.4	14 6.5	3 1.4	104 47.9	5 2.3	19 8.8	3 1.4	5 2.3	14 6.5
18～19歳	68 100.0	61 89.7	1 1.5	0 0.0	0 0.0	4 5.9	1 1.5	1 1.5	1 1.5	5 7.4
20～24歳	100 100.0	80 80.0	1 1.0	0 0.0	7 7.0	3 3.0	0 0.0	1 1.0	2 2.0	11 11.0
25～29歳	33 100.0	12 36.4	4 12.1	0 0.0	16 48.5	0 0.0	4 12.1	0 0.0	3 9.1	2 6.1
30～34歳	49 100.0	12 24.5	3 6.1	0 0.0	35 71.4	0 0.0	8 16.3	2 4.1	1 2.0	4 8.2
35～39歳	82 100.0	26 31.7	6 7.3	3 3.7	52 63.4	5 6.1	7 8.5	0 0.0	4 4.9	8 9.8

(13) 就労する場合の希望勤務地 [問 6-7]

「ひたちなか市内（自宅勤務を含む）」（49.4%）の割合が最も高く、次いで「場所は問わない」（21.0%），「東京圏」（12.0%）などとなっている。



男女別でみると、女性では「ひたちなか市内（自宅勤務を含む）」の割合が高くなっているのに対し、男性では「場所は問わない」「東京圏」の割合が比較的高く、あまり勤務地にこだわらない傾向がうかがえる。

年齢別でみると、24歳以下の若い年代で「場所は問わない」「東京圏」の割合が高くなっているのに対し、25歳以上では「ひたちなか市内」の割合が非常に高くなっている。

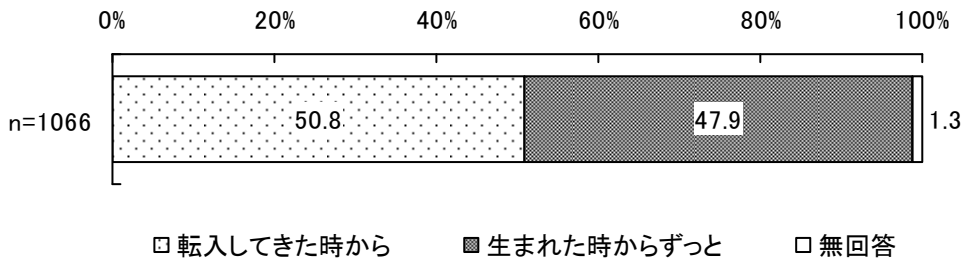
市内居住年数別でみると、10年未満の方と30年以上の方では「ひたちなか市内」を希望する割合が高くなっているのに対し、10～30年未満に当たる方については「場所は問わない」の割合が高くなっている。

■ 男女・年齢・居住年数別

上段:件 下段:%	合計	ひたちなか市内 (自宅勤務を含む)	ひたちなか市以外の茨城県内	東京圏	その他	場所は問わない	無回答
全体	334 100.0	165 49.4	32 9.6	40 12.0	16 4.8	70 21.0	11 3.3
男性	117 100.0	36 30.8	15 12.8	24 20.5	4 3.4	32 27.4	6 5.1
女性	217 100.0	129 59.4	17 7.8	16 7.4	12 5.5	38 17.5	5 2.3
18～19歳	68 100.0	12 17.6	15 22.1	11 16.2	3 4.4	26 38.2	1 1.5
20～24歳	100 100.0	28 28.0	9 9.0	24 24.0	6 6.0	29 29.0	4 4.0
25～29歳	33 100.0	23 69.7	3 9.1	2 6.1	1 3.0	3 9.1	1 3.0
30～34歳	49 100.0	39 79.6	2 4.1	0 0.0	3 6.1	3 6.1	2 4.1
35～39歳	82 100.0	63 76.8	2 2.4	3 3.7	3 3.7	8 9.8	3 3.7
3～5年未満	21 100.0	15 71.4	1 4.8	1 4.8	2 9.5	2 9.5	0 0.0
5～10年未満	40 100.0	33 82.5	2 5.0	1 2.5	1 2.5	2 5.0	1 2.5
10～20年未満	120 100.0	36 30.0	17 14.2	22 18.3	6 5.0	36 30.0	3 2.5
20～30年未満	103 100.0	49 47.6	9 8.7	13 12.6	4 3.9	25 24.3	3 2.9
30年以上	50 100.0	32 64.0	3 6.0	3 6.0	3 6.0	5 10.0	4 8.0

(14) いつから市内にお住まいか [問 7]

「転入してきた時から」が 50.8%に対し、「生まれた時からずっと」が 47.9%となっている。

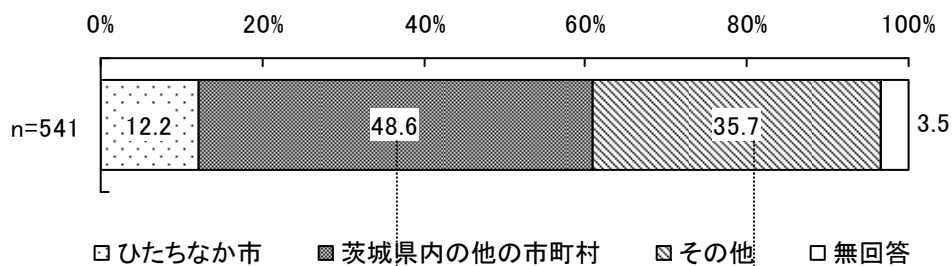


(15) 生まれはどちらか [問 7-1]

問 7 で「転入してきた時から」と回答した方に、生まれた場所についてたずねたところ、「茨城県内の他の市町村」が 48.6%、「その他」が 35.7%、「ひたちなか市」が 12.2%となっている。

「茨城県内の他の市町村」の内訳をみると、「水戸市」(65 件)が最も多く、次いで「日立市」(51 件)、少し差が開いて「常陸太田市」(17 件)、「那珂市」(16 件)と続いている。

「その他」の内訳をみると、「東京都」(20 件)が最も多く、次いで「福島県」「千葉県」「神奈川県」が同数(16 件)で続いている。



<具体的な内容>

市町村名	件数
水戸市	65
日立市	51
常陸太田市	17
那珂市	16
東海村	11
常陸大宮市	11
大洗町	9
大子町	8
北茨城市	6
鉾田市	5
城里町	5
高萩市	5
笠間市	5
茨城町	5

※5件以上回答があったもの

<具体的な内容>

都道府県名	件数
東京都	20
福島県	16
千葉県	16
神奈川県	16
宮城県	12
北海道	10
大阪府	10
栃木県	9
埼玉県	9
山形県	8
群馬県	7
長野県	6
静岡県	5

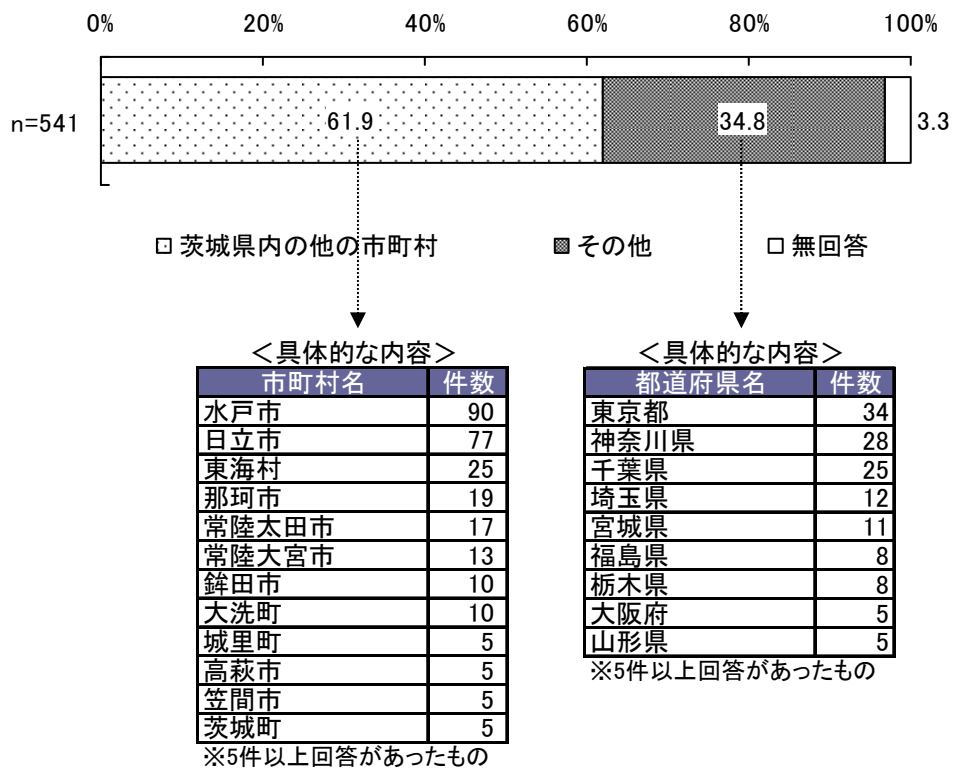
※5件以上回答があったもの

(16) 転入前の住所地 [問 7-2]

問 7 で「転入してきた時から」と回答した方に、転入前の住所地についてたずねたところ、「茨城県内の他の市町村」が 61.9%、「その他」が 34.8%となっている。

「茨城県内の他の市町村」の内訳をみると、「水戸市」(90 件)が最も多く、次いで「日立市」(77 件)、少し差が開いて「東海村」(25 件)、「那珂市」(19 件)と続いている。

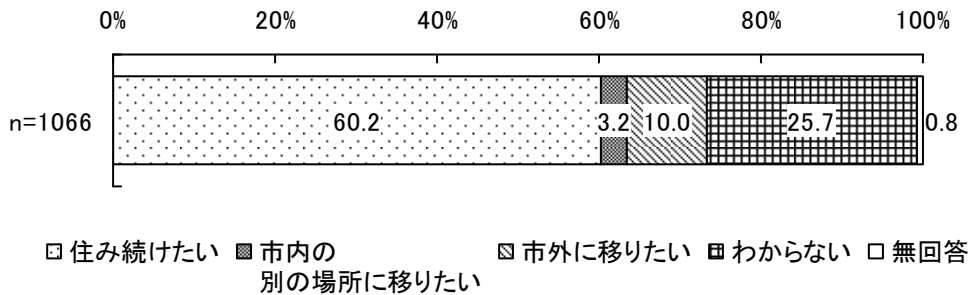
「その他」の内訳をみると、「東京都」(34 件)が最も多く、次いで「神奈川県」(28 件)、「千葉県」(25 件)と続いている。





(17) 今後の市内定住意向 [問 8]

「住み続けたい」(60.2%)と「市内の別の場所に移りたい」(3.2%)を合わせた『住み続けたい』の回答が63.4%で、「市外に移りたい」(10.0%)の割合を大きく上回っている。一方、「わからない」と回答した方も、25.7%と約4人に1人の割合となっている。



男女別ではほとんど差がみられません。

年齢別でみると、若い年代ほど「市外に移りたい」の割合が高く、年代が上がるにつれて「住み続けたい」の割合が高い傾向となっている。

居住年数別では、おおむね居住期間が短いほど「市外に移りたい」の割合が高く、居住年数が長くなるにつれて「住み続けたい」の割合が高い傾向となっているが、例外的に5～10年未満の方は「住み続けたい」の割合が突出して高くなっている。

■ 男女・年齢・居住年数別

上段: 件 下段: %	合計	住み続けたい	市内の別の場所に移りたい	市外に移りたい	わからない	無回答
<b>全体</b>	<b>1066</b> 100.0	<b>642</b> 60.2	<b>34</b> 3.2	<b>107</b> 10.0	<b>274</b> 25.7	<b>9</b> 0.8
男性	506 100.0	308 60.9	14 2.8	48 9.5	132 26.1	4 0.8
女性	560 100.0	334 59.6	20 3.6	59 10.5	142 25.4	5 0.9
18～19歳	82 100.0	33 40.2	1 1.2	13 15.9	34 41.5	1 1.2
20～24歳	204 100.0	89 43.6	7 3.4	31 15.2	74 36.3	3 1.5
25～29歳	183 100.0	113 61.7	6 3.3	20 10.9	44 24.0	0 0.0
30～34歳	240 100.0	163 67.9	8 3.3	15 6.3	52 21.7	2 0.8
35～39歳	346 100.0	237 68.5	11 3.2	28 8.1	68 19.7	2 0.6
3～5年未満	81 100.0	43 53.1	4 4.9	14 17.3	20 24.7	0 0.0
5～10年未満	181 100.0	123 68.0	4 2.2	20 11.0	34 18.8	0 0.0
10～20年未満	265 100.0	144 54.3	4 1.5	31 11.7	85 32.1	1 0.4
20～30年未満	315 100.0	185 58.7	11 3.5	29 9.2	85 27.0	5 1.6
30年以上	222 100.0	147 66.2	11 5.0	13 5.9	48 21.6	3 1.4

問7と問8のクロス集計結果では、生まれた時からずっと市内在住の方よりも、転入してきた方のほうが「住み続けたい」と回答した割合が高く、同時に、「市外に移りたい」と回答した方の割合も高い。一方、生まれた時からずっと市内在住の方は「わからない」の割合が高い。

問7-1と問8のクロス集計結果では、「住み続けたい」との回答は、茨城県内の他の市町村出身の方の割合が比較的高く、「市外に移りたい」は、その他の都道府県出身の割合が高くなっている。

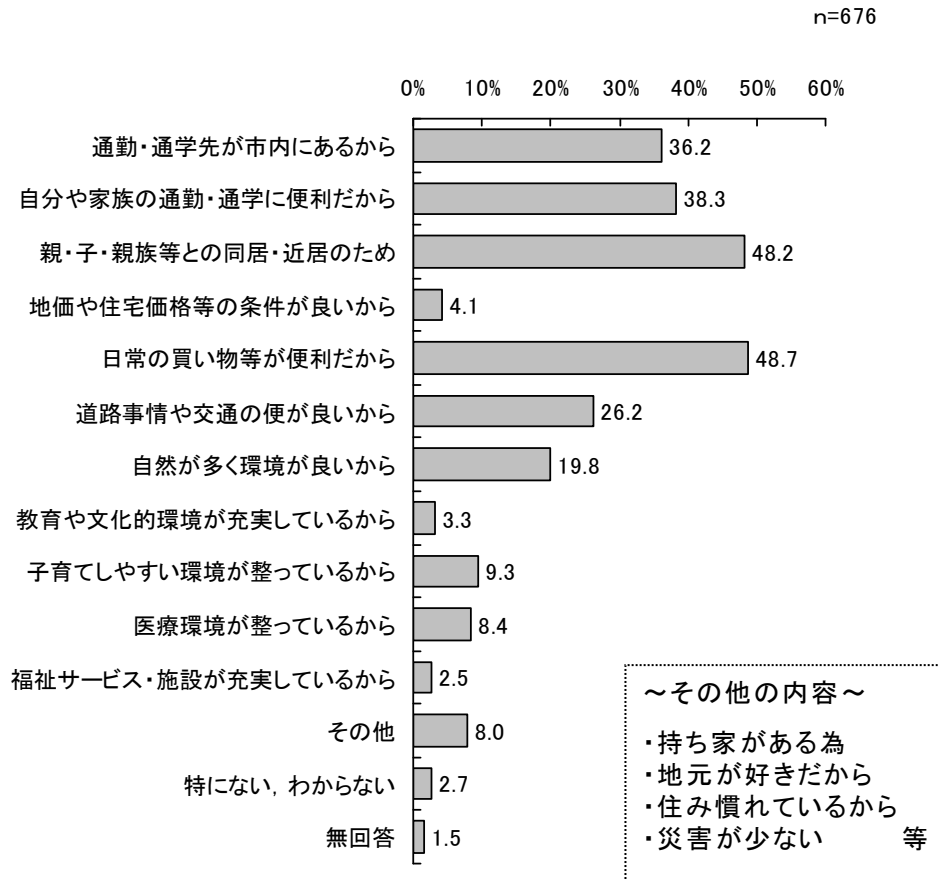
問7-2と問8のクロス集計結果では、「住み続けたい」との回答は、茨城県内の他の市町村から転入してきた方の割合が高く、「市外に移りたい」は、その他の都道府県から転入してきた方の割合が高くなっている。

■「問7，問7-1，問7-2×問8」クロス集計

上段:件 下段:%		合計	問8 ひたちなか市に住み続けたいか				無回答	
			住み続けたい	市内の別の場所に 移りたい	市外に移りたい	わからない		
全体		1066 100.0	642 60.2	34 3.2	107 10.0	274 25.7	9 0.8	
問7 →	いつから	転入してきた時から	541 100.0	339 62.7	13 2.4	60 11.1	127 23.5	2 0.4
		生まれた時からずっと	511 100.0	296 57.9	21 4.1	44 8.6	145 28.4	5 1.0
問7-1 →	生まれ	ひたちなか市	66 100.0	40 60.6	2 3.0	6 9.1	18 27.3	0 0.0
		茨城県内の他の市町村	263 100.0	169 64.3	3 1.1	24 9.1	65 24.7	2 0.8
		その他	193 100.0	116 60.1	7 3.6	29 15.0	41 21.2	0 0.0
問8 →	住所入地前	茨城県内の他の市町村	335 100.0	221 66.0	7 2.1	27 8.1	78 23.3	2 0.6
		その他	188 100.0	110 58.5	5 2.7	31 16.5	42 22.3	0 0.0

(18) 市内に住み続けたい理由 [問 8-1]

問 8 で「住み続けたい」「市内の別の場所に移りたい」と回答した方に、市内に住み続けたい理由をたずねたところ、「日常の買い物等が便利だから」(48.7%)の割合が最も高く、次いで「親・子・親族等との同居・近居のため」(48.2%)、「自分や家族の通勤・通学に便利だから」(38.2%)などとなっている。



男女別でも、「日常の買い物等が便利だから」が上位にくるが、女性の方が男性よりも回答している割合が高い。そのほか、男性は「通勤・通学先が市内にあるから」の割合が高いのに対し、女性は「親・子・親族等との同居・近居のため」が高くなっている。

年齢別でみると、29歳以下では「親・子・親族等との同居・近居のため」、30歳以上では「日常の買い物等が便利だから」の割合が高い。

居住年数別では、3～20年未満の方では「日常の買い物等が便利だから」、20年以上の方では「親・子・親族等との同居・近居のため」の割合が高い。

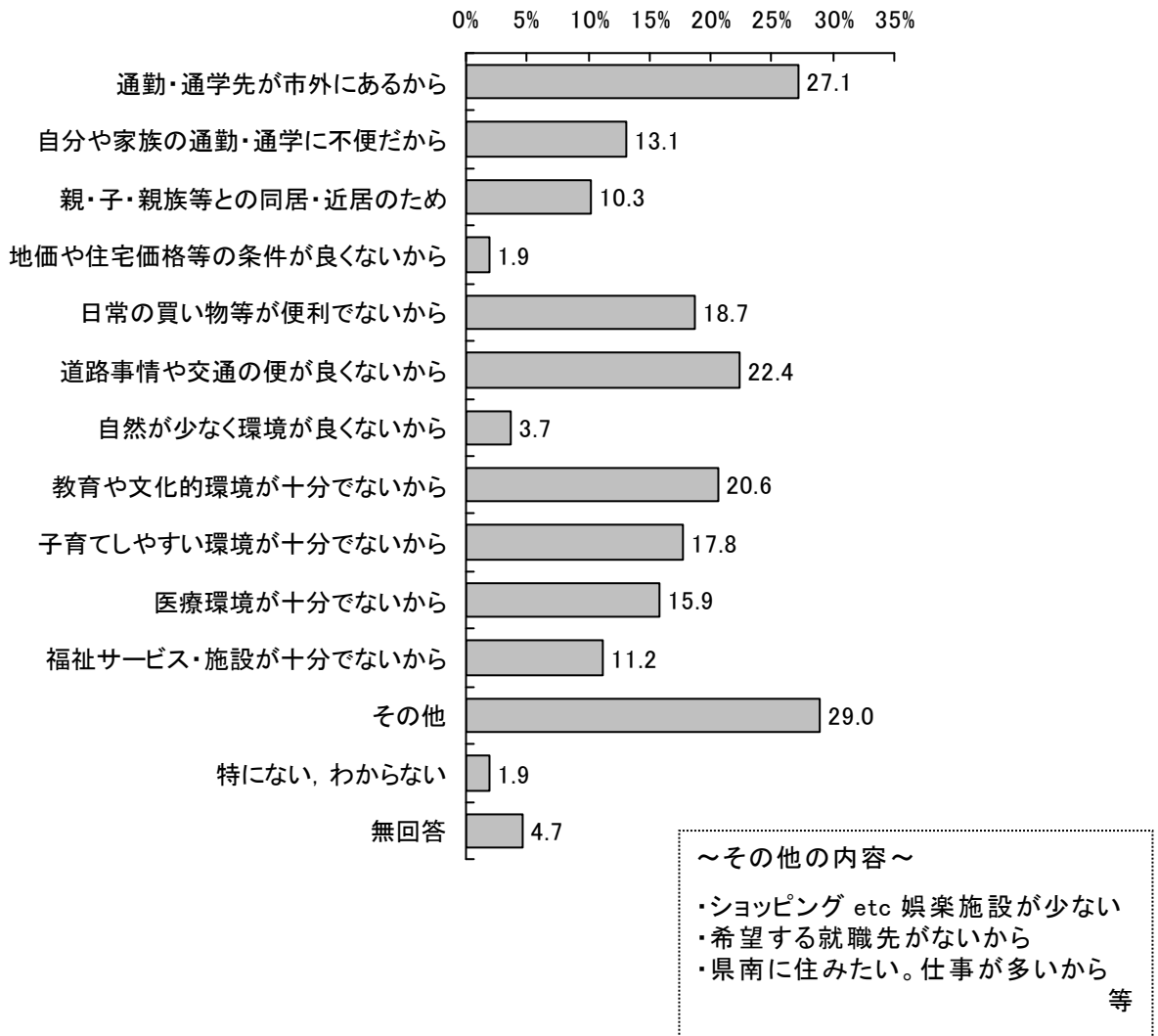
### ■男女・年齢・居住年数別

上段:件 下段:%	合計	通勤・通 学先が市 内にある から	自分や家 族の通 勤・通学 に便利だ から	親・子・親 族等との 同居・近 居のため	地価や住 宅価格等 の条件が 良いから	日常の買 い物等が 便利だか ら	道路事情 や交通の 便が良い から	自然が多 く環境が 良いから	教育や文 化的環境 が充実し ているか ら	子育てし やすい環 境が整っ ているか ら	医療環境 が整って いるから	福祉サー ビス・施 設が充実 している から	その他	特にな い、わか らない	無回答
全体	676 100.0	245 36.2	259 38.3	326 48.2	28 4.1	329 48.7	177 26.2	134 19.8	22 3.3	63 9.3	57 8.4	17 2.5	54 8.0	18 2.7	10 1.5
男性	322 100.0	134 41.6	120 37.3	130 40.4	16 5.0	142 44.1	79 24.5	59 18.3	13 4.0	25 7.8	26 8.1	10 3.1	32 9.9	12 3.7	6 1.9
女性	354 100.0	111 31.4	139 39.3	196 55.4	12 3.4	187 52.8	98 27.7	75 21.2	9 2.5	38 10.7	31 8.8	7 2.0	22 6.2	6 1.7	4 1.1
18～19歳	34 100.0	12 35.3	7 20.6	20 58.8	2 5.9	7 20.6	8 23.5	4 11.8	2 5.9	0 0.0	3 8.8	2 5.9	2 5.9	2 5.9	0 0.0
20～24歳	96 100.0	25 26.0	26 27.1	48 50.0	4 4.2	43 44.8	26 27.1	28 29.2	4 4.2	4 4.2	6 6.3	3 3.1	4 4.2	7 7.3	2 2.1
25～29歳	119 100.0	51 42.9	39 32.8	66 55.5	4 3.4	62 52.1	34 28.6	26 21.8	4 3.4	6 5.0	9 7.6	2 1.7	5 4.2	0 0.0	2 1.7
30～34歳	171 100.0	55 32.2	75 43.9	84 49.1	7 4.1	94 55.0	43 25.1	31 18.1	4 2.3	19 11.1	13 7.6	3 1.8	10 5.8	6 3.5	2 1.2
35～39歳	248 100.0	98 39.5	111 44.8	104 41.9	11 4.4	121 48.8	65 26.2	45 18.1	8 3.2	34 13.7	26 10.5	7 2.8	30 12.1	3 1.2	4 1.6
3～5年未満	47 100.0	17 36.2	17 36.2	15 31.9	2 4.3	23 48.9	7 14.9	5 10.6	1 2.1	5 10.6	2 4.3	0 0.0	7 14.9	0 0.0	1 2.1
5～10年未満	127 100.0	53 41.7	62 48.8	34 26.8	7 5.5	65 51.2	40 31.5	20 15.7	4 3.1	16 12.6	10 7.9	2 1.6	9 7.1	1 0.8	2 1.6
10～20年未満	148 100.0	64 43.2	64 43.2	62 41.9	11 7.4	73 49.3	43 29.1	38 25.7	7 4.7	14 9.5	13 8.8	5 3.4	8 5.4	6 4.1	0 0.0
20～30年未満	196 100.0	58 29.6	64 32.7	113 57.7	4 2.0	100 51.0	53 27.0	45 23.0	7 3.6	14 7.1	19 9.7	5 2.6	14 7.1	6 3.1	3 1.5
30年以上	158 100.0	53 33.5	52 32.9	102 64.6	4 2.5	68 43.0	34 21.5	26 16.5	3 1.9	14 8.9	13 8.2	5 3.2	16 10.1	5 3.2	4 2.5

(19) 市外に移りたいと思う理由 [問 8-2]

問 8 で「市外に移りたい」と回答した方に、その理由についてたずねたところ、「その他」(29.0%)を除くと、「通勤・通学先が市外にあるから」(27.1%)の割合が最も高く、次いで「道路事情や交通の便が良くないから」(22.4%)、「教育や文化的な環境が十分でないから」(20.6%)などとなっている。

n=107



男女別でみると、男性では「通勤・通学先が市外にあるから」、女性では「その他」を除くと「道路事情や交通の便が良くないから」の割合が最も高い。

■男女・年齢・居住年数別

上段:件 下段:%	合計	通勤・通 学先が市 外にある から	自分や家 族の通 勤・通学 に不便だ から	親・子・親 族等との 同居・近 居のため	地価や住 宅価格等 の条件が 良くない から	日常の買 い物等が 便利でな いから	道路事情 や交通の 便が良く ないから	自然が少 なく環境 が良くない から	教育や文 化的環境 が十分で ないから	子育てし やすい環 境が十分 でないから	医療環境 が十分で ないから	福祉サー ビス・施 設が十分 でないから	その他	特にな い、わか らない	無回答
全体	107 100.0	29 27.1	14 13.1	11 10.3	2 1.9	20 18.7	24 22.4	4 3.7	22 20.6	19 17.8	17 15.9	12 11.2	31 29.0	2 1.9	5 4.7
男性	48 100.0	16 33.3	8 16.7	5 10.4	1 2.1	6 12.5	9 18.8	2 4.2	12 25.0	6 12.5	5 10.4	4 8.3	11 22.9	0 0.0	4 8.3
女性	59 100.0	13 22.0	6 10.2	6 10.2	1 1.7	14 23.7	15 25.4	2 3.4	10 16.9	13 22.0	12 20.3	8 13.6	20 33.9	2 3.4	1 1.7
18～19歳	13 100.0	7 53.8	2 15.4	0 0.0	0 0.0	1 7.7	1 7.7	0 0.0	3 23.1	1 7.7	1 7.7	0 0.0	3 23.1	0 0.0	0 0.0
20～24歳	31 100.0	12 38.7	7 22.6	1 3.2	0 0.0	7 22.6	11 35.5	0 0.0	4 12.9	2 6.5	2 6.5	2 6.5	10 32.3	1 3.2	1 3.2
25～29歳	20 100.0	1 5.0	0 0.0	4 20.0	1 5.0	5 25.0	2 10.0	2 10.0	2 10.0	1 5.0	1 5.0	10.0	6 30.0	1 5.0	3 15.0
30～34歳	15 100.0	3 20.0	3 20.0	2 13.3	1 6.7	5 33.3	7 46.7	0 0.0	4 26.7	4 26.7	4 26.7	2 13.3	4 26.7	0 0.0	0 0.0
35～39歳	28 100.0	6 21.4	2 7.1	4 14.3	0 0.0	2 7.1	3 10.7	2 7.1	9 32.1	11 39.3	9 32.1	6 21.4	8 28.6	0 0.0	1 3.6
3～5年未満	14 100.0	2 14.3	1 7.1	2 14.3	0 0.0	1 7.1	2 14.3	1 7.1	6 42.9	5 35.7	6 42.9	1 7.1	5 35.7	0 0.0	0 0.0
5～10年未満	20 100.0	5 25.0	3 15.0	6 30.0	1 5.0	4 20.0	6 30.0	1 5.0	4 20.0	4 20.0	2 10.0	3 15.0	6 30.0	0 0.0	0 0.0
10～20年未満	31 100.0	11 35.5	5 16.1	2 6.5	0 0.0	8 25.8	9 29.0	1 3.2	6 19.4	4 12.9	2 6.5	1 3.2	6 19.4	2 6.5	0 0.0
20～30年未満	29 100.0	6 20.7	4 13.8	1 3.4	1 3.4	4 13.8	4 13.8	1 3.4	4 13.8	2 6.9	3 10.3	4 13.8	11 37.9	0 0.0	4 13.8
30年以上	13 100.0	5 38.5	1 7.7	0 0.0	0 0.0	3 23.1	3 23.1	0 0.0	2 15.4	4 30.8	4 30.8	3 23.1	3 23.1	0 0.0	1 7.7

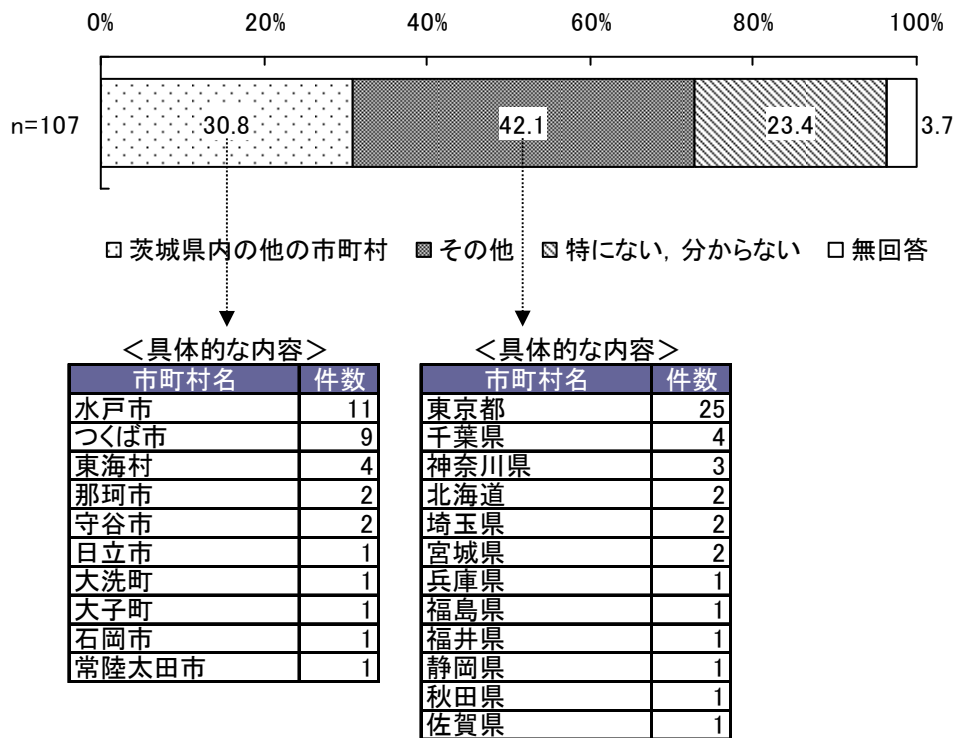
※年齢・居住年数別は、各属性の人数が少ないため参考比較

(20) 将来的に住みたいまち [問 8-3]

問 8 で「市外に移りたい」と回答した方に、将来的に住みたいまちについてたずねたところ、「茨城県内の他の市町村」が 30.8%、「その他」が 42.1%、「特にない、分からない」が 23.4%となっている。

「茨城県内の他の市町村」の内訳をみると、「水戸市」(10 件)が最も多く、次いで「つくば市」(9 件)、「東海村」(4 件)と続いている。

「その他」の内訳をみると、「東京都」(25 件)が圧倒的に多く、次いで「千葉県」(4 件)、「神奈川県」(3 件)となっている。



(21) 問 8-3 の回答の理由

□「茨城県内の他の市町村」住みたいと思う理由

<水戸市>

- ・東京へのアクセス。
- ・オシャレ
- ・都会ゆえ
- ・交通の便がよさそうだから
- ・職場が近いから
- ・海から遠いから             など

<つくば市>

- ・町並みが清潔感があつてきれい
- ・都内に出る時に便利で交通（公共）が発達している。また、大きな公園や公共施設が充実しているから。
- ・周囲に色々なモールが多く便利そう。住んでいて楽しそう。
- ・これから発展するから             など

<東海村>

- ・医療費などの支援が、ひたちなかよりきちんとしている。
- ・子育てをするのに色々良いと聞いたので。
- ・東海村の中学生まで医療費無料はとても魅力的             など

□「その他」の地域に住みたいと思う理由

<東京都>

- ・商業施設の多さ、交通の便利さ
- ・都内での就学・就労を志望しているから
- ・県内に仕事がないので
- ・企業が多い
- ・将来の職業に関連する会社等が東京都周辺に多いから。
- ・雇用がある、賃金が高い
- ・教育環境がよい。
- ・医療、福祉施設が十分であると思われるから             など

<千葉県>

- ・柏の葉に行った時に、交通の便の良さ、買い物等生活のしやすい環境である事など、新しい町として魅力を感じたので県外の柏の葉のような新しくできた町に将来的に住みたいと思っています。
- ・都心アクセスが良い。ひたちなか市に老後は戻ってきたと思う。
- ・何かと便利だから             など

<神奈川県>

- ・同じ海が近くにあるとはいえ、江ノ島・湘南の夏を味わえば景色や楽しさの違いが大きく、尚鎌倉という観光スポットに加え横浜もある。
- ・東京への移動（電車等含み）便利で安い。一年中楽しめる街が神奈川。
- ・昔、19～20歳の頃川崎市川崎区に住んでいて、とても住みやすい街だったので。都会に憧れ、田舎が大嫌いだから。
- ・楽しいところがいっぱいあるから（治安悪そうなところもあるが）             など

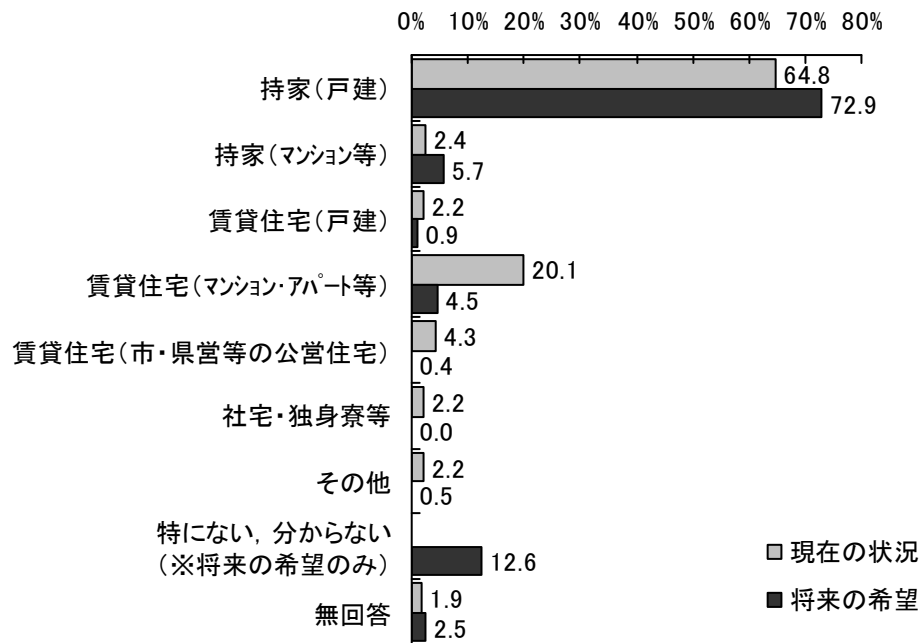


(22) 現在の住まいの形態と、将来的に希望する住まいの形態 [問 9]

現在の住まいの形態をたずねたところ、「持家（戸建）」（64.8％）の割合が最も高く、次いで「賃貸住宅（マンション・アパート等）」（20.1％）、「賃貸住宅（市・県営等の公営住宅）」（4.3％）などとなっている。

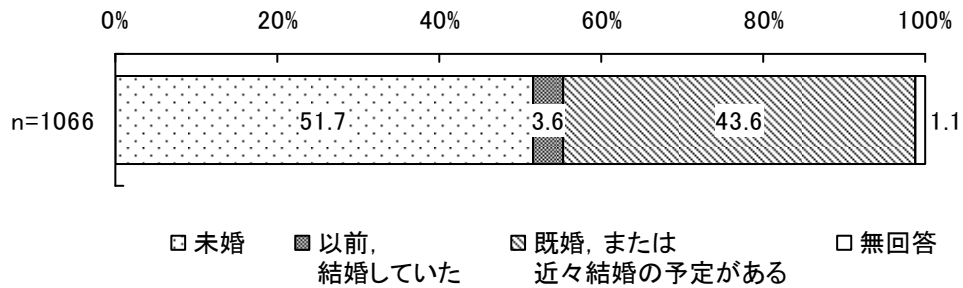
将来的に希望する住まいの形態をたずねたところ、「持家（戸建）」（72.9％）が最も高く、次いで「持家（マンション等）」（5.7％）、「賃地住宅（マンション・アパート等）」（4.5％）などとなっている。

n=1066



(23) 結婚の状況 [問 10]

「未婚」が 51.7%、「既婚，または近々結婚の予定がある」が 43.6%、「以前，結婚していた」が 3.6%となっている。



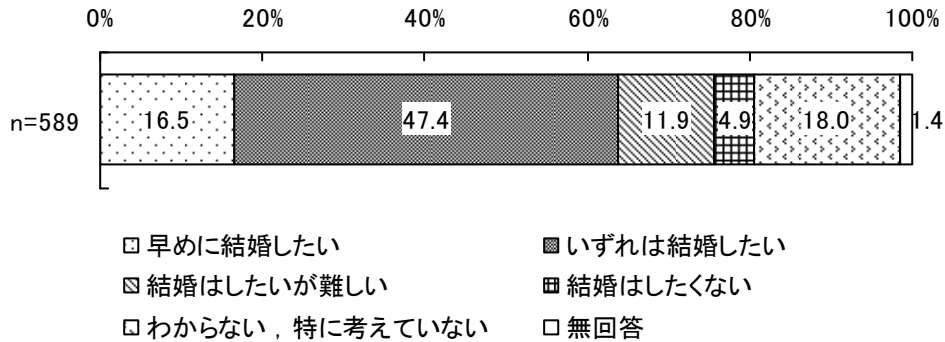
男女別で見ると，男性で「未婚」，女性で「既婚，または近々結婚の予定がある」の割合がそれぞれ高い。

■ 男女別

上段:件 下段:%	合計	未婚	以前、結 婚してい た	既婚、ま たは近々 結婚の予 定がある	無回答
全体	1066 100.0	551 51.7	38 3.6	465 43.6	12 1.1
男性	506 100.0	288 56.9	12 2.4	199 39.3	7 1.4
女性	560 100.0	263 47.0	26 4.6	266 47.5	5 0.9

(24) 今後の結婚の希望 [問 10-1]

「早めに結婚したい」(16.5%)と「いずれは結婚したい」(47.4%)を合わせた『結婚に前向き』な回答は63.9%、「結婚はしたいが難しい」(11.9%)と「結婚はしたくない」(4.9%)を合わせた『結婚に消極的』な回答は16.8%となっている。



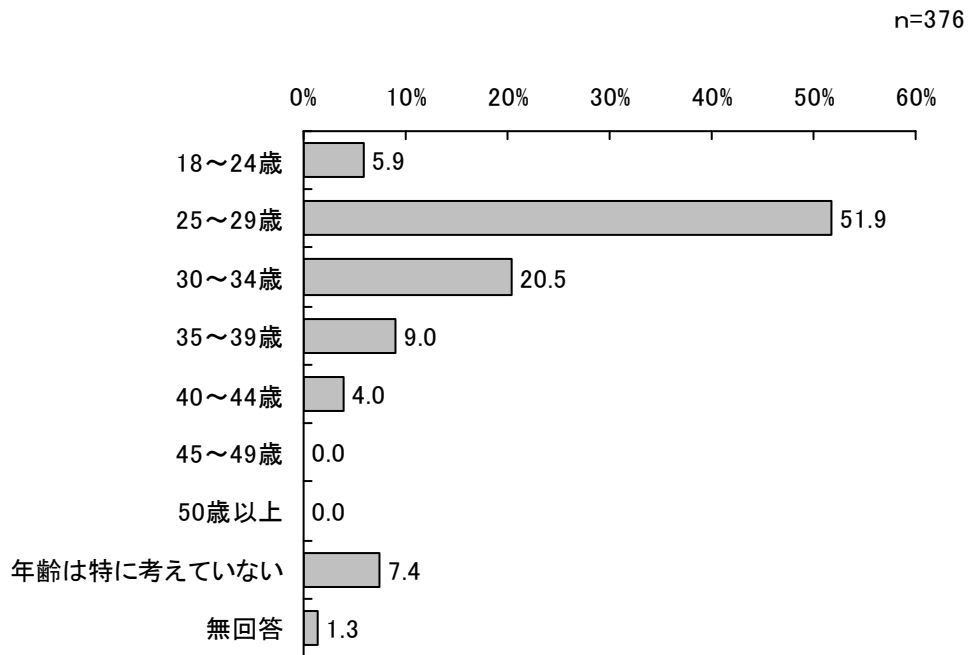
男女別でみると、女性では「早めに結婚したい」、男性では「わからない、特に考えていない」の割合が比較的高くなっている。

■ 男女別

上段:件 下段:%	合計	早めに結婚したい	いずれは結婚したい	結婚はしたいが難しい	結婚はしたくない	わからない, 特に考えていない	無回答
全体	589 100.0	97 16.5	279 47.4	70 11.9	29 4.9	106 18.0	8 1.4
男性	300 100.0	42 14.0	146 48.7	35 11.7	13 4.3	60 20.0	4 1.3
女性	289 100.0	55 19.0	133 46.0	35 12.1	16 5.5	46 15.9	4 1.4

(25) 何歳ぐらいで結婚したい（したかった）か [問 10-2]

「25～29 歳」（51.9%）の割合が最も高く，次いで「30～34 歳」（20.5%），「35～39 歳」（9.0%）などとなっている。



男女別でみると，男女ともに「25～29 歳」の割合が最も大きいものの，男性の方が女性よりも若干高めの年齢での結婚を希望していることがうかがえる。

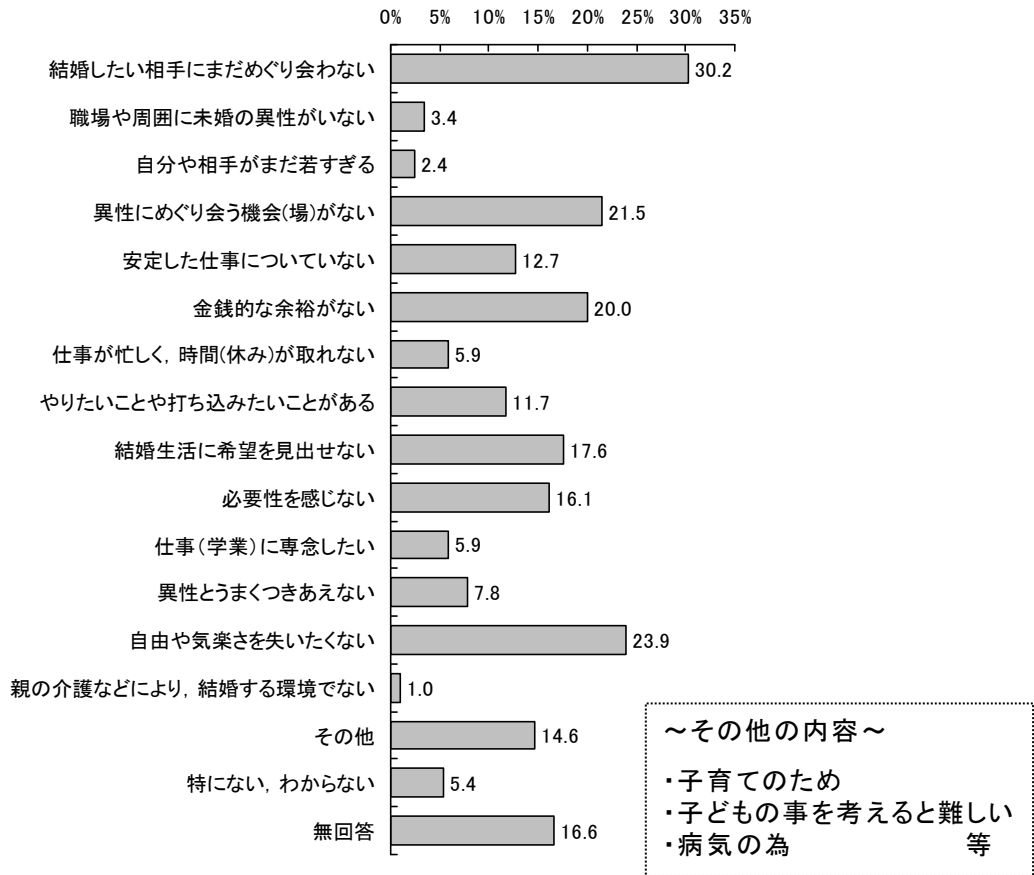
■ 男女別

上段:件 下段:%	合計	18～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上	年齢は特 に考えて いない	無回答
全体	376 100.0	22 5.9	195 51.9	77 20.5	34 9.0	15 4.0	0 0.0	0 0.0	28 7.4	5 1.3
男性	188 100.0	11 5.9	77 41.0	51 27.1	24 12.8	10 5.3	0 0.0	0 0.0	12 6.4	3 1.6
女性	188 100.0	11 5.9	118 62.8	26 13.8	10 5.3	5 2.7	0 0.0	0 0.0	16 8.5	2 1.1

(26) 「結婚はしたいが難しい」または「結婚はしたくない」理由 [問 10-3]

「結婚したい相手にまだめぐり合わない」(30.2%)の割合が最も高く、次いで「自由や気楽さを失いたくない」(23.9%)、「異性にめぐり会う機会(場)がない」(21.5%)などとなっている。

n=205



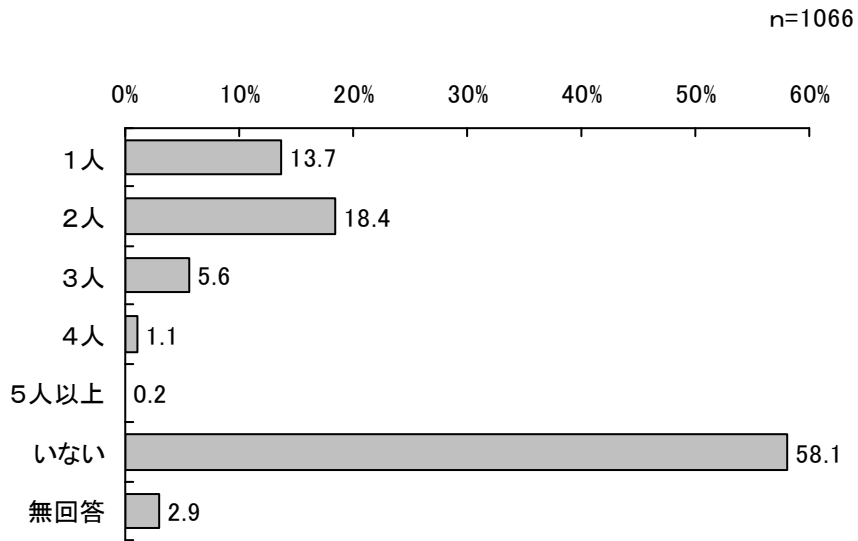
男女別では、男性で「安定した仕事についていない」「金銭的な余裕がない」の割合が高く、女性で「結婚生活に希望を見出せない」「必要性を感じない」「自由や気楽さを失いたくない」の割合が高くなっている。

■ 男女別

上段:件 下段:%	合計	結婚したい相手にまだめぐり合わない	職場や周囲に未婚の異性がない	自分や相手がまだ若すぎる	異性にめぐり会う機会(場)がない	安定した仕事についていない	金銭的な余裕がない	仕事が忙しく、時間(休み)が取れない	やりたいことや打ち込みたいことがある	結婚生活に希望を見出せない	必要性を感じない	仕事(学業)に専念したい	異性とうまくつきあえない	自由や気楽さを失いたくない	親の介護などにより、結婚する環境でない	その他	特にない、わからない	無回答
全体	205 100.0	62 30.2	7 3.4	5 2.4	44 21.5	26 12.7	41 20.0	12 5.9	24 11.7	36 17.6	33 16.1	12 5.9	16 7.8	49 23.9	2 1.0	30 14.6	11 5.4	34 16.6
男性	108 100.0	32 29.6	1 0.9	2 1.9	23 21.3	22 20.4	27 25.0	7 6.5	11 10.2	13 12.0	11 10.2	1 0.9	9 8.3	23 21.3	0 0.0	12 11.1	7 6.5	22 20.4
女性	97 100.0	30 30.9	6 6.2	3 3.1	21 21.6	4 4.1	14 14.4	5 5.2	13 13.4	23 23.7	22 22.7	11 11.3	7 7.2	26 26.8	2 2.1	18 18.6	4 4.1	12 12.4

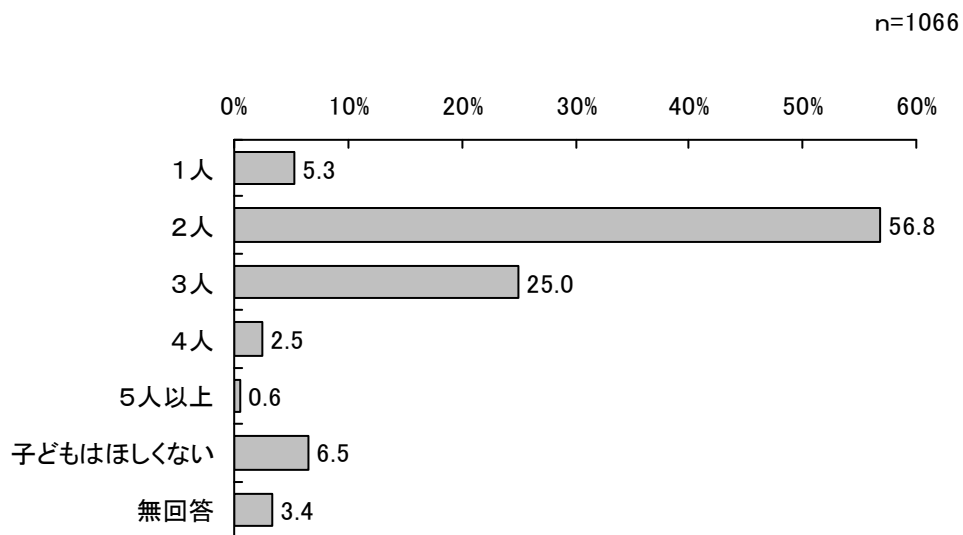
(27) 現在の子どもの人数 [問 11]

「いない」 (58.1%) の割合が最も高く、次いで「2人」 (18.4%) , 「1人」 (13.7%) などとなっている。



(28) 理想とする子どもの数 [問 12]

「2人」 (56.8%) の割合が最も高く、次いで「3人」 (25.0%) , 「1人」 (5.3%) などとなっている。一方、「子どもはほしくない」 (6.5%) との回答も一定程度みられる。



理想とする子どもの数について、男女別でも、男女ともに「2人」の割合が高いが、男性より女性のほうが「3人」と回答した割合が大幅に高くなっている。

年齢別では、25歳以上の年代で「3人」を超える子どもを希望する回答が比較的多く挙げられている。

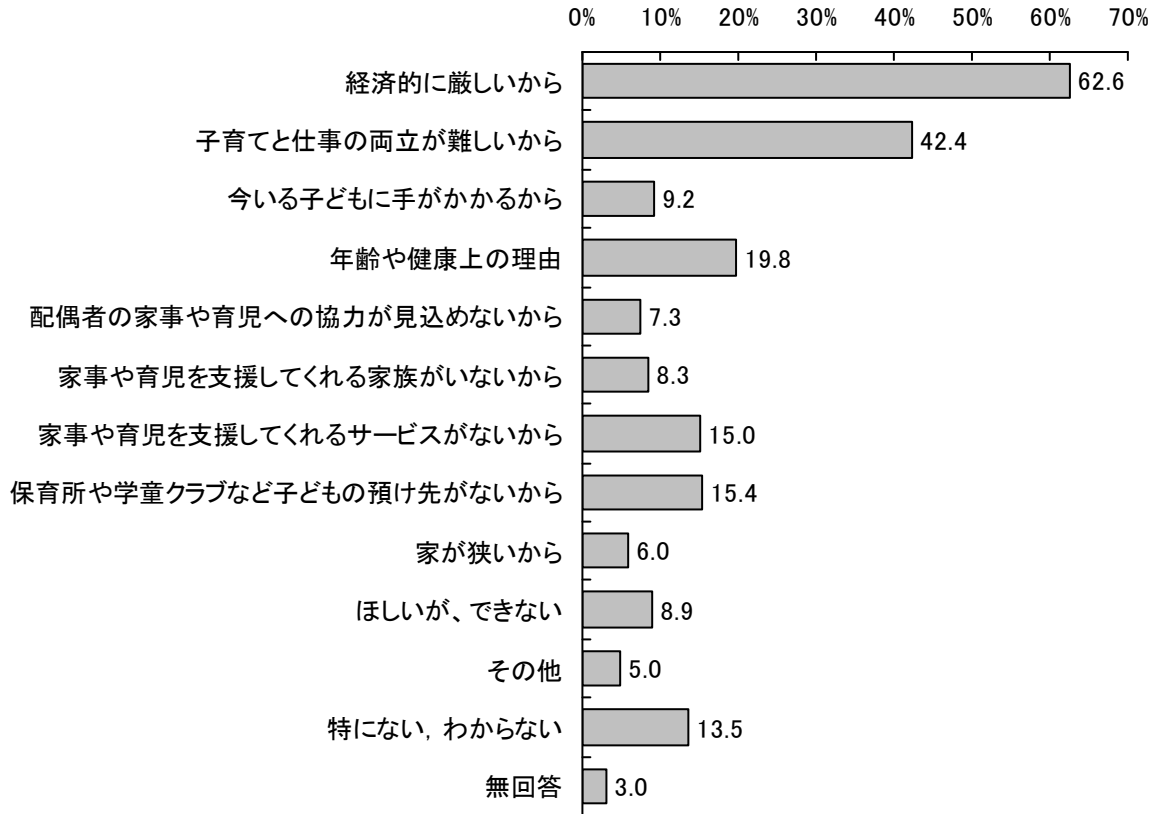
■男女・年齢別

上段:件 下段:%	合計	1人	2人	3人	4人	5人以上	子どもは ほしくない	無回答
<b>全体</b>	<b>1066</b> 100.0	<b>56</b> 5.3	<b>605</b> 56.8	<b>267</b> 25.0	<b>27</b> 2.5	<b>6</b> 0.6	<b>69</b> 6.5	<b>36</b> 3.4
男性	506 100.0	31 6.1	304 60.1	99 19.6	8 1.6	5 1.0	36 7.1	23 4.5
女性	560 100.0	25 4.5	301 53.8	168 30.0	19 3.4	1 0.2	33 5.9	13 2.3
18～19歳	82 100.0	5 6.1	47 57.3	19 23.2	1 1.2	0 0.0	8 9.8	2 2.4
20～24歳	204 100.0	14 6.9	121 59.3	47 23.0	0 0.0	0 0.0	13 6.4	9 4.4
25～29歳	183 100.0	9 4.9	103 56.3	49 26.8	8 4.4	0 0.0	8 4.4	6 3.3
30～34歳	240 100.0	9 3.8	129 53.8	64 26.7	8 3.3	1 0.4	18 7.5	11 4.6
35～39歳	346 100.0	19 5.5	199 57.5	86 24.9	9 2.6	5 1.4	21 6.1	7 2.0

(29) 子ども持つことの妨げになっている（なりそうな）こと [問 13]

「経済的に厳しいから」（62.6%）の割合が最も高く、次いで「子育てと仕事の両立が難しいから」（42.4%）, 「年齢や健康上の理由」（19.8%）などとなっている。

n=1066



～その他の内容～

- ・夜間救急が充実していない。(以前市外に行かされた)
- ・生み育てたいと思わせる社会風土がない。不安要素が大きい。
- ・日本の社会福祉に不安
- ・放射能汚染
- ・不妊治療の自己負担が大きい
- ・医療機関や保育料金が安いから
- ・国からや市町村からの支援が少ない。子供達への不安を与えずで親になる事への不安がある。
- ・育児相談だけでなく母親の産後(相談)ケアが大事だと思います。
- ・産休・育休が形式上でしかない(勤める会社が)。休み中は別の人が入る, 休み明けに自分が戻る場所はない。
- ・長子が障害児である為, 夫婦で就業中の受け入れ先が条件的に困難(養護学校)
- ・福祉に対してのサービスが悪い。東海村を見習って欲しい。とても住みづらい。
- ・子どもの病気が理由で会社を休みにくいなど, 社会全体の問題
- ・親の介護, 祖母の介護と育児が重なりそうで4人目は考えてしまいます。等



男女別でみると、「子育てと仕事の両立が難しいから」「年齢や健康上の理由」「配偶者の家事や育児への協力が見込めないから」で、男性よりも女性の回答割合が高く、属性別の特徴が現れた結果となっている。その他、「家事や育児を支援してくれるサービスがないから」「保育所や学童クラブなど子どもの預け先がないから」でも比較的女性の回答割合が高くなっている。

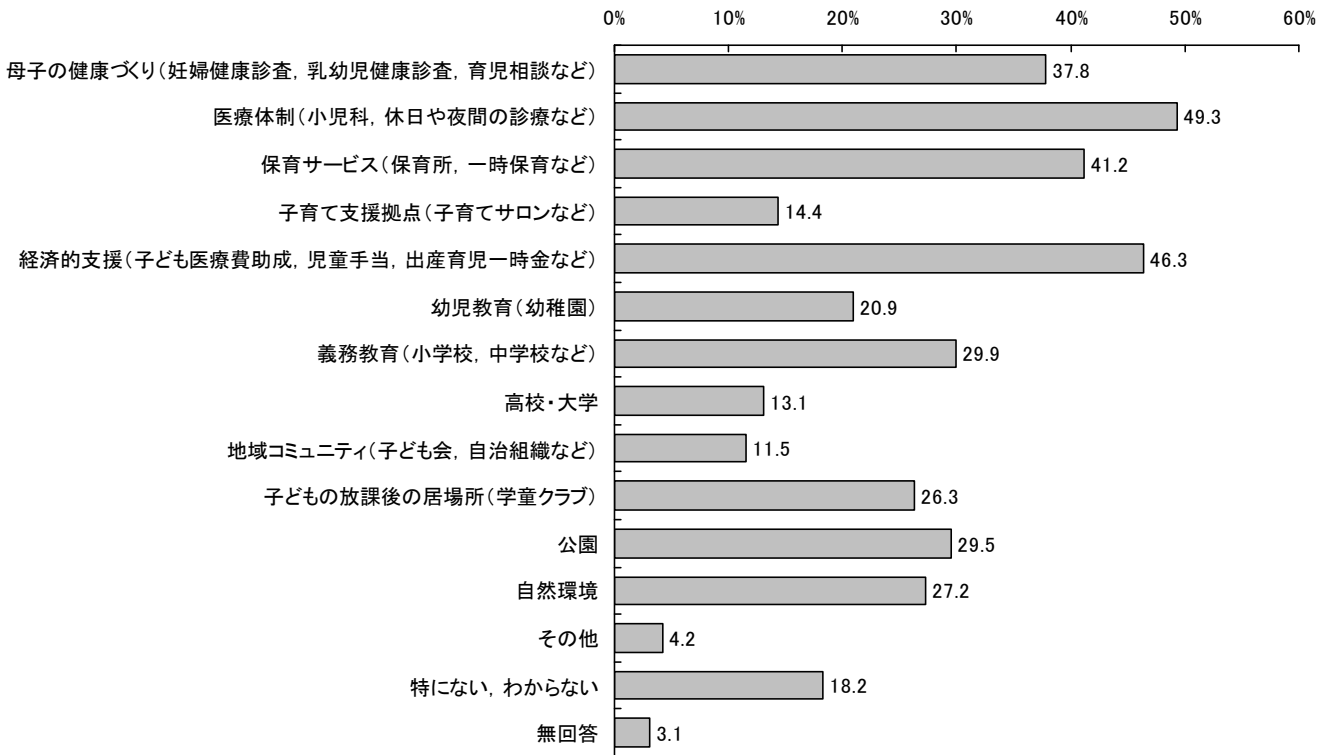
## ■男女別

上段:件 下段:%	合計	経済的に 厳しいか ら	子育てと 仕事の両 立が難し いから	今いる子 どもに手 がかかる から	年齢や健 康上の理 由	配偶者の 家事や育 児への協 力が見込 めないか ら	家事や育 児を支援 してくれ る家族が いないか ら	家事や育 児を支援 してくれ るサービ スがない から	保育所や 学童クラ ブなど子 どもの預 け先がな いから	家が狭い から	ほしい が、でき ない	その他	特にな い、わか らない	無回答
全体	1066 100.0	667 62.6	452 42.4	98 9.2	211 19.8	78 7.3	89 8.3	160 15.0	164 15.4	64 6.0	95 8.9	53 5.0	144 13.5	32 3.0
男性	506 100.0	304 60.1	159 31.4	41 8.1	74 14.6	18 3.6	36 7.1	61 12.1	61 12.1	30 5.9	39 7.7	22 4.3	88 17.4	21 4.2
女性	560 100.0	363 64.8	293 52.3	57 10.2	137 24.5	60 10.7	53 9.5	99 17.7	103 18.4	34 6.1	56 10.0	31 5.5	56 10.0	11 2.0

(30) 子育てをするうえで、充実していると安心できること [問 14]

「医療体制（小児科，休日や夜間の診療など）」（49.3%）の割合が最も高く，次いで「経済的支援（子ども医療費助成，児童手当，出産育児一時金など）」（46.3%），「保育サービス（保育所，一時保育など）」（41.2%）などとなっている。

n=1066



～その他の内容～

- ・ひたちなかにも中高一貫校があると良い
- ・防犯, 犯罪抑止
- ・下校時間帯に自治会やシルバーの人が見守りとかもっとやった方が良い気がする。やってるのかもしれないが, そういう人達をあまり見掛けないので。
- ・スクールバス(小中学校)
- ・保育士の待遇を良くしてあげて欲しい
- ・雨が降った時でも遊べるような場所。それと外でもアスレチックなどの遊具が市内に欲しい。とにかく子どもは遊びたいので。
- ・病児保育をしてくれるところ
- ・交流の場(子ども同士, ママ同士, 世代間・・・)
- ・産後のケアなど。今年出産したのですが保健師さんに産後の身体の不調を相談した所, 助産師さんからお電話さそますとの事だったのですが電話がなく, しばらく待ったのですが, 結局電話がなかったので, しっかり保健師さんと助産師さんとの伝達をして欲しい事と, 私は 2 度出産していますが産後の回復が全く違ったので 2 度目とはいえとても不安だったので保健師さんにしても形式的な感じでなくもう少し親身になって話を聞いて欲しかったのでこれから出産された方が不安にならない様に対応してあげて欲しいと思います。
- ・今回のプレミアム商品券のキッズカード価格は良い
- ・地域の安全, 通学路の安全, 交通安全 等

男女別でみると、「医療体制」のほか、「経済的支援」「保育サービス」「子ども放課後の居場所」で、男性よりも女性の回答割合が高くなっている。

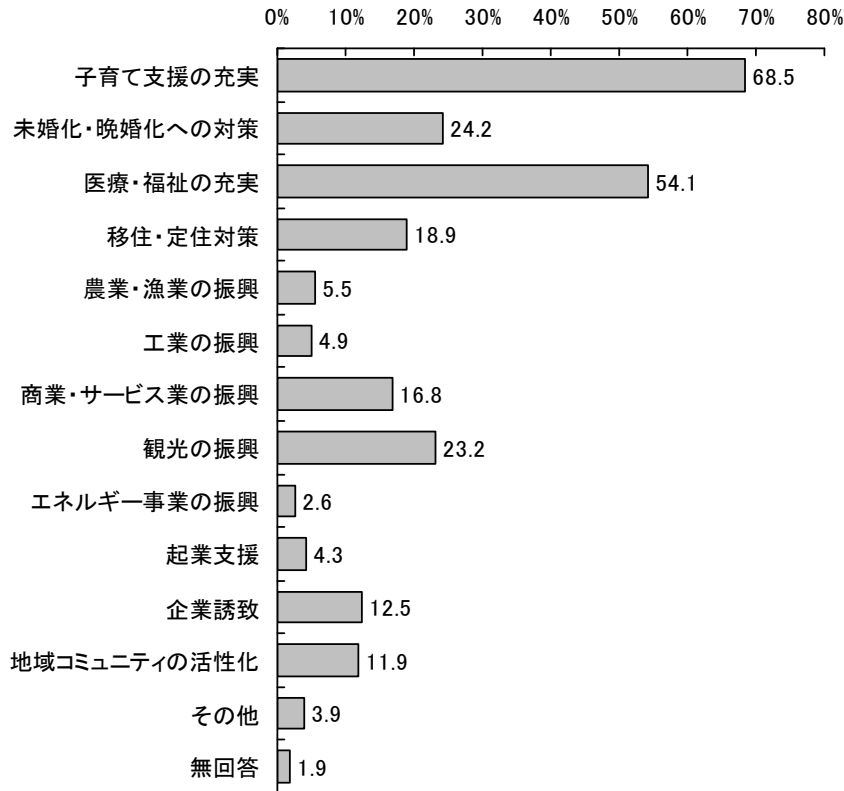
■男女別

上段:件 下段:%	合計	母子の健康づくり (妊婦健康診査, 乳幼児健康診査, 育児相談など)	医療体制 (小児科, 休日や夜間の診療など)	保育サービス(保育所, 一時保育など)	子育て支援拠点 (子育てサロンなど)	経済的支援(子ども医療費助成, 児童手当, 出産育児一時金など)	幼児教育 (幼稚園)	義務教育 (小学校, 中学校など)	高校・大学	地域コミュニティ (子ども会, 自治組織など)	子どもの放課後の居場所 (学童クラブ)	公園	自然環境	その他	特にな い, わか らない	無回答
<b>全体</b>	1066 100.0	403 37.8	526 49.3	439 41.2	153 14.4	494 46.3	223 20.9	319 29.9	140 13.1	123 11.5	280 26.3	315 29.5	290 27.2	45 4.2	194 18.2	33 3.1
男性	506 100.0	174 34.4	213 42.1	181 35.8	67 13.2	197 38.9	95 18.8	144 28.5	65 12.8	57 11.3	108 21.3	138 27.3	145 28.7	20 4.0	106 20.9	23 4.5
女性	560 100.0	229 40.9	313 55.9	258 46.1	86 15.4	297 53.0	128 22.9	175 31.3	75 13.4	66 11.8	172 30.7	177 31.6	145 25.9	25 4.5	88 15.7	10 1.8

(31) 人口減少社会におけるまちづくりについて [問 15]

「子育て支援の充実」(68.5%)の割合が最も高く、次いで「医療福祉の充実」(54.1%)、「未婚化・晩婚化への対策」(24.2%)などとなっている。

n=1066



～その他の内容～

- ・Uターン、Iターンで一度離れてもまたここに戻ってきたいと思ってもらえるような地域づくり
- ・子育てのしやすさ、親の介護施設の充実、教育環境の充実、居住地としての安全性、大切
- ・原発以外でのエネルギー事業の振興
- ・ショッピングモールが多く、遊べる場所が少ないので、ラウンドワンのようなところがあれば若い人が増えると思います。
- ・交通機関の充実
- ・海浜公園のネモフィラ、ROCK IN JAPAN 等の人が多く集まるイベントがあるのに、一時的で生かし切れていない。若者が休日する事がない。
- ・土地と田畑はたくさんあるので、都会から農業をやりたい人が移住してきやすくするなど、他県から若夫婦を迎え入れる支援も良いのでは？→こちらに住んで子どもを育ててくれる
- ・不妊の理解、協力、(専門)病院の充実
- ・不妊治療費の助成金を増やす
- ・教育施設の充実(例:英語に力を入れている学校 他)
- ・名の知れたデパートや食べ物屋さんなどがあると、その地域が気になります。イオンやららぽーと、イケア。
- ・青空バスの本数を増やす
- ・湊地区に3年幼稚園の設立
- ・大学誘致～海浜地区へ
- ・市外の人に目を向けるのではなく、市内の今居る住民を大切にしたい
- ・市の目が届くコンパクトなまちづくり
- ・保険など高くて子供をたくさん作れない。なので、もっと安く。
- ・もっと遊べる場所を増やして欲しい。ファッションクルーズ周辺とかに。
- ・保育所の充実、子供の医療費・教育費の無料化
- ・シングルマザーへの支援 等

男女別でみると、全体の集計結果で上位の「子育て支援の充実」と「医療福祉の充実」について、女性の回答割合が高い。一方、上位には挙げられていないものの、「移住・定住対策」「工業の振興」「企業誘致」といった項目は、男性の回答割合が比較的高い傾向となっている。

年齢別では、20～24歳で「観光の振興」、25～29歳で「未婚化・晩婚化への対策」、35～39歳で「移住・定住対策」が比較的高いなど特徴がみられる。

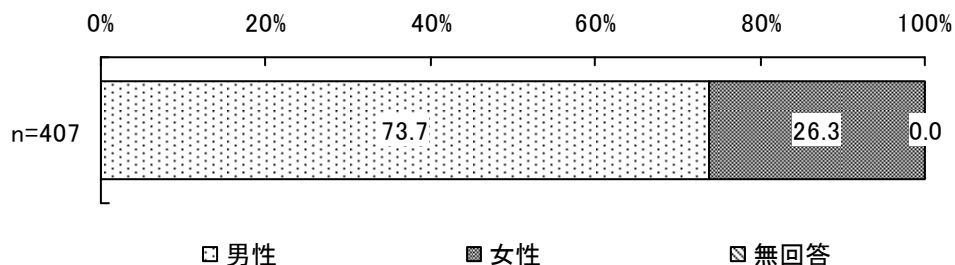
## ■男女・年齢別

上段:件 下段:%	合計	子育て支援の充実	未婚化・晩婚化への対策	医療・福祉の充実	移住・定住対策	農業・漁業の振興	工業の振興	商業・サービス業の振興	観光の振興	エネルギー事業の振興	起業支援	企業誘致	地域コミュニティの活性化	その他	無回答
<b>全体</b>	<b>1066</b> 100.0	<b>730</b> 68.5	<b>258</b> 24.2	<b>577</b> 54.1	<b>202</b> 18.9	<b>59</b> 5.5	<b>52</b> 4.9	<b>179</b> 16.8	<b>247</b> 23.2	<b>28</b> 2.6	<b>46</b> 4.3	<b>133</b> 12.5	<b>127</b> 11.9	<b>42</b> 3.9	<b>20</b> 1.9
男性	506 100.0	320 63.2	132 26.1	231 45.7	107 21.1	38 7.5	43 8.5	91 18.0	110 21.7	20 4.0	27 5.3	74 14.6	61 12.1	15 3.0	11 2.2
女性	560 100.0	410 73.2	126 22.5	346 61.8	95 17.0	21 3.8	9 1.6	88 15.7	137 24.5	8 1.4	19 3.4	59 10.5	66 11.8	27 4.8	9 1.6
18～19歳	82 100.0	51 62.2	15 18.3	39 47.6	10 12.2	4 4.9	7 8.5	14 17.1	20 24.4	5 6.1	4 4.9	9 11.0	10 12.2	6 7.3	2 2.4
20～24歳	204 100.0	124 60.8	50 24.5	93 45.6	34 16.7	16 7.8	6 2.9	32 15.7	63 30.9	4 2.0	9 4.4	27 13.2	29 14.2	8 3.9	4 2.0
25～29歳	183 100.0	132 72.1	60 32.8	94 51.4	38 20.8	8 4.4	9 4.9	35 19.1	38 20.8	0 0.0	7 3.8	19 10.4	19 10.4	7 3.8	4 2.2
30～34歳	240 100.0	177 73.8	64 26.7	141 58.8	37 15.4	9 3.8	14 5.8	42 17.5	44 18.3	9 3.8	10 4.2	25 10.4	25 10.4	5 2.1	6 2.5
35～39歳	346 100.0	242 69.9	66 19.1	206 59.5	80 23.1	22 6.4	16 4.6	51 14.7	80 23.1	10 2.9	13 3.8	51 14.7	43 12.4	16 4.6	4 1.2

## 2. 転入に関する意識調査

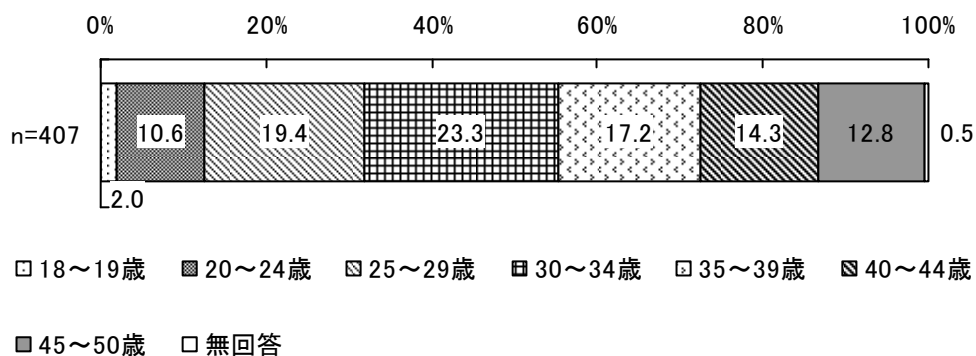
### (1) 性別 [問1]

「男性」の割合が73.7%、「女性」が26.3%となっている。



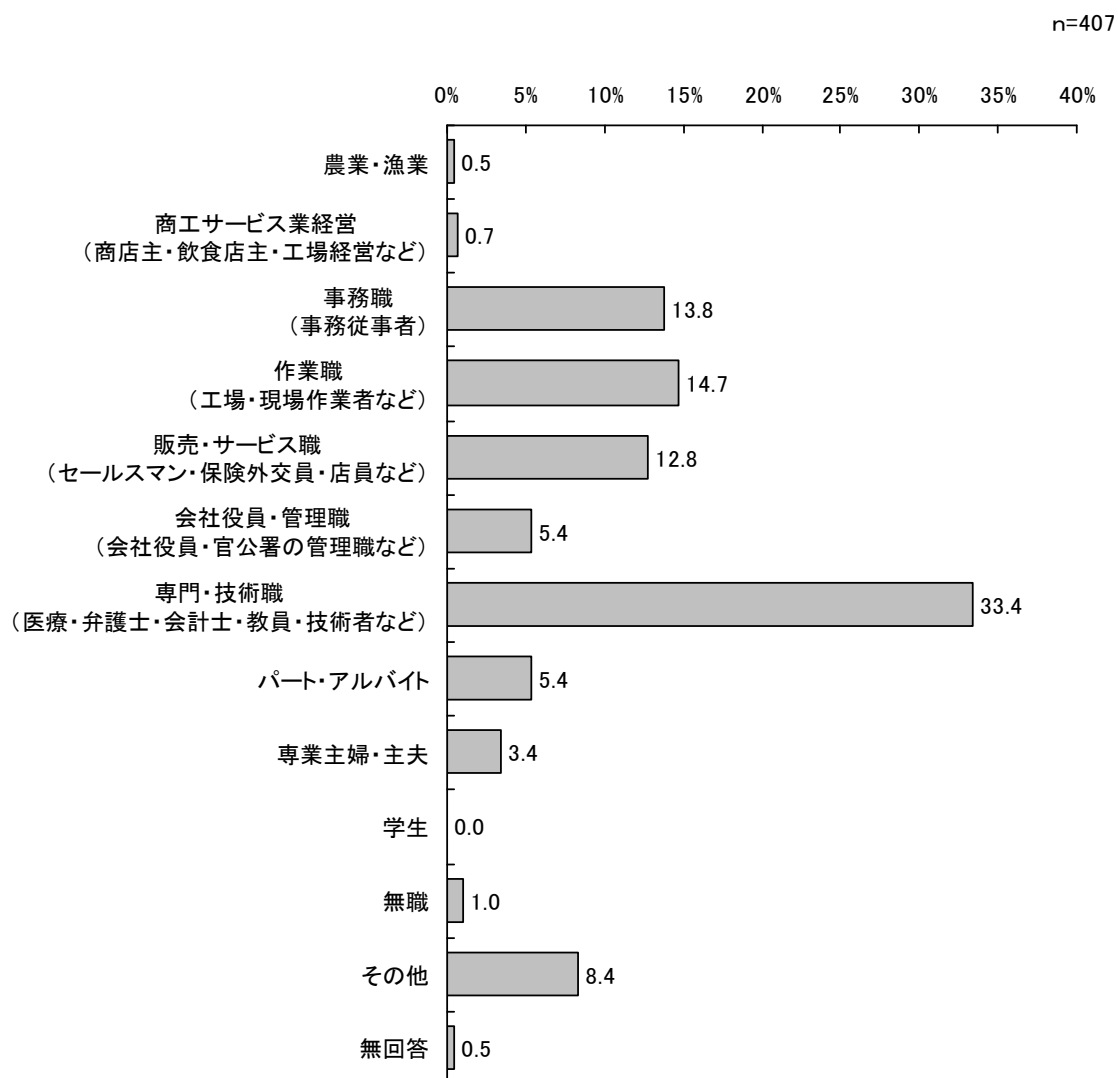
### (2) 年齢 [問2]

「30～34 歳」(23.3%)の割合が最も高く、次いで「25～29 歳」(19.4%)、「35～39 歳」(17.2%)などとなっている。



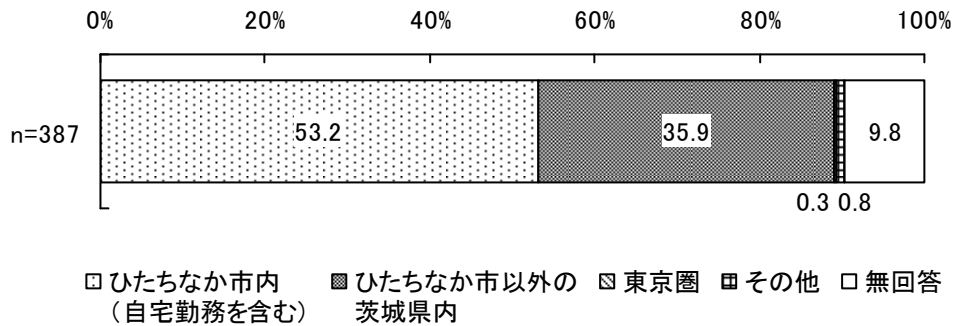
### (3) 職業 [問 3]

「専門・技術職（医療・弁護士・会計士・教員・技術者など）」（33.4%）の割合が最も高く、次いで「作業職（工場・現場作業員など）」（14.7%）, 「事務職（事務従事者）」（13.8%）などとなっている。



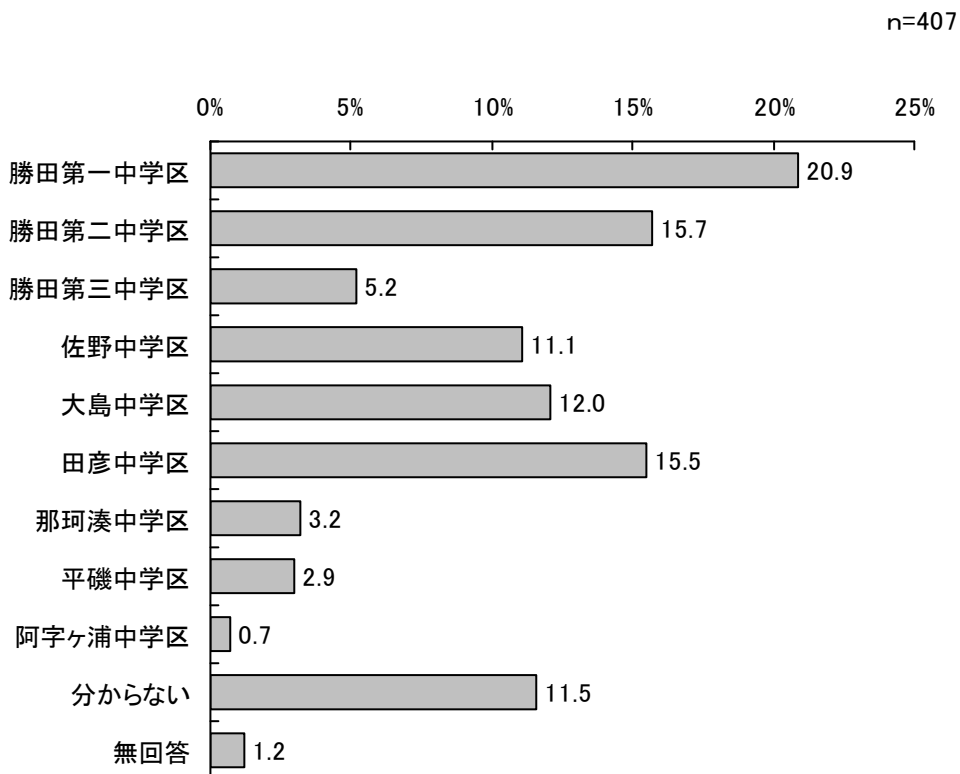
(4) 勤務先 [問 4]

「ひたちなか市内（自宅勤務を含む）」の割合が 53.2%で最も高く、次いで「ひたちなか市以外の茨城県内」が 35.9%となっており、『茨城県内』で勤務する方の割合は約 9 割となっている。



(5) 居住地区 [問 5]

「勝田第一中学校区」（20.9%）の割合が最も高く、次いで「勝田第二中学区」（15.7%）、「田彦中学区」（15.5%）などとなっている。





(6) 転入前の住所地 [問 6]

転入前の住所地を都道府県別にみると、「茨城県」(220件)が圧倒的に多く、次いで「神奈川県」(25件)、「東京都」(23件)などとなっている。

市町村別では、「水戸市」(58件)が最も多く、次いで「日立市」(45件)、「東海村」(27件)などとなっている。

■ 転入前の住所地

都道府県名	件数
茨城県	220
神奈川県	25
東京都	23
千葉県	21
福島県	12
北海道	9
埼玉県	9
栃木県	8
大阪府	5
宮城県	5
愛知県	5

※5件以上回答があったもの

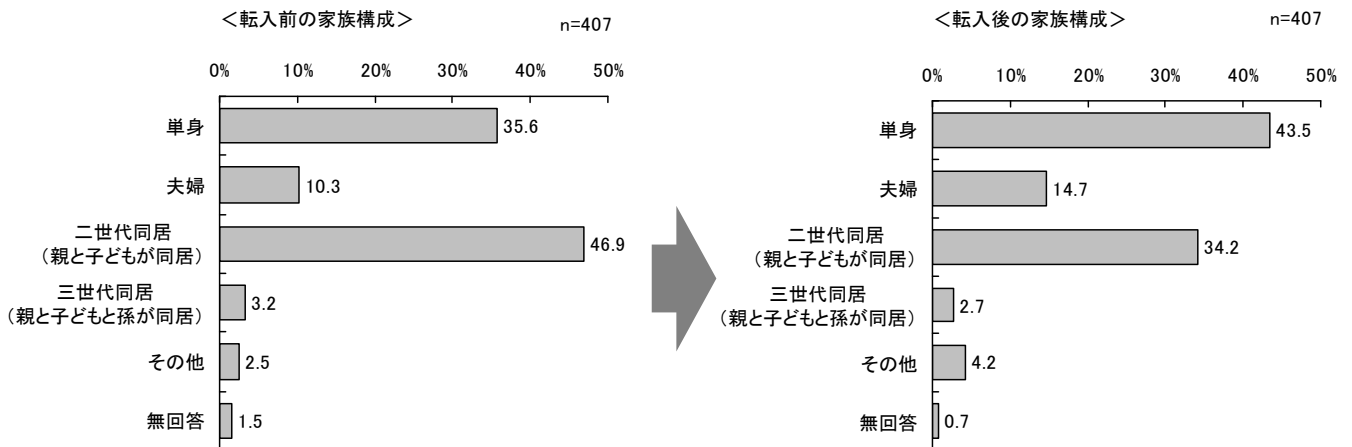
市町村名	件数
茨城県水戸市	58
茨城県日立市	45
茨城県東海村	27
茨城県那珂市	18
東京都23区	16
北海道札幌市	8
神奈川県横浜市	7
茨城県常陸太田市	7
茨城県つくば市	7
茨城県笠間市	6
神奈川県川崎市	5
茨城県土浦市	5

※5件以上回答があったもの

(7) 同居家族の構成（転入前・転入後） [問7]

転入前の家族構成では、「二世世代同居（親と子どもが同居）」（46.9%）の割合が最も高く、次いで「単身」（35.6%）, 「夫婦」（10.3%）, 「三世世代同居」（3.2%）などとなっている。

一方、転入後の家族構成をみると、「単身」（43.5%）と「二世世代同居」（34.2%）が逆転し、「夫婦」（14.7%）は4.4ポイントの増加、「三世世代同居」（2.7%）は0.5ポイントの減少となっている。



転入前の家族類型別に転入後の状況をみると、その他を除き世帯人数が増えた方は以下、網掛け部分に示される。

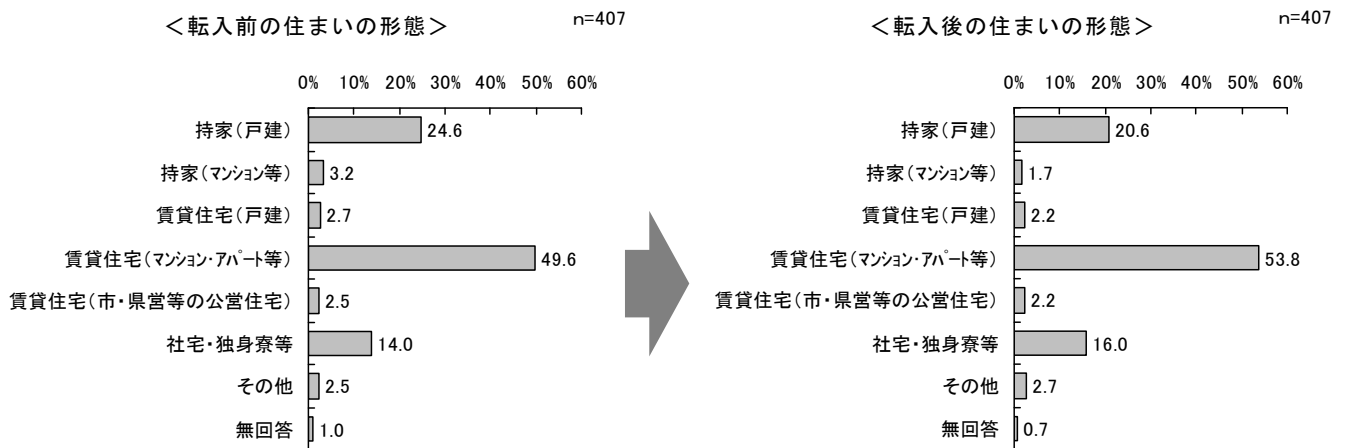
■ 転入前×転入後の家族構成

上段:件 下段:%		合計	転入後					無回答
			単身	夫婦	二世世代同居	三世世代同居	その他	
<b>全体</b>		407 100.0	177 43.5	60 14.7	139 34.2	11 2.7	17 4.2	3 0.7
転入前	単身	145 100.0	105 72.4	12 8.3	18 12.4	3 2.1	7 4.8	0 0.0
	夫婦	42 100.0	2 4.8	27 64.3	12 28.6	0 0.0	1 2.4	0 0.0
	二世世代同居	191 100.0	59 30.9	17 8.9	102 53.4	7 3.7	6 3.1	0 0.0
	三世世代同居	13 100.0	7 53.8	0 0.0	5 38.5	1 7.7	0 0.0	0 0.0
	その他	10 100.0	3 30.0	2 20.0	2 20.0	0 0.0	3 30.0	0 0.0

(8) 住まいの形態（転入前・転入後） [問 8]

転入前の住まいの形態では、「賃貸住宅（マンション・アパート等）」（49.6％）の割合が最も高く、次いで「持家（戸建）」（24.6％）, 「社宅・独身寮等」（14.0％）などとなっている。

一方、転入後の住まいの形態をみると、「賃貸住宅（マンション・アパート等）」（53.8％）は4.2ポイントの増加, 「持家（戸建）」（20.6％）は4.0ポイントの減少, 「社宅・独身寮等」（16.0％）は2.0ポイントの増加などとなっている。



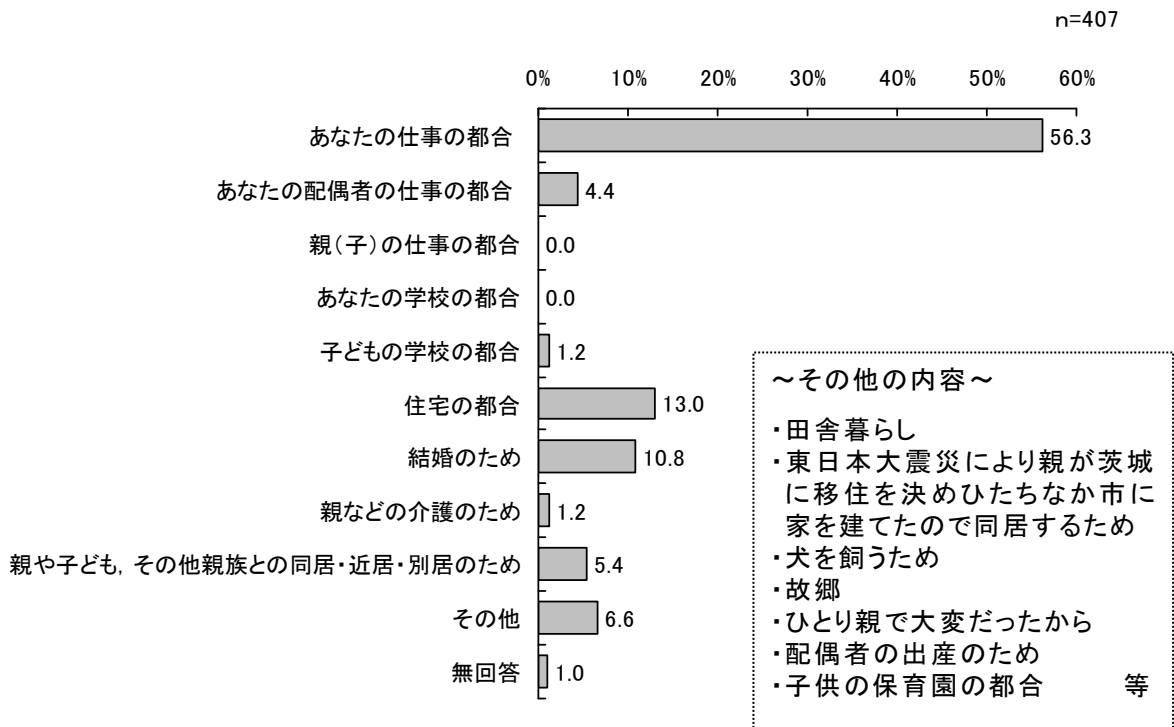
転入前は「賃貸住宅」もしくは「社宅・独身寮等」にお住まいの方（計 280 名※「その他」を除く）のうち、転入後に住宅を購入した方（計 77 名）は、27.5%で約 4 人に 1 人の割合となっている。

■ 転入前×転入後の住まいの形態

上段:件 下段:%	合計	転入後							
		持家(戸建)	持家(マンション等)	賃貸住宅(戸建)	賃貸住宅(マンション・アパート等)	賃貸住宅(市・県営等の公営住宅)	社宅・独身寮等	その他	無回答
<b>全体</b>	407 100.0	84 20.6	7 1.7	9 2.2	219 53.8	9 2.2	65 16.0	11 2.7	3 0.7
転入前	持家(戸建)	100 100.0	12 12.0	1 1.0	3 3.0	61 61.0	2 2.0	21 21.0	0 0.0
	持家(マンション等)	13 100.0	0 0.0	1 7.7	1 7.7	5 38.5	0 0.0	5 38.5	1 7.7
	賃貸住宅(戸建)	11 100.0	3 27.3	0 0.0	1 9.1	6 54.5	0 0.0	0 0.0	1 9.1
	賃貸住宅(マンション・アパート等)	202 100.0	53 26.2	4 2.0	4 2.0	109 54.0	6 3.0	22 10.9	4 2.0
	賃貸住宅(市・県営等の公営住宅)	10 100.0	6 60.0	1 10.0	0 0.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0
	社宅・独身寮等	57 100.0	10 17.5	0 0.0	0 0.0	30 52.6	0 0.0	16 28.1	1 1.8
	その他	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 60.0	0 0.0	1 10.0	3 30.0
		280名	77名						

(9) 転入の主なきっかけ [問 9]

「あなたの仕事の都合」(56.3%)の割合が最も高く、次いで「住宅の都合」(13.0%)、「結婚のため」(10.8%)などとなっている。



男女別では、男性では「住宅の都合」、女性では「親や子ども, その他親族との同居・近居・別居のため」の割合が比較的高いなどの特徴が見られる。

年齢別では、30歳以上で「住宅の都合」、25～34歳の年代で「結婚のため」の割合が比較的高くなっている。

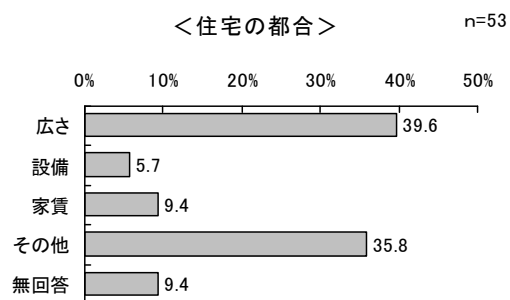
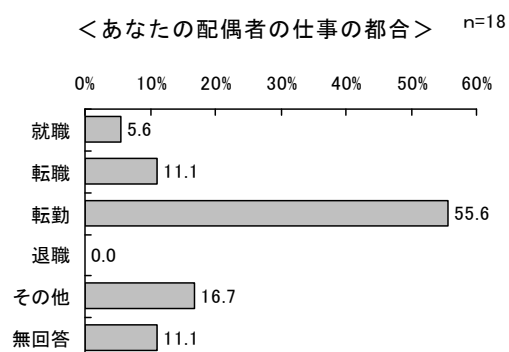
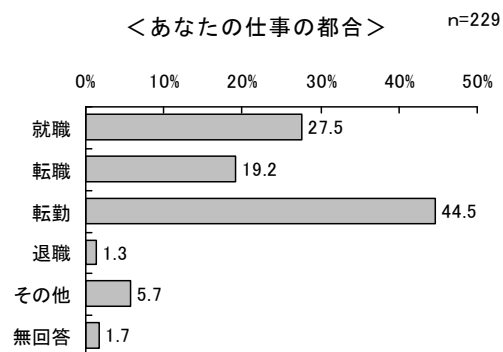
■男女・年齢別

上段:件 下段:%	合計	あなたの 仕事の都合	あなたの 配偶者の 仕事の都合	親(子)の 仕事の都合	あなたの 学校の都合	子どもの 学校の都合	住宅の都合	結婚のため	親などの 介護のため	親や子ども, その他親族との 同居・近居・別居のため	その他	無回答
全体	407 100.0	229 56.3	18 4.4	0 0.0	0 0.0	5 1.2	53 13.0	44 10.8	5 1.2	22 5.4	27 6.6	4 1.0
男性	300 100.0	182 60.7	4 1.3	0 0.0	0 0.0	2 0.7	43 14.3	37 12.3	3 1.0	11 3.7	15 5.0	3 1.0
女性	107 100.0	47 43.9	14 13.1	0 0.0	0 0.0	3 2.8	10 9.3	7 6.5	2 1.9	11 10.3	12 11.2	1 0.9
18～19歳	8 100.0	6 75.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 25.0
20～24歳	43 100.0	36 83.7	1 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 4.7	2 4.7	0 0.0	0 0.0	2 4.7	0 0.0
25～29歳	79 100.0	55 69.6	1 1.3	0 0.0	0 0.0	2 2.5	1 1.3	10 12.7	0 0.0	4 5.1	6 7.6	0 0.0
30～34歳	95 100.0	32 33.7	9 9.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	21 22.1	20 21.1	0 0.0	9 9.5	4 4.2	0 0.0
35～39歳	70 100.0	42 60.0	4 5.7	0 0.0	0 0.0	2 2.9	10 14.3	6 8.6	0 0.0	1 1.4	3 4.3	2 2.9
40～44歳	58 100.0	27 46.6	3 5.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 19.0	5 8.6	2 3.4	5 8.6	5 8.6	0 0.0
45～50歳	52 100.0	31 59.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.9	7 13.5	1 1.9	3 5.8	3 5.8	6 11.5	0 0.0

転入の主なきっかけの具体的内容をみると、「あなたの仕事の都合」と回答した方のうち、4割台半ばの方が「転勤」で最も割合が高く、3割弱が「就職」、約2割が「転職」などとなっている。

また、「あなたの配偶者の仕事の都合」と回答した方のうち、5割台半ばの方が「転勤」で最も高くなっている。

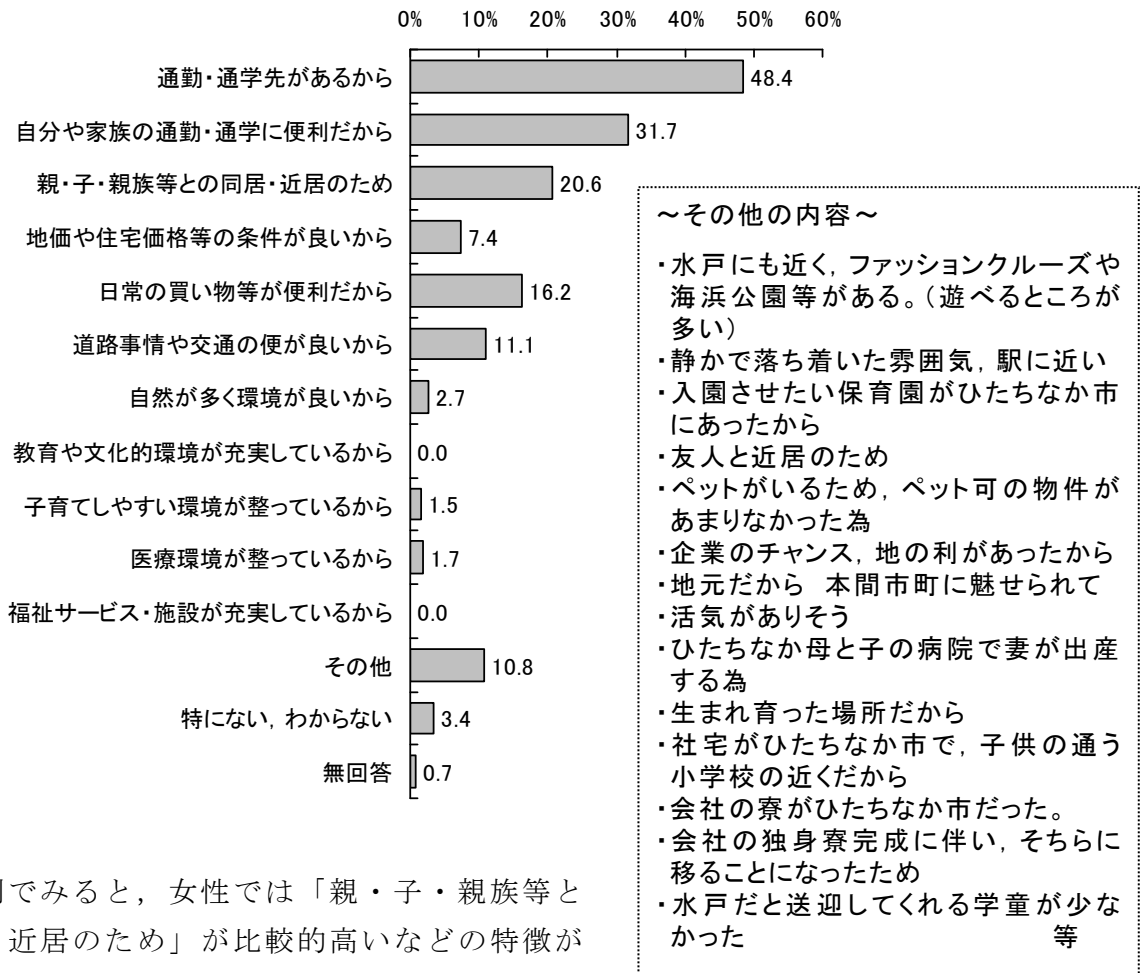
「住宅の都合」と回答した方のうち、約4割の方が「広さ」で最も割合が高く、次いで「その他」となっており、その他の内容は「新築した」「住宅を購入した」などの回答が多く挙げられている。



(10) 転入を決めた主な理由 [問 10]

「通勤・通学先があるから」(48.4%)の割合が最も高く、次いで「自分や家族の通勤・通学に便利だから」(31.7%)、「親・子・親族等との同居・近居のため」(20.6%)などとなっている。

n=407



男女別で見ると、女性では「親・子・親族等との同居・近居のため」が比較的高いなどの特徴が見られる。

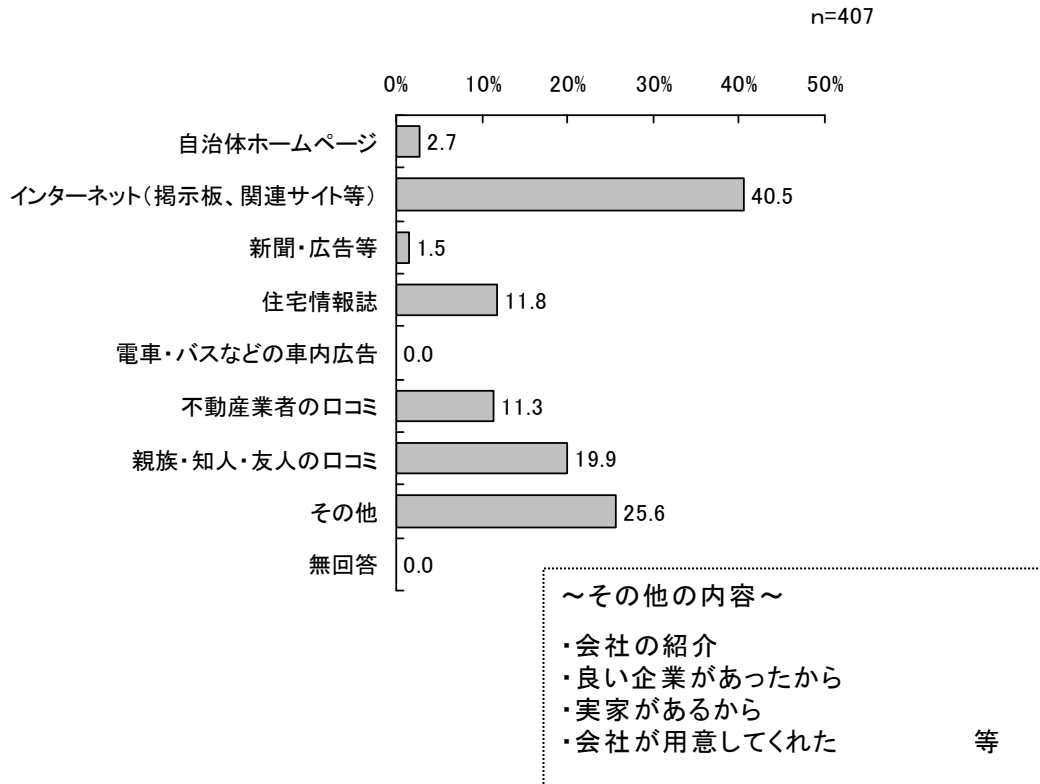
年齢別では、30～34歳で「自分や家族の通勤・通学に便利だから」、35～39歳で「日常の買い物等が便利だから」の割合が比較的高くなっている。

■男女・年齢別

上段:件 下段:%	合計	通勤・通学先があるから	自分や家族の通勤・通学に便利だから	親・子・親族等との同居・近居のため	地価や住宅価格等の条件が良いから	日常の買い物等が便利だから	道路事情や交通の便が良いから	自然が多く環境が良いから	教育や文化的環境が充実しているから	子育てしやすい環境が整っているから	医療環境が整っているから	福祉サービス・施設が充実しているから	その他	特にない, わからない	無回答
全体	407 100.0	197 48.4	129 31.7	84 20.6	30 7.4	86 16.2	45 11.1	11 2.7	0 0.0	6 1.5	7 1.7	0 0.0	44 10.8	14 3.4	3 0.7
男性	300 100.0	145 48.3	97 32.3	56 18.7	22 7.3	51 17.0	35 11.7	6 2.0	0 0.0	5 1.7	5 1.7	0 0.0	29 9.7	12 4.0	3 1.0
女性	107 100.0	52 48.6	32 29.9	28 26.2	8 7.5	15 14.0	10 9.3	5 4.7	0 0.0	1 0.9	2 1.9	0 0.0	15 14.0	2 1.9	0 0.0
18～19歳	8 100.0	5 62.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 25.0	1 12.5
20～24歳	43 100.0	27 62.8	10 23.3	5 11.6	3 7.0	6 14.0	1 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 16.3	1 2.3	0 0.0
25～29歳	79 100.0	45 57.0	24 30.4	11 13.9	4 5.1	9 11.4	8 10.1	2 2.5	0 0.0	0 0.0	1 1.3	0 0.0	8 10.1	3 3.8	0 0.0
30～34歳	95 100.0	39 41.1	37 38.9	27 28.4	9 9.5	18 18.9	12 12.6	4 4.2	0 0.0	2 2.1	3 3.2	0 0.0	6 6.3	0 0.0	0 0.0
35～39歳	70 100.0	34 48.6	25 35.7	10 14.3	6 8.6	17 24.3	8 11.4	1 1.4	0 0.0	2 2.9	2 2.9	0 0.0	9 12.9	3 4.3	2 2.9
40～44歳	58 100.0	25 43.1	14 24.1	18 31.0	3 5.2	9 15.5	9 15.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.7	0 0.0	10 17.2	2 3.4	0 0.0
45～50歳	52 100.0	21 40.4	19 36.5	12 23.1	5 9.6	7 13.5	7 13.5	4 7.7	0 0.0	2 3.8	0 0.0	0 0.0	4 7.7	2 3.8	0 0.0

(11) 転入先を探したときの主な情報源 [問 11]

「インターネット（掲示板、関連サイト等）」（40.5%）の割合が最も高く、次いで「親族・知人・友人の口コミ」（19.9%）、「住宅情報誌」（11.8%）などとなっている。「その他」の具体的内容で多く挙げられたのは、「社宅」や「会社の紹介」であった。



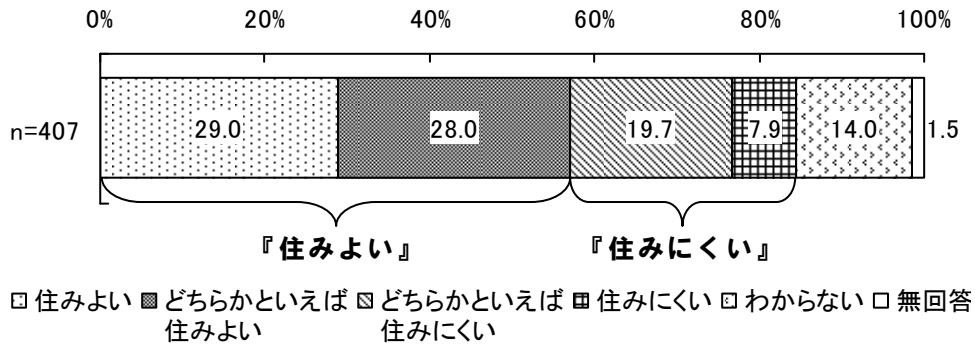
男女別では、全体とほぼ同様の結果だが、年齢別では、30歳代で「住宅情報誌」、45～50歳の年代で「親族・知人・友人の口コミ」の割合が高いなどの特徴がみられる。

■ 男女・年齢別

上段:件 下段:%	合計	自治体 ホーム ページ	インテ ーネッ ト(掲 示板、 関連サ イト 等)	新聞・広 告等	住宅情報 誌	電車・バ スなど の車内 広告	不動産業 者の口 コミ	親族・知 人・友 人の口 コミ	その他	無回答
全体	407 100.0	11 2.7	165 40.5	6 1.5	48 11.8	0 0.0	46 11.3	81 19.9	104 25.6	0 0.0
男性	300 100.0	8 2.7	122 40.7	5 1.7	33 11.0	0 0.0	33 11.0	61 20.3	75 25.0	0 0.0
女性	107 100.0	3 2.8	43 40.2	1 0.9	15 14.0	0 0.0	13 12.1	20 18.7	29 27.1	0 0.0
18～19歳	8 100.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	4 50.0	0 0.0
20～24歳	43 100.0	2 4.7	15 34.9	0 0.0	3 7.0	0 0.0	7 16.3	6 14.0	15 34.9	0 0.0
25～29歳	79 100.0	2 2.5	29 36.7	1 1.3	6 7.6	0 0.0	4 5.1	14 17.7	26 32.9	0 0.0
30～34歳	95 100.0	2 2.1	45 47.4	0 0.0	15 15.8	0 0.0	12 12.6	20 21.1	15 15.8	0 0.0
35～39歳	70 100.0	2 2.9	25 35.7	1 1.4	11 15.7	0 0.0	5 7.1	14 20.0	16 22.9	0 0.0
40～44歳	58 100.0	3 5.2	24 41.4	1 1.7	8 13.8	0 0.0	10 17.2	11 19.0	17 29.3	0 0.0
45～50歳	52 100.0	0 0.0	24 46.2	3 5.8	5 9.6	0 0.0	8 15.4	15 28.8	11 21.2	0 0.0

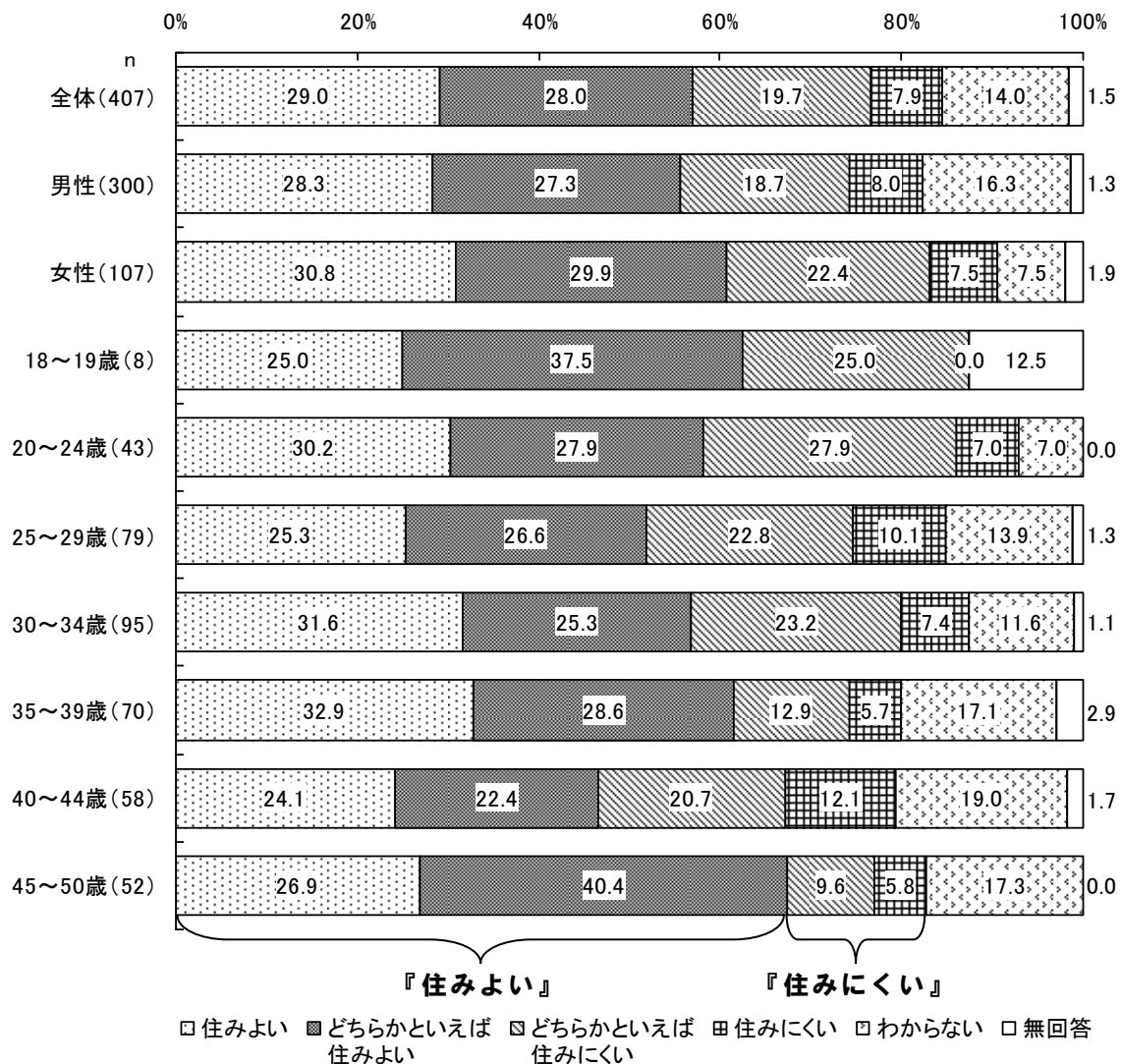
(12) 前住地と比較したひたちなか市の住み心地 [問 12]

「住みよい」(29.0%)と「どちらかと言えば住みよい」(28.0%)をあわせた『住みよい』の回答は57.0%で、「住みにくい」(7.9%)「どちらかと言えば住みにくい」(14.0%)をあわせた『住みにくい』の割合(27.6%)の2倍を超えている。



男女別でみると、『住みよい』の割合は女性が高く、『住みにくい』についても女性の方が高くなっている。ただし「住みにくい」の割合は男性の方がやや高い。

年齢別では、『住みよい』の割合は45～50歳の年代で高く、『住みにくい』については20～24歳で最も高くなっている。





(13) 住みよさを感じる部分 [問 12-1]

問 12 で「住みよい」「どちらかといえば住みよい」と回答した方に、住みよさを感じる場所について具体的に記入していただいた結果を分類したところ、「生活利便性（買い物ほか）が高い」（27 件）、「交通の利便性が高い」（15 件）、「都会過ぎず、田舎過ぎない、静か等」（8 件）などが上位に挙げられた。

具体的な内容	件数
生活利便性(買い物ほか)が高い	27
交通の利便性が高い	15
都会過ぎず、田舎過ぎない、静か等	8
地元・故郷(が近い)で愛着がある	4
豊かな自然環境	2
医療機関が充実	2
人が親切、やさしい	2
全体	60

(14) 住みにくさを感じる部分 [問 12-2]

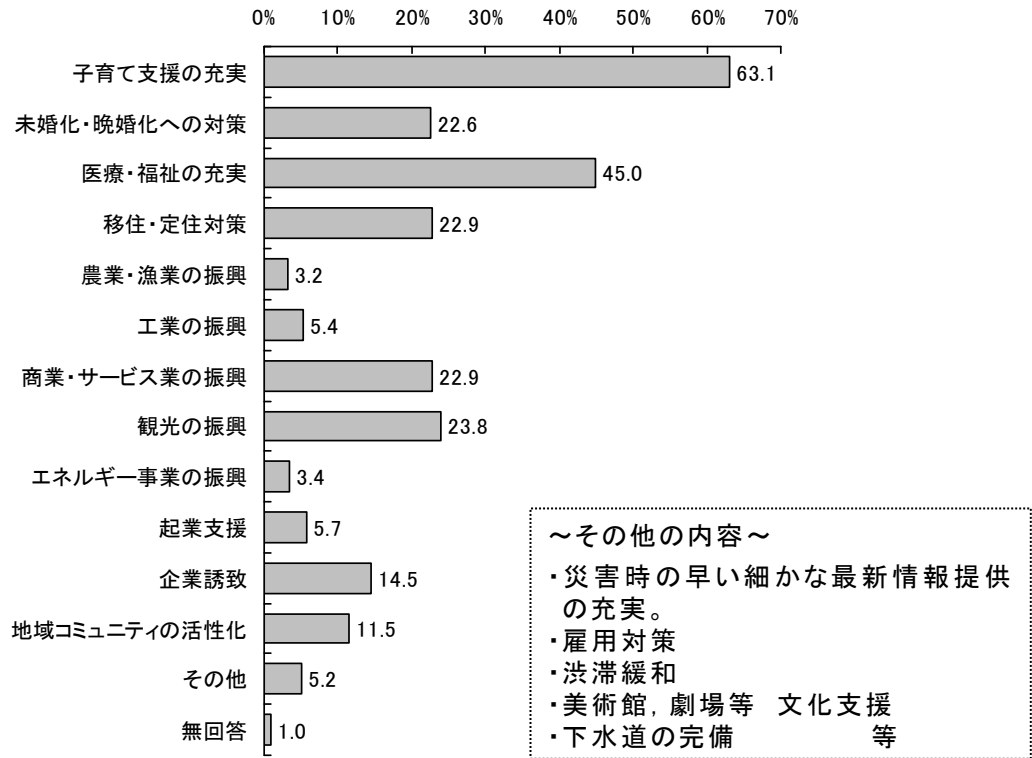
問 12 で「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」と回答した方に、住みにくさを感じる場所について具体的に記入していただいた結果を分類したところ、「公共交通が不便」（11 件）、「生活利便性（買い物ほか）が低い」（7 件）、「子育て・教育環境が不十分」（4 件）などとなっている。

具体的内容	件数
公共交通が不便	11
生活利便性(買い物ほか)が低い	7
子育て・教育環境が不十分	4
渋滞等交通環境が悪い	3
ゴミ出しが不便	3
子どもの医療費助成等が不十分	2
その他	3
全体	33

(15) 人口減少社会におけるまちづくりについて [問 13]

「子育て支援の充実」(63.1%)の割合が最も高く、次いで「医療・福祉の充実」(45.0%)、ほぼ同程度の割合で「観光の振興」(23.8%)、「移住・定住対策」(22.9%)、「商業・サービス業の振興」(22.9%)、「未婚化・晩婚化への対策」(22.6%)などの順となっている。

n=407



男女別でみると、男性では「未婚化・晩婚化への対策」「移住・定住対策」「企業誘致」の割合が高く、女性では「医療・福祉の充実」「観光の振興」「地域コミュニティの活性化」が比較的高くなっている。

年齢別では、20～24歳の年代で「商業・サービス業の振興」「観光の振興」が、40歳代で「医療・福祉の充実」、45歳～50歳で「移住・定住対策」が高くなっている。

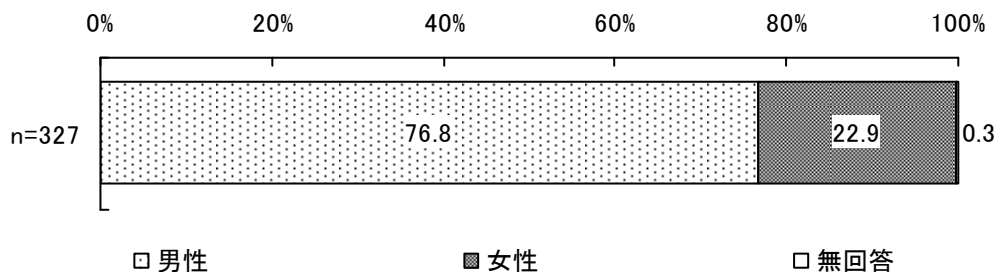
■男女・年齢別

上段:件 下段:%	合計	子育て支援の充実	未婚化・晩婚化への対策	医療・福祉の充実	移住・定住対策	農業・漁業の振興	工業の振興	商業・サービス業の振興	観光の振興	エネルギー事業の振興	起業支援	企業誘致	地域コミュニティの活性化	その他	無回答
全体	407 100.0	257 63.1	92 22.6	183 45.0	93 22.9	13 3.2	22 5.4	93 22.9	97 23.8	14 3.4	23 5.7	59 14.5	47 11.5	21 5.2	4 1.0
男性	300 100.0	186 62.0	73 24.3	129 43.0	72 24.0	12 4.0	19 6.3	69 23.0	65 21.7	8 2.7	19 6.3	50 16.7	32 10.7	15 5.0	2 0.7
女性	107 100.0	71 66.4	19 17.8	54 50.5	21 19.6	1 0.9	3 2.8	24 22.4	32 29.9	6 5.6	4 3.7	9 8.4	15 14.0	6 5.6	2 1.9
18～19歳	8 100.0	4 50.0	3 37.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	1 12.5	2 25.0	2 25.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0
20～24歳	43 100.0	21 48.8	9 20.9	13 30.2	5 11.6	1 2.3	3 7.0	15 34.9	18 41.9	0 0.0	1 2.3	5 11.6	6 14.0	1 2.3	0 0.0
25～29歳	79 100.0	48 60.8	20 25.3	27 34.2	23 29.1	2 2.5	5 6.3	15 19.0	19 24.1	4 5.1	7 8.9	10 12.7	10 12.7	4 5.1	1 1.3
30～34歳	95 100.0	74 77.9	20 21.1	51 53.7	21 22.1	3 3.2	5 5.3	21 22.1	17 17.9	3 3.2	3 3.2	12 12.6	10 10.5	3 3.2	1 1.1
35～39歳	70 100.0	50 71.4	15 21.4	32 45.7	14 20.0	3 4.3	4 5.7	18 25.7	15 21.4	3 4.3	4 5.7	13 18.6	6 8.6	5 7.1	0 0.0
40～44歳	58 100.0	34 58.6	12 20.7	34 58.6	11 19.0	3 5.2	1 1.7	8 13.8	14 24.1	1 1.7	5 8.6	9 15.5	9 15.5	2 3.4	1 1.7
45～50歳	52 100.0	25 48.1	12 23.1	25 48.1	18 34.6	1 1.9	3 5.8	14 26.9	12 23.1	3 5.8	2 3.8	10 19.2	5 9.6	5 9.6	1 1.9

### 3. 転出に関する意識調査

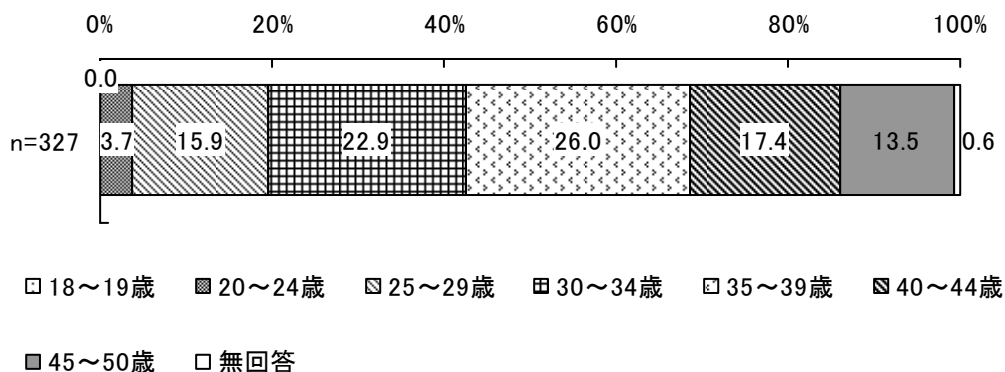
#### (1) 性別 [問 1]

「男性」の割合が 76.8%，「女性」が 22.9%となっている。



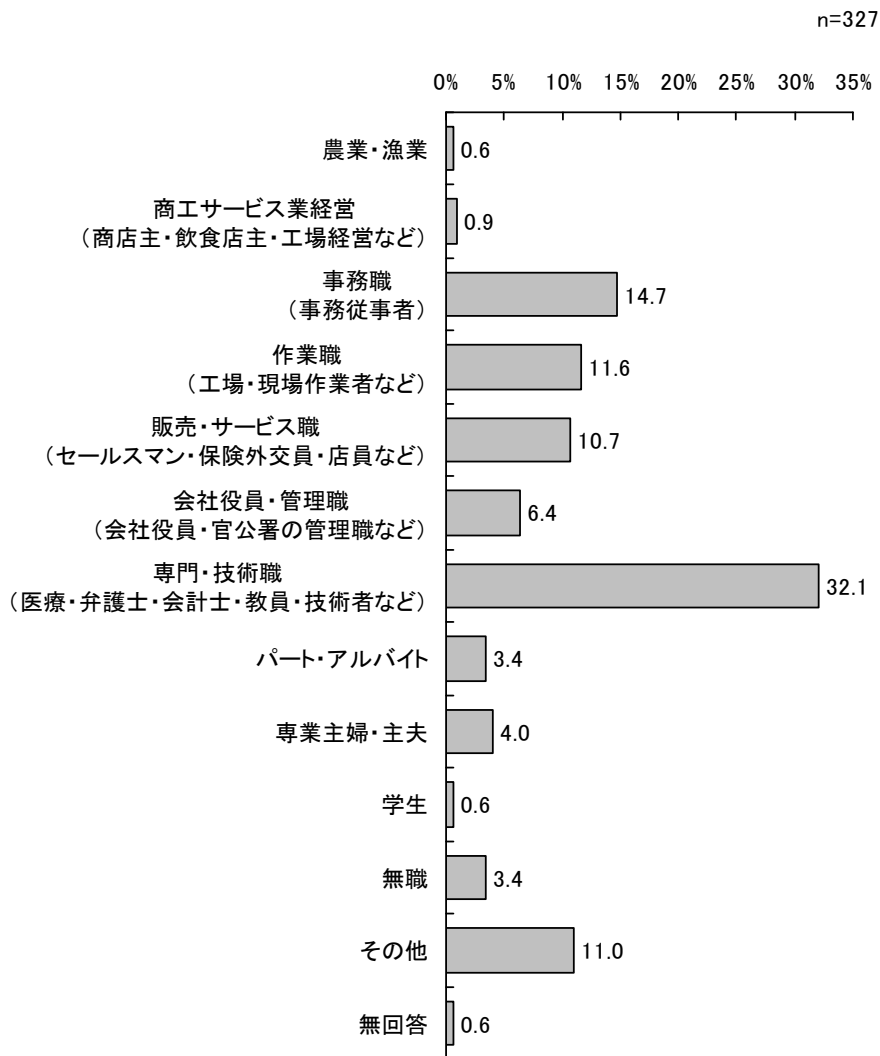
#### (2) 年齢 [問 2]

「35～39 歳」(26.0%)の割合が最も高く、次いで「30～34 歳」(22.9%)，「40～44 歳」(17.4%)などとなっている。



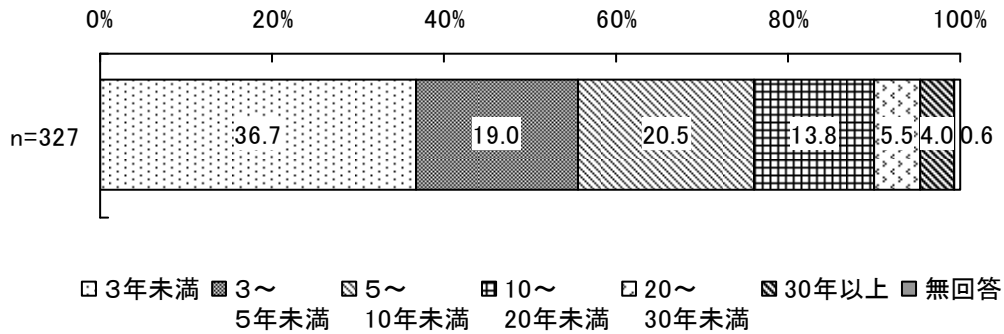
### (3) 職業 [問 3]

「専門・技術職（医療・弁護士・会計士・教員・技術者など）」（32.1%）の割合が最も高く、次いで「事務職（事務従事者）」（14.7%），「作業職（向上・現場作業員など）」（11.6%）などとなっている。



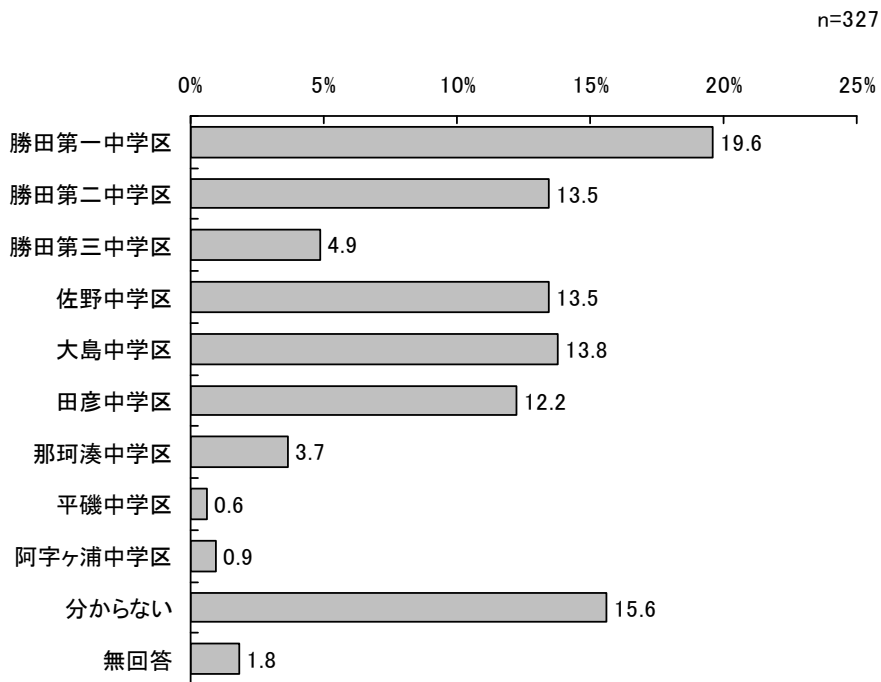
(4) 市内居住年数 [問 4]

ひたちなか市での居住年数をたずねたところ、「3年未満」(36.7%)の割合が最も高く、次いで「5～10年未満」(20.5%)、「3～5年未満」(19.0%)などの順で、転出者のうち4人に3人が市内居住暦10年未満の方となっている。



(5) 居住地区 [問 5]

「勝田第一中学校区」(19.6%)の割合が最も高く、次いで「大島中学校区」(13.8%)、「勝田第二中学校区」「佐野中学校区」(ともに13.5%)などとなっている。



(6) 転出後の住所地 [問 6]

転出後の住所地を都道府県別にみると、「茨城県」(156件)が圧倒的に多く、次いで「東京都」(26件)、「神奈川県」(16件)などとなっている。

市町村別では、「水戸市」(45件)が最も多く、次いで「那珂市」「東京都 23区」(ともに22件)、「東海村」などとなっている。

■ 転入前の住所地

都道府県名	件数
茨城県	156
東京都	26
神奈川県	16
栃木県	15
埼玉県	13
千葉県	12
北海道	8
宮城県	7
福島県	6
静岡県	6
三重県	5

※5件以上回答があったもの

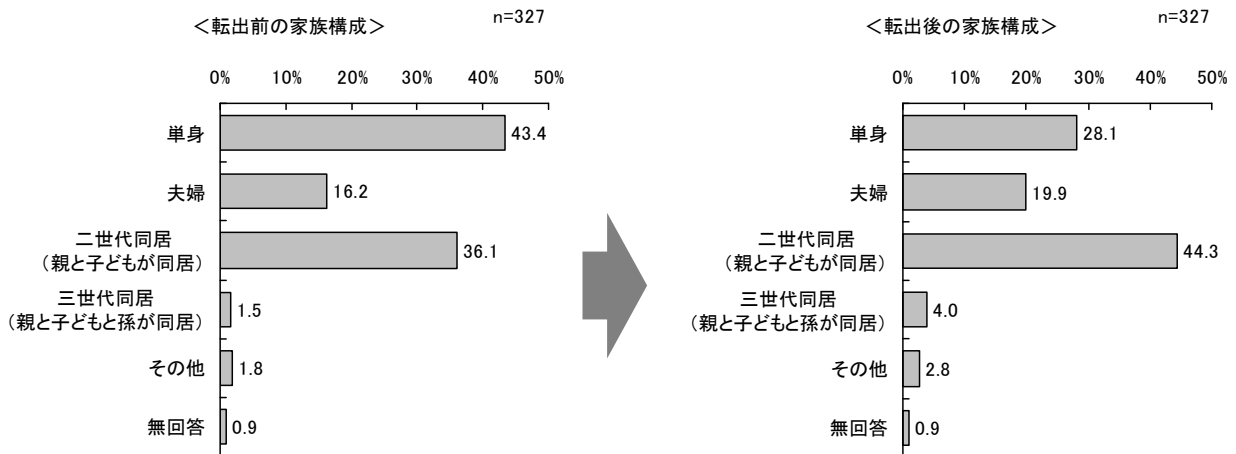
市町村名	件数
茨城県水戸市	45
茨城県那珂市	22
東京都23区	22
茨城県東海村	15
茨城県日立市	14
神奈川県横浜市	7
茨城県笠間市	7
北海道札幌市	6
栃木県宇都宮市	5
神奈川県厚木市	5
埼玉県さいたま市	5
茨城県常陸太田市	5
茨城県つくば市	5

※5件以上回答があったもの

(7) 同居家族の構成（転出前・転出後） [問7]

転出前の家族構成では、「単身」（43.4%）の割合が最も高く、次いで「二世世代同居（親と子どもが同居）」（36.1%）, 「夫婦」（16.2%）, 「三世世代同居（親と子どもと孫が同居）」（1.5%）などとなっている。

一方、転入後の家族構成をみると、「二世世代同居」（44.3%）と「単身」（28.1%）が逆転し、「夫婦」（19.9%）は3.7ポイントの増加、「三世世代同居」（4.0%）も2.5ポイントの増加となっている。



転出前の家族類型別に転出後の状況をみると、その他を除き世帯人数が増えた方は以下、網掛け部分に示される。

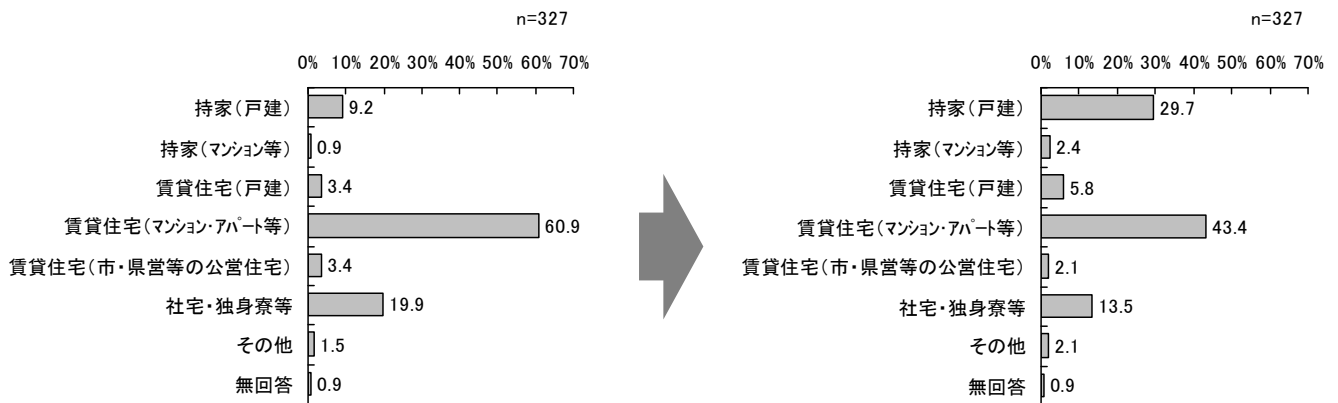
■ 転出前×転出後の家族構成

上段:件 下段:%		合計	転出後					
			単身	夫婦	二世世代同居	三世世代同居	その他	無回答
<b>全体</b>		327 100.0	92 28.1	65 19.9	145 44.3	13 4.0	9 2.8	3 0.9
転出前	単身	142 100.0	80 56.3	30 21.1	25 17.6	2 1.4	5 3.5	0 0.0
	夫婦	53 100.0	2 3.8	32 60.4	16 30.2	3 5.7	0 0.0	0 0.0
	二世世代同居	118 100.0	9 7.6	2 1.7	99 83.9	7 5.9	1 0.8	0 0.0
	三世世代同居	5 100.0	0 0.0	0 0.0	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
	その他	6 100.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	0 0.0	3 50.0	0 0.0

(8) 住まいの形態（転出前・転出後） [問 8]

転出前の住まいの形態では、「賃貸住宅（マンション・アパート等）」（60.9%）の割合が最も高く、次いで「社宅・独身寮等」（19.9%）, 「持家（戸建）」（9.2%）などとなっている。

一方、転入後の住まいの形態をみると、「賃貸住宅（マンション・アパート等）」（43.4%）は 17.5 ポイントの減少, 「社宅・独身寮等」（13.5%）は 6.4 ポイントの減少となっている一方, 「持家（戸建）」（29.7%）が 20.5 ポイントの増加などとなっており, 転出後に住宅を取得した方が多いことがうかがえる。



転出前は「賃貸住宅」もしくは「社宅・独身寮等」にお住まいの方（計 286 名※「その他」を除く）のうち、転出後に住宅を購入した方（計 96 名）は、33.6%で約 3 人に 1 人の割合となっている。

■ 転出前×転出後の住まいの形態

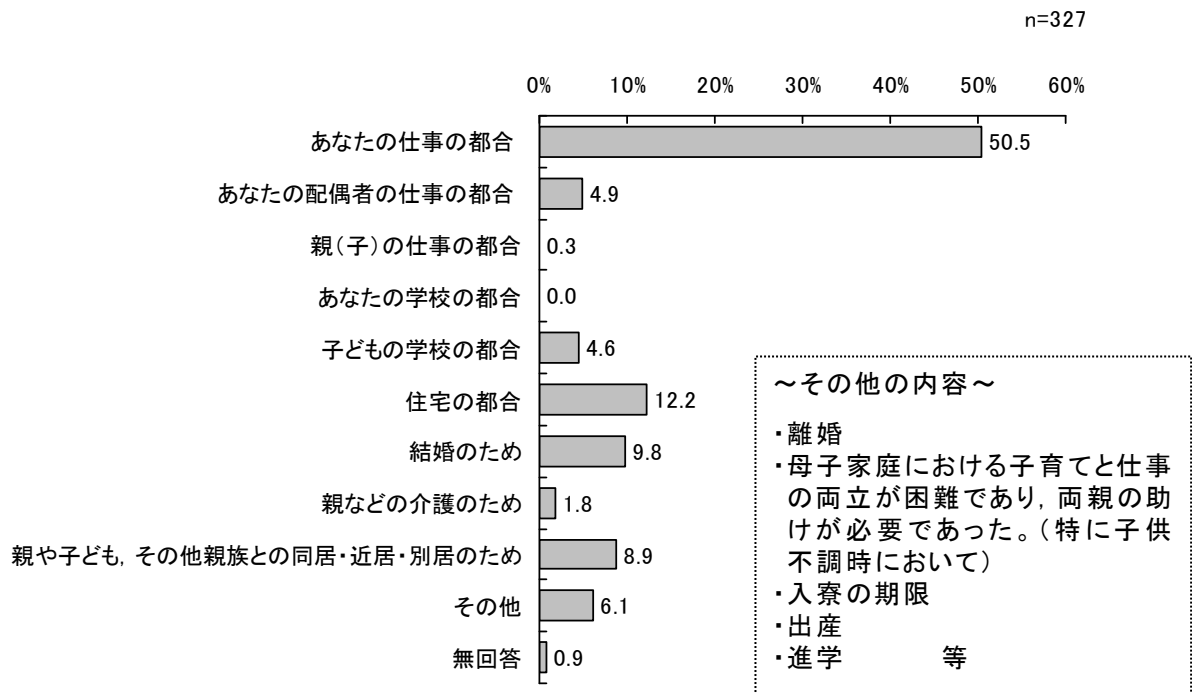
上段:件 下段:%	合計	転出後								
		持家(戸建)	持家(マンション等)	賃貸住宅(戸建)	賃貸住宅(マンション・アパート等)	賃貸住宅(市・県営等の公営住宅)	社宅・独身寮等	その他	無回答	
<b>全体</b>	<b>327</b>	<b>97</b>	<b>8</b>	<b>19</b>	<b>142</b>	<b>7</b>	<b>44</b>	<b>7</b>	<b>3</b>	
	100.0	29.7	2.4	5.8	43.4	2.1	13.5	2.1	0.9	
転出前	持家(戸建)	30	7	0	4	13	1	4	1	0
		100.0	23.3	0.0	13.3	43.3	3.3	13.3	3.3	0.0
	持家(マンション等)	3	0	1	1	1	0	0	0	0
		100.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	賃貸住宅(戸建)	11	3	0	3	4	0	1	0	0
		100.0	27.3	0.0	27.3	36.4	0.0	9.1	0.0	0.0
	賃貸住宅(マンション・アパート等)	199	70	6	7	99	3	10	4	0
	100.0	35.2	3.0	3.5	49.7	1.5	5.0	2.0	0.0	
賃貸住宅(市・県営等の公営住宅)	11	4	0	2	2	2	1	0	0	
	100.0	36.4	0.0	18.2	18.2	18.2	9.1	0.0	0.0	
社宅・独身寮等	65	12	1	2	21	1	27	1	0	
	100.0	18.5	1.5	3.1	32.3	1.5	41.5	1.5	0.0	
その他	5	1	0	0	2	0	1	1	0	
	100.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	20.0	20.0	0.0	

↓ 286名
↓ 96名



(9) 転出の主なきっかけ [問 9]

「あなたの仕事の都合」(50.5%)の割合が最も高く、次いで「住宅の都合」(12.2%)、「結婚のため」(9.8%)などとなっている。



男女別で見ると、男性では「住宅の都合」の割合が比較的高く、女性では「結婚のため」「あなたの配偶者の都合」「親や子ども、その他親族との同居・近居・別居のため」などが比較的高くなっている。

年齢別では、20～24歳で「結婚のため」、35～44歳の年代で「住宅の都合」の割合が比較的高くなっている。

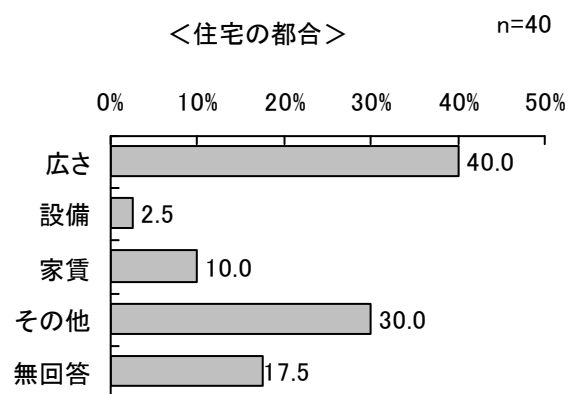
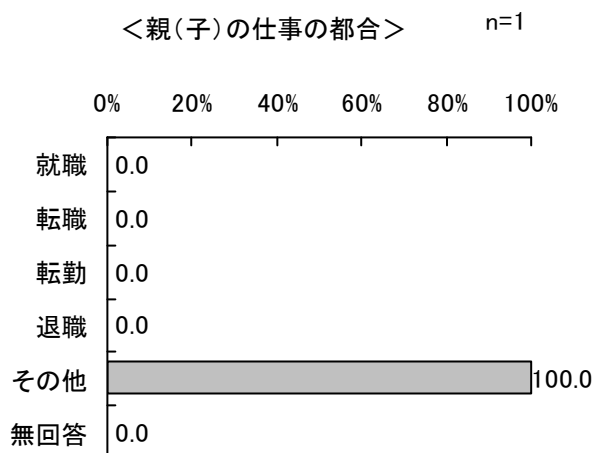
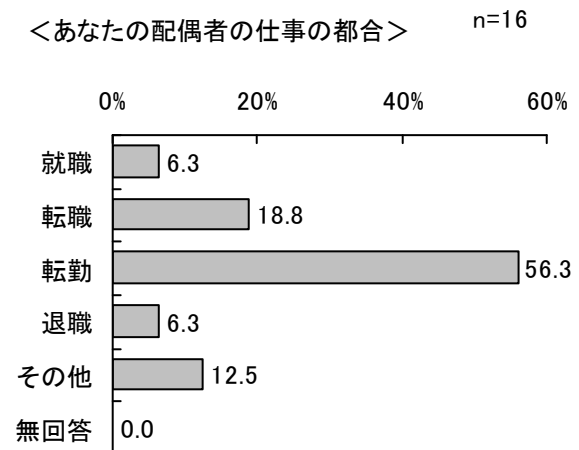
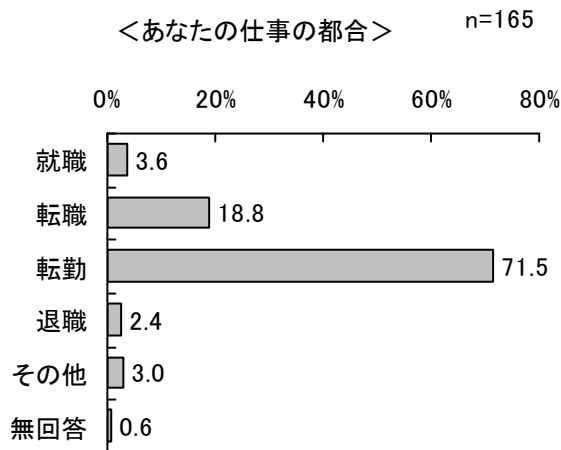
■男女・年齢別

上段:件 下段:%	合計	あなたの 仕事の都合	あなたの 配偶者の 仕事の都合	親(子)の 仕事の都合	あなたの 学校の都合	子どもの 学校の都合	住宅の都合	結婚のため	親などの 介護のため	親や子ども, その他親族との同居・近居・別居のため	その他	無回答
全体	327 100.0	165 50.5	16 4.9	1 0.3	0 0.0	15 4.6	40 12.2	32 9.8	6 1.8	29 8.9	20 6.1	3 0.9
男性	251 100.0	146 58.2	4 1.6	0 0.0	0 0.0	11 4.4	35 13.9	16 6.4	6 2.4	19 7.6	12 4.8	2 0.8
女性	75 100.0	19 25.3	12 16.0	1 1.3	0 0.0	4 5.3	5 6.7	16 21.3	0 0.0	10 13.3	8 10.7	0 0.0
20～24歳	12 100.0	5 41.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 16.7	1 8.3	1 8.3	1 8.3	2 16.7	0 0.0
25～29歳	52 100.0	21 40.4	4 7.7	0 0.0	0 0.0	1 1.9	6 11.5	13 25.0	0 0.0	3 5.8	4 7.7	0 0.0
30～34歳	75 100.0	38 50.7	6 8.0	0 0.0	0 0.0	3 4.0	8 10.7	9 12.0	1 1.3	3 4.0	6 8.0	1 1.3
35～39歳	85 100.0	42 49.4	5 5.9	0 0.0	0 0.0	3 3.5	13 15.3	6 7.1	0 0.0	12 14.1	4 4.7	0 0.0
40～44歳	57 100.0	31 54.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 12.3	9 15.8	1 1.8	1 1.8	5 8.8	2 3.5	1 1.8
45～50歳	44 100.0	27 61.4	1 2.3	1 2.3	0 0.0	1 2.3	2 4.5	2 4.5	3 6.8	5 11.4	2 4.5	0 0.0

転出の主なきっかけの具体的内容をみると、「あなたの仕事の都合」と回答した方のうち、7割強の方が「転勤」で最も割合が高く、「転職」が2割弱、「就職」「退職」はごく小さい割合となっている。

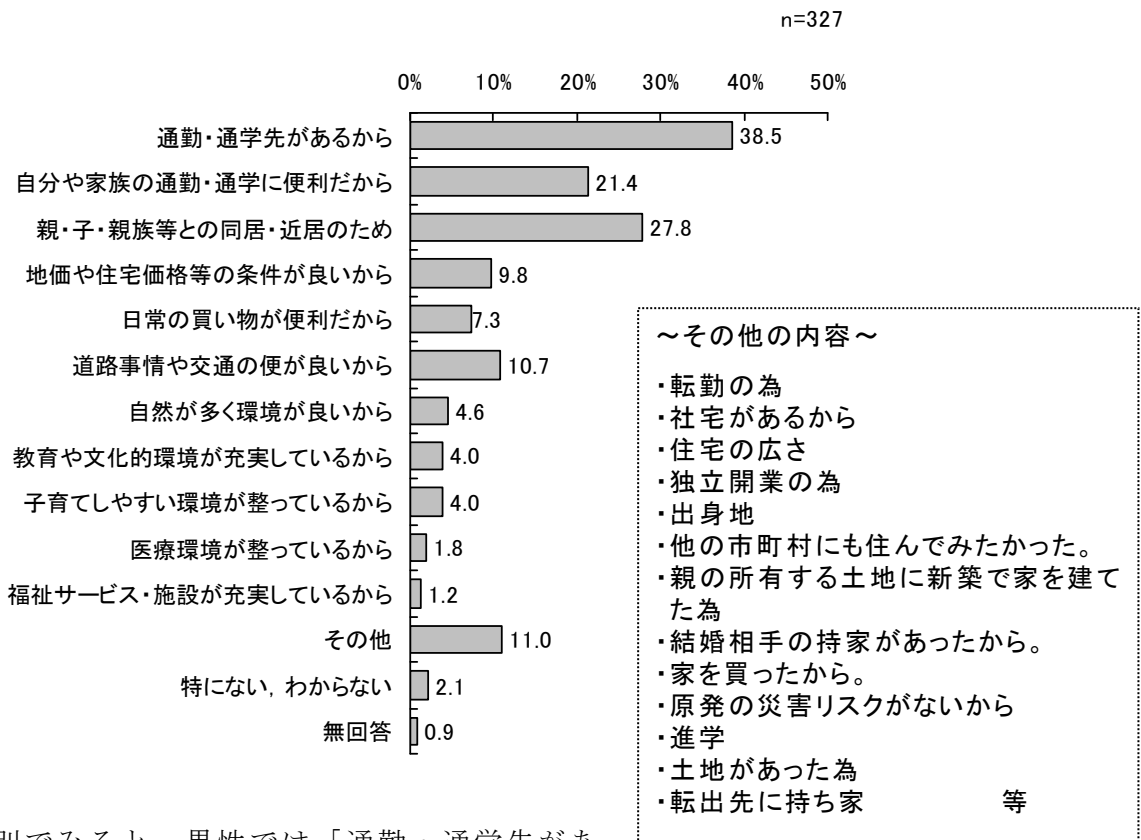
また、「あなたの配偶者の仕事の都合」と回答した方のうち、5割台半ばの方が「転勤」で最も高くなっている。

「住宅の都合」と回答した方のうち、4割の方が「広さ」で最も割合が高く、次いで「その他」となっており、その他の内容は「新築した」「住宅を購入した」などの回答が多く挙げられている。



(10) 転出を決めた主な理由 [問 10]

「通勤・通学先があるから」(38.5%)の割合が最も高く、次いで「親・子・親族等との同居・近居のため」(27.8%)、「自分の家族の通勤・通学に便利だから」(21.4%)などとなっている。



男女別でみると、男性では「通勤・通学先があるから」「地価や住宅価格等の条件が良いから」、女性では「親・子・親族等との同居・近居のため」「自分や家族の通勤・通学に便利だから」の割合が比較的高くなっている。

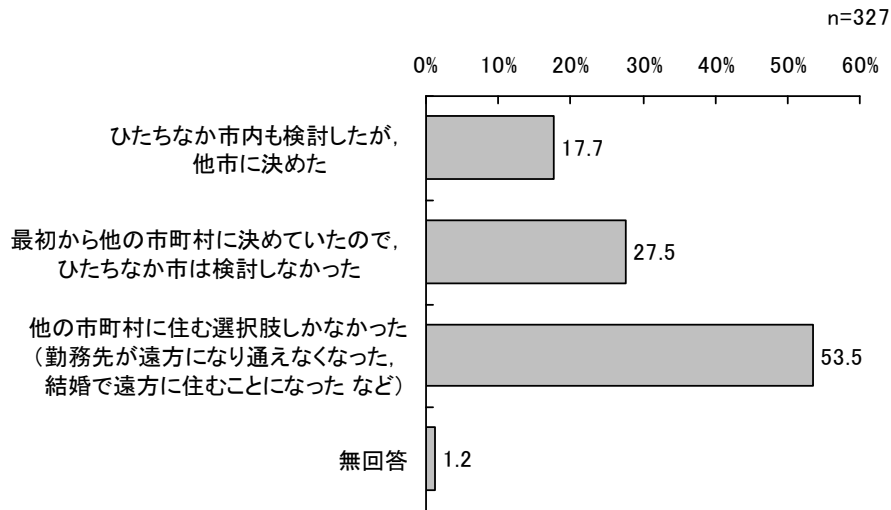
年齢別でみると、25～34歳の年代で「自分や家族の通勤・通学に便利だから」「道路事情や交通の便が良いから」、35～39歳で「地価や住宅価格等の条件が良いから」、45～50歳で「親・子・親族等との同居・近居のため」が比較的高くなっている。

■男女・年齢別

上段:件 下段:%	合計	通勤・通学先があるから	自分や家族の通勤・通学に便利だから	親・子・親族等との同居・近居のため	地価や住宅価格等の条件が良いから	日常の買い物が便利だから	道路事情や交通の便が良いから	自然が多く環境が良いから	教育や文化的環境が充実しているから	子育てしやすい環境が整っているから	医療環境が整っているから	福祉サービス・施設が充実しているから	その他	特にない、わからない	無回答
全体	327 100.0	126 38.5	70 21.4	91 27.8	32 9.8	24 7.3	35 10.7	15 4.6	13 4.0	13 4.0	6 1.8	4 1.2	36 11.0	7 2.1	3 0.9
男性	251 100.0	112 44.6	51 20.3	64 25.5	28 11.2	19 7.6	26 10.4	10 4.0	12 4.8	10 4.0	5 2.0	3 1.2	24 9.6	4 1.6	2 0.8
女性	75 100.0	14 18.7	19 25.3	27 36.0	4 5.3	5 6.7	9 12.0	5 6.7	1 1.3	3 4.0	1 1.3	1 1.3	16.0 21.3	3 4.0	0 0.0
20～24歳	12 100.0	4 33.3	0 0.0	6 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 16.7	1 8.3	0 0.0
25～29歳	52 100.0	19 36.5	16 30.8	14 26.9	4 7.7	9 17.3	10 19.2	3 5.8	1 1.9	3 5.8	0 0.0	0 0.0	7 13.5	0 0.0	0 0.0
30～34歳	75 100.0	25 33.3	21 28.0	17 22.7	7 9.3	5 6.7	13 17.3	4 5.3	3 4.0	5 6.7	1 1.3	2 2.7	8 10.7	3 4.0	1 1.3
35～39歳	85 100.0	35 41.2	13 15.3	24 28.2	12 14.1	4 4.7	6 7.1	5 5.9	3 3.5	2 2.4	2 2.4	1 1.2	8 9.4	1 1.2	0 0.0
40～44歳	57 100.0	26 45.6	13 22.8	16 28.1	6 10.5	4 7.0	3 5.3	2 3.5	3 5.3	1 1.8	2 3.5	1 1.8	5 8.8	1 1.8	1 1.8
45～50歳	44 100.0	16 36.4	7 15.9	14 31.8	3 6.8	2 4.5	3 6.8	1 2.3	3 6.8	2 4.5	1 2.3	0 0.0	6 13.6	1 2.3	0 0.0

(11) 転出前に市内での転居を検討したかどうか [問 11]

転出前に市内での転居を検討したかどうかについてたずねたところ、「他の市町村に住む選択肢しかなかった（勤務先が遠方になり通えなくなった，結婚で遠方に住むことになった など）」（53.5%）との回答が半数を超えており、「最初から他の市町村に決めていたので，ひたちなか市は検討しなかった」（27.5%）と回答した方とあわせると，約8割の方が市内での転居の可能性を考えなかったという結果となった。「ひたちなか市内も検討したが，他市に決めた」（17.7%）の回答は，2割に届かず5人に1人を下回る割合となっている。



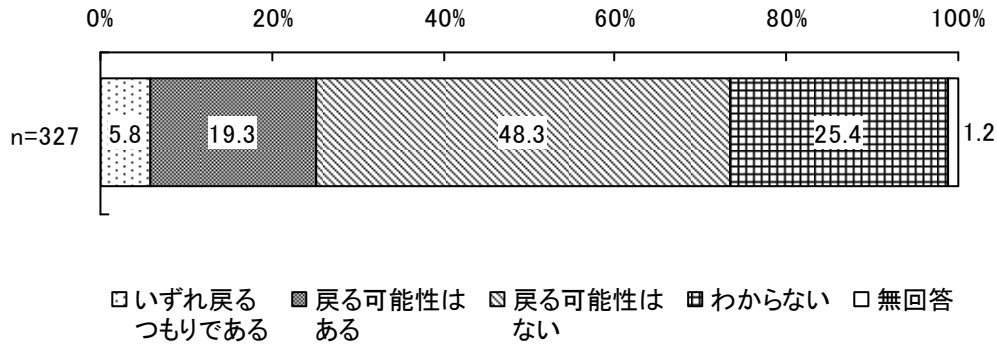
男女別では特に大きな差はみられないが，年齢別では 25～29 歳で「最初から他の市町村に決めていたので，ひたちなか市は検討しなかった」，45～50 歳で「ひたちなか市内も検討したが，他市に決めた」の割合がやや高くなっている。

■ 男女・年齢別

上段: 件 下段: %	合計	ひたちなか市内も検討したが、他市に決めた	最初から他の市町村に決めていたので、ひたちなか市は検討しなかった	他の市町村に住む選択肢しかなかった（勤務先が遠方になり通えなくなった、結婚で遠方に住むことになった など）	無回答
	全体	327 100.0	58 17.7	90 27.5	175 53.5
男性	251 100.0	46 18.3	72 28.7	130 51.8	3 1.2
女性	75 100.0	12 16.0	18 24.0	45 60.0	0 0.0
20～24歳	12 100.0	1 8.3	4 33.3	7 58.3	0 0.0
25～29歳	52 100.0	8 15.4	19 36.5	25 48.1	0 0.0
30～34歳	75 100.0	14 18.7	20 26.7	40 53.3	1 1.3
35～39歳	85 100.0	15 17.6	20 23.5	50 58.8	0 0.0
40～44歳	57 100.0	10 17.5	19 33.3	27 47.4	1 1.8
45～50歳	44 100.0	10 22.7	8 18.2	25 56.8	1 2.3

(12) 将来ひたなか市に戻ることがあると思うか [問 12]

半数近くの方が「戻る可能性はない」(48.3%)と回答している。一方、「いずれ戻るつもりである」(5.8%)の割合は高くないが、「戻る可能性はある」(19.3%)と合わせた『将来的に戻る可能性がある』方は25.1%で、約4人に1人の割合となっている。



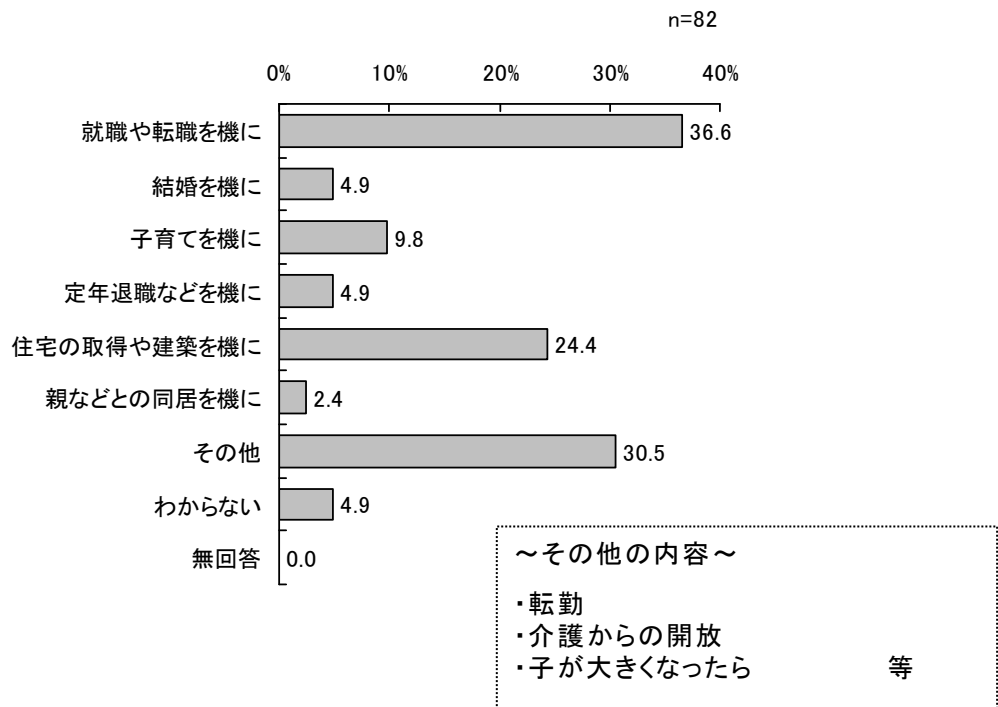
男女別では特に大きな差はみられないが、年齢別では25～29歳で「戻る可能性がある」、45～50歳で「いずれ戻るつもりである」の割合が高く、ともに『将来的に戻る可能性がある』方の割合がやや高くなっている。

■ 男女・年齢別

上段:件 下段:%	合計	いずれ戻 るつも りである	戻る可能 性はある	戻る可能 性はない	わからな い	無回答
全体	327 100.0	19 5.8	63 19.3	158 48.3	83 25.4	4 1.2
男性	251 100.0	14 5.6	49 19.5	123 49.0	62 24.7	3 1.2
女性	75 100.0	5 6.7	14 18.7	35 46.7	21 28.0	0 0.0
20～24歳	12 100.0	1 8.3	2 16.7	4 33.3	5 41.7	0 0.0
25～29歳	52 100.0	3 5.8	12 23.1	26 50.0	11 21.2	0 0.0
30～34歳	75 100.0	2 2.7	14 18.7	37 49.3	21 28.0	1 1.3
35～39歳	85 100.0	4 4.7	18 21.2	38 44.7	25 29.4	0 0.0
40～44歳	57 100.0	4 7.0	8 14.0	33 57.9	10 17.5	2 3.5
45～50歳	44 100.0	5 11.4	8 18.2	20 45.5	11 25.0	0 0.0

(13) 戻るとしたらそのきっかけは [問 12-1]

「就職や転職を機に」(36.6%)の割合が最も高く、次いで「住宅の取得や建築を機に」(24.4%)、「子育てを機に」(9.8%)などとなっている。



男女別でみると、男性では「子育てを機に」、女性では「結婚を機に」「親などとの同居を機に」がやや高くなっている。

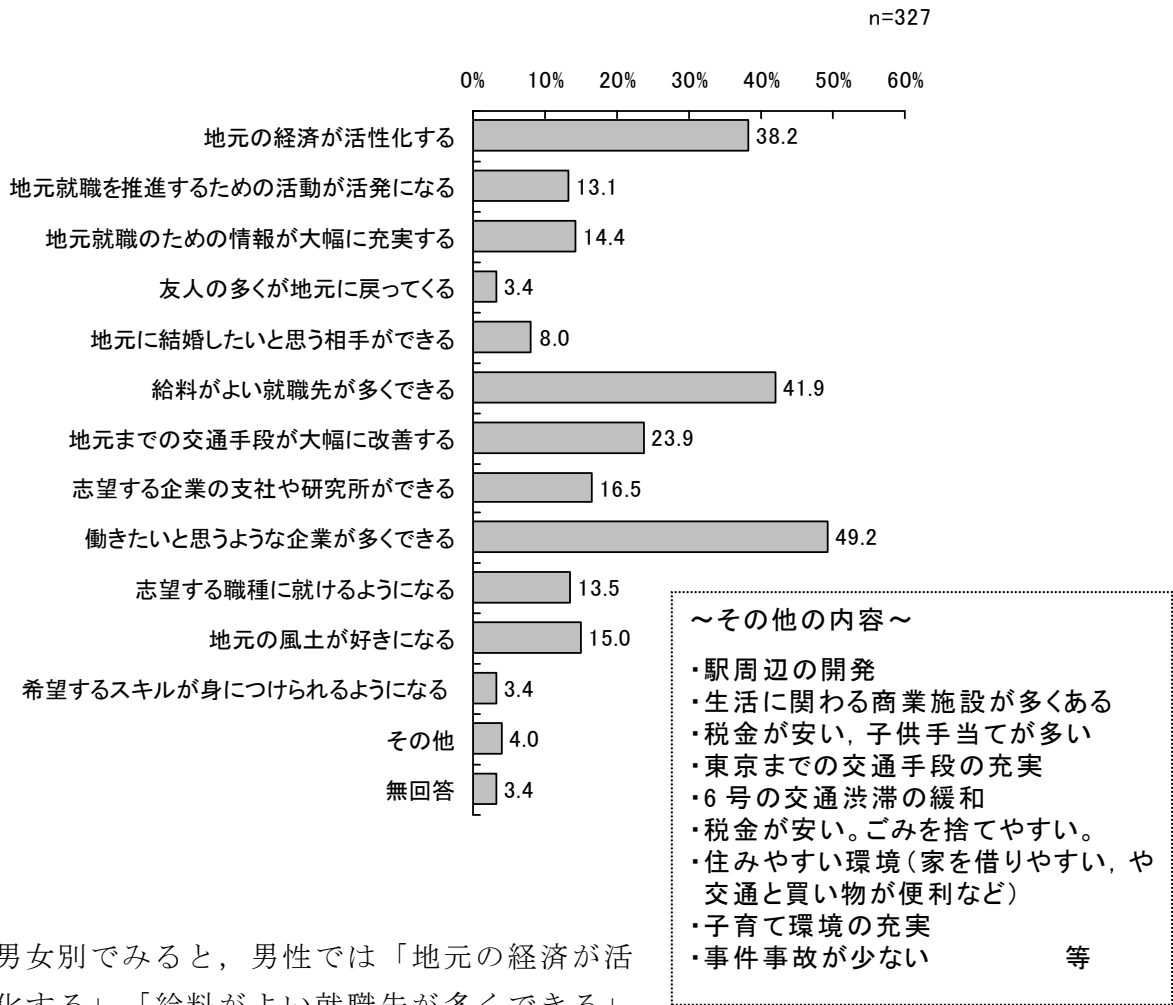
年齢別でみると、25～29歳で「住宅の取得や建築を機に」「子育てを機に」の割合がやや高い。

■男女・年齢別

上段:件 下段:%	合計	就職や転職を機に	結婚を機に	子育てを機に	定年退職などを機に	住宅の取得や建築を機に	親などとの同居を機に	その他	わからない	無回答
全体	82 100.0	30 36.6	4 4.9	8 9.8	4 4.9	20 24.4	2 2.4	25 30.5	4 4.9	0 0.0
男性	63 100.0	25 39.7	1 1.6	7 11.1	3 4.8	16 25.4	0 0.0	19 30.2	2 3.2	0 0.0
女性	19 100.0	5 26.3	3 15.8	1 5.3	1 5.3	4 21.1	2 10.5	6 31.6	2 10.5	0 0.0
20～24歳	3 100.0	1 33.3	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
25～29歳	15 100.0	4 26.7	0 0.0	4 26.7	0 0.0	10 66.7	0 0.0	2 13.3	1 6.7	0 0.0
30～34歳	16 100.0	8 50.0	1 6.3	1 6.3	0 0.0	4 25.0	0 0.0	5 31.3	1 6.3	0 0.0
35～39歳	22 100.0	8 36.4	0 0.0	1 4.5	2 9.1	2 9.1	2 9.1	10 45.5	0 0.0	0 0.0
40～44歳	12 100.0	6 50.0	0 0.0	1 8.3	1 8.3	1 8.3	0 0.0	4 33.3	0 0.0	0 0.0
45～50歳	13 100.0	3 23.1	0 0.0	0 0.0	1 7.7	3 23.1	0 0.0	4 30.8	2 15.4	0 0.0

(14) ひたちなか市で就職する方の増加のために必要と思うこと [問 13]

「働きたいと思うような企業が多くできる」(49.2%)の割合が最も高く、次いで「給料がよい就職先が多くできる」(41.9%)、「地元の経済が活性化する」(38.2%)などの順となっている。



男女別でみると、男性では「地元の経済が活性化する」「給料がよい就職先が多くできる」といった項目でより回答の割合が高くなっている。

年齢別でみると、20～34歳の若い年代で「地元までの交通手段が大幅に改善する」、35～39歳で「給料がよい就職先が多くできる」、45～50歳で「地元の風土が好きになる」などの割合が比較的高くなっている。

■男女・年齢別

上段:件 下段:%	合計	地元の経済が活性化する	地元就職を推進するための活動が活発になる	地元就職のための情報が大幅に充実する	友人の多くが地元に戻ってくる	地元で結婚したいと思う相手ができる	給料がよい就職先が多くできる	地元までの交通手段が大幅に改善する	志望する企業の支社や研究所ができる	働きたいと思うような企業が多くできる	志望する職種に就けるようになる	地元の風土が好きになる	希望するスキルが身につけられるようになる	その他	無回答
全体	327 100.0	125 38.2	43 13.1	47 14.4	11 3.4	26 8.0	137 41.9	78 23.9	54 16.5	161 49.2	44 13.5	49 15.0	11 3.4	13 4.0	11 3.4
男性	251 100.0	100 39.8	34 13.5	33 13.1	8 3.2	19 7.6	111 44.2	58 23.1	44 17.5	121 48.2	35 13.9	40 15.9	8 3.2	9 3.6	5 2.0
女性	75 100.0	25 33.3	9 12.0	14 18.7	3 4.0	7 9.3	26 34.7	20 26.7	10 13.3	40 53.3	9 12.0	9 12.0	3 4.0	4 5.3	5 6.7
20～24歳	12 100.0	7 58.3	1 8.3	3 25.0	0 0.0	1 8.3	5 41.7	6 50.0	0 0.0	4 33.3	2 16.7	1 8.3	1 8.3	1 8.3	0 0.0
25～29歳	52 100.0	19 36.5	9 17.3	9 17.3	1 1.9	8 15.4	19 36.5	19 36.5	8 15.4	24 46.2	8 15.4	9 17.3	2 3.8	1 1.9	1 1.9
30～34歳	75 100.0	16 21.3	9 12.0	10 13.3	3 4.0	11 14.7	31 41.3	25 33.3	20 26.7	28 37.3	7 9.3	10 13.3	0 0.0	4 5.3	2 2.7
35～39歳	85 100.0	36 42.4	11 12.9	10 11.8	2 2.4	4 4.7	41 48.2	12 14.1	14 16.5	44 51.8	13 15.3	8 9.4	5 5.9	4 4.7	3 3.5
40～44歳	57 100.0	26 45.6	7 12.3	6 10.5	4 7.0	2 3.5	25 43.9	8 14.0	7 12.3	31 54.4	8 14.0	10 17.5	2 3.5	2 3.5	3 5.3
45～50歳	44 100.0	21 47.7	6 13.6	8 18.2	1 2.3	0 0.0	15 34.1	8 18.2	5 11.4	29 65.9	6 13.6	11 25.0	1 2.3	1 2.3	1 2.3